

2023

ANNUAL REPORT No.21



基本理念

西条中央病院は「地域社会への奉仕の精神」に基づき生命の尊厳と人間愛を尊重し、親しまれ信頼される医療を提供します。

行動指針

1. 私達は 患者さん中心の医療を提供します。
2. 私達は 常に医療水準の向上に努めます。
3. 私達は 思いやりと同心協力の心を大切にします。
4. 私達は 患者さんの持つ権利を尊重します。
5. 私達は 開かれた医療を進めます。

西条中央病院倫理綱領

西条中央病院のすべての職員は

1. 人間の生命と、人間としての尊厳及び権利を尊重する。
2. 病める人びとを思いやり、差別のない医療サービスを提供する。
3. 守秘義務を遵守し、個人情報保護に努める。
4. 知る権利および自己決定の権利を尊重する。
5. 医療の内容を十分に説明し、信頼を得るように努める。
6. 互いに協力し、質の高い医療を提供する。
7. 継続的に学習し、常に個人の能力の維持・開発に努める。
8. 個人としての品行を高く維持し、法規範を遵守する。
9. 自身の心身の健康の保持増進に努める。
10. 医療を受ける人びとに最善を尽くす。

2023 年度年報発刊によせて

院長 風谷幸男

国民生活と医療に様々な影響をもたらした新型コロナウイルス感染症（コロナ）は、2023年5月8日に国の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に変更されました。さらに、9月末で重点医療機関制度が廃止され、コロナに対する国の補助金がほぼなくなりました。コロナ対応に尽力してきた医療機関は、アフターコロナへの円滑な移行という大きな課題に直面することになりました。

一方で、コロナ禍明けを機に、各地域で2040年問題を見据えた医療体制の再構築に向けた動きが加速し始めています。県内でも、病院統合や病床機能の改変などが話し合われている地域があります。生産年齢層が減る一方で、高齢者、特に、85歳以上の超高齢者が増え続けるため、求められる医療の質と量が変わるためです。今後、治す医療の需要が減り、治し切らない医療の需要が急速に増えることが予想されます。低侵襲化の流れも加速されています。当院のような中小規模のケアミックス病院は、明確なビジョンを持って病院運営を行わなければ、淘汰されかねません。

私は、以前から、医療は住民の安全保障を担っており、ニーズに即したものでなければならないと考えてきました。当院は様々な質の医療を担っています。その中で、欠かすことができない役割が質の高い急性期医療と2次救急を中心とする救急医療です。そこで、当院は「今まで以上に地域の救急医療に貢献するとともに、より高度で高齢者にも優しい急性期医療の実現に向けて、低侵襲手術や手技を積極的に導入し、需要の多い領域は地域完結型医療を推進する」ことを目指し、病院運営に努めてまいりたいと考えています。その実現に向けて、医師をはじめとする職員の確保や医療機器の整備を行い、診療機能の充実に努めてまいります。

医師の確保は、医局のご理解とお力を得ながら進めており、徐々に明るい兆しが見えてきています。若手医師を派遣していただくためには、教育体制が充実していなければなりません。最近、西条市も医師の確保に積極的に取り組んでおり、行政と力を合わせ、病院間の垣根を越えた医師の教育体制の構築に取り組んでいます。医療機器は、2023年度末にCTを256列の最新機種に更新しました。次に、アンギオ装置とMRI機器の更新が控えています。ロボット支援手術機器の導入も目指しています。

2023年度は、時代の変化と国の医療政策に対応しつつ、「当院が目指すべき病院像」を定め、できることから取り組んだ1年間であり、今も進行形です。年報には、職員各位が当院の役割を考え、夢を現実のものにするために前を向いて歩んだ軌跡が記されています。私は、何かあるたびに過去の年報に目を通しています。当院の歩みを短時間で把握出来るため、ゴールへの道しるべになるからです。その道のりは決して平坦ではありませんが、少しずつ前進し、ここにきて視界が開けつつあると感じています。この年報が、サマリーとしての役割を果たすとともに、私達に勇気を与え、次の一步を正しく踏み出すための一助になることを期待しています。

目 次

ページ

西条中央病院 基本理念、行動指針、倫理綱領
2023年度年報発刊によせて

1. 病院概要	
(1) 現況	1
(2) 沿革	5
(3) 組織図	8
(4) 各種委員会等	9
(5) 職員構成	10
2. 診療部門実績	
(1) 診療科別外来患者数	11
(2) 外来救急患者数	12
(3) 診療科別入院患者数	13
(4) 病棟別入院患者数	14
(5) 透析患者数及び回数	15
(6) 分娩数	15
(7) 診療科別手術件数	16
(8) 年度別科別手術件数集計表	23
(9) 麻酔件数	23
(10) 検査・処置実施件数	24
・超音波検査件数、内視鏡検査件数、内視鏡手術処置・超音波処置・腹部血管造影処置件数、 眼科検査・処置件数	24
・MRI撮影件数、CT撮影件数、CT・MRI撮影造影件数	25
・造影撮影件数、心血管カテーテル件数、心臓MR・CTA件数、骨塩量測定件数、 マンモグラフィ件数	26
・生理機能検査件数、細胞診検査数及び病理組織診検査件数	27
(11) 薬剤服薬指導件数	28
(12) 栄養指導件数	28
(13) 疾患別リハビリテーション延単位数	28
(14) 医療相談室実績	29
3. 介護部門実績	
(1) 介護保険利用件数	30
(2) 要介護状態区分別利用者数	30
4. 健康管理部門実績	
(1) 人間ドック及び健康診断受検者数	31
(2) 保健指導実施件数	31
(3) 健康教室の受講者数	31
5. 診療情報管理室統計	
(1) クリニカルパス使用件数	32
(2) 診療科別紹介（受入）患者数	34
(3) 地域別紹介（受入）患者実績	34
(4) 2023年度退院患者疾病別分類	35
6. 診療科別報告	
(1) 内科	47
(2) 循環器内科	49

(3) 糖尿病内科	51
(4) 小児科	52
(5) 外科	54
(6) 整形外科	55
(7) 産婦人科	56
(8) 放射線科	57
(9) 麻酔科	58
(10) 歯科	59
(11) 透析センター	60
7. 学術業績	
論文・学会・研究会・講演会発表	62
8. 臨床研修管理室活動報告	65
9. 看護部門報告	
(1) 2023年度看護部の取り組み	67
(2) 臨地実習実績	69
(3) 看護部研究業績	69
(4) 看護部資格取得者・研修受講終了者	70
(5) 助産師業務実績	71
(6) 看護の質向上委員会活動実績	72
(7) クリニカルラダー別研修実績	80
(8) SDGs委員会活動報告	81
10. 健康管理センター活動報告	89
11. 薬剤部活動報告	90
12. 臨床検査部活動報告	91
13. 画像診断部活動報告	93
14. 臨床工学部活動報告	94
15. 栄養治療部活動報告	95
16. 患者支援センター活動報告	96
(1) 地域医療連携室	96
(2) 医療相談室	97
(3) 入退院支援室	98
17. リハビリセンター活動報告	100
18. 通所リハビリテーション活動報告	101
19. 居宅介護支援事業所活動報告	102
20. 訪問看護ステーション活動報告	103
21. 医療安全管理室活動報告	104
22. 新型コロナウイルス感染症	107
23. 院内感染対策委員会活動報告	110
24. 教育研修実績	113
25. 2023年度の出来事	118
(1) この1年の主要行事	118
(2) TQCサークル活動	119
26. 表彰 永年勤続表彰	120

1. 病院概要

(1) 現況

名称	社会医療法人同心会 西条中央病院
所在地	愛媛県西条市朔日市 804 番地
開設者	社会医療法人同心会 理事長 伊藤正明
管理者	院長 風谷幸男
許可病床数	242 床 一般病床 240 床 感染症病床 2 床(一般病棟 97 床、地域包括ケア病棟 57 床、障害者施設等一般病棟 84 床、HCU4 床)
標榜科目	内科、循環器内科、糖尿病内科、小児科、外科、消化器外科、内視鏡外科、乳腺外科、大腸外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科 脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科 麻酔科、歯科、歯科口腔外科
併設施設	健康管理センター (人間ドック・健診)、透析センター 通所リハビリテーション「ふれあい」 指定居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション
敷地面積	36,807.85 m ²
建物概要	
2 番館	歯科、栄養治療部、栄養指導室、医療安全管理室、院内感染対策室 臨床研修医室、事務部、診療情報管理室、地域包括ケア病棟 (3 階) 障害者病棟 (4 階、5 階)、訪問看護ステーション、カフェ パン屋 (外部運営)
3 番館	住宅型有料老人ホーム「ココロココ西条」(外部運営)
4 番館	画像診断部、健康管理センター、医局
5 番館	各科外来、画像診断部、内視鏡室、中央処置室、救急室、外来化学療法室 臨床検査部、薬剤部、手術室、中央材料室、サテライト医局 患者支援センター (医療相談室、地域医療連携室、入退院支援室) 事務部、売店 (外部運営)、 地域包括ケア病棟 (3 階)、一般病棟 (4 階、5 階)、HCU (5 階)
透析・リハビリ棟	透析センター、リハビリテーションセンター
その他	通所リハビリテーション「ふれあい」、認可保育所 (外部運営)
職員数	446 名 (2024 年 3 月 31 日現在)

承認及び届出事項（2024年3月31日現在）

基本診療料の施設基準

- 急性期一般入院基本料 1
- 障害者施設等入院基本料（10 対 1）
 - 看護補助体制充実加算（障害者施設等入院基本料の注 9）
- 地域包括ケア病棟入院料 2
 - 看護職員配置加算
 - 看護補助体制充実加算
 - 看護職員夜間配置加算
- ハイケアユニット入院医療管理料 1
- 小児入院医療管理料 4
 - 注 2 に規定する加算
- 救急医療管理加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算 1（20 対 1）
- 急性期看護補助体制加算（25 対 1 看護補助者 5 割以上）
 - 夜間看護体制加算
 - 夜間急性期看護補助体制加算（夜間 100 対 1）
 - 看護補助体制充実加算
- 看護職員夜間配置加算
- 特殊疾患入院施設管理加算
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算 1
 - 医療安全対策地域連携加算 1
- 感染対策向上加算 1
 - 指導強化加算
- 患者サポート体制充実加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- データ提出加算
- 入退院支援加算 1
 - 入院時支援加算
 - 総合機能評価加算
- 認知症ケア加算 2
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 入院時食事療養（Ⅰ）
- 特別の療養環境の提供に係る加算

初診料（歯科）の注1に掲げる基準

歯科外来診療環境体制加算

看護職員処遇改善評価料

特掲診療料の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算

糖尿病合併症管理料

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料ロ

糖尿病透析予防指導管理料

小児運動器疾患指導管理料

乳腺炎重症化予防・ケア指導料

婦人科特定疾患治療管理料

二次性骨折予防継続管理料 1

二次性骨折予防継続管理料 2

二次性骨折予防継続管理料 3

院内トリアージ実施料

救急搬送看護体制加算 1

外来腫瘍化学療法診療料

がん治療連携指導料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料 1

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定

先天性代謝異常症検査

H P V核酸検出及びH P V核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）

検体検査管理加算（IV）

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

ヘッドアップティルト試験

コンタクトレンズ検査料 1

小児食物アレルギー負荷検査

画像診断管理加算 1

画像診断管理加算 2

C T撮影（64列以上マルチスライス型）及びMR I撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満）

冠動脈C T撮影加算

心臓MR I撮影加算

乳房MR I撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算 1

無菌製剤処理料

心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
がん患者リハビリテーション料
人工腎臓
導入期加算 1
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
椎間板内酵素注入療法
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下剥離術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術
輸血管管理料Ⅱ
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料Ⅰ
保険医療機関間の連携による病理診断
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科治療時医療管理料
CAD／CAM冠
歯科口腔リハビリテーション料 2

(2) 沿革

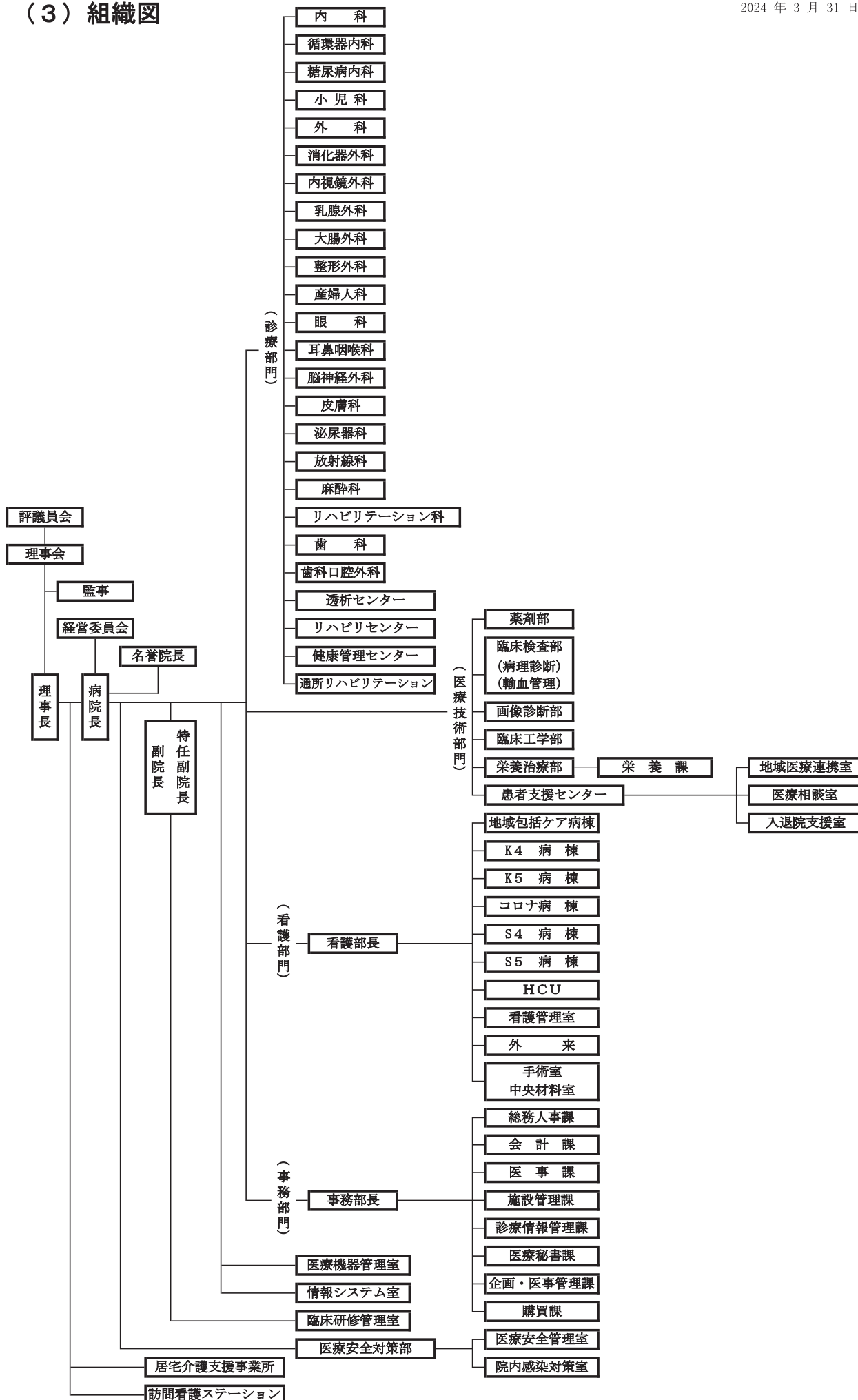
- 1954年 4月 財団法人倉敷中央病院分院西条中央病院を設立
創 立 者 (株)クラレ元社長 大原総一郎
主 旨 西条市を中心とする地域医療を補完し、市民の健康を支えることを
目標とする
診 療 科 内科、小児科、外科、眼科、産婦人科、放射線科、歯科
病 床 数 60床
初代院長 生野 正 就任
- 1959年 7月 西条市と隔離病棟の委託管理契約締結
108床に増床
- 1962年 3月 耳鼻咽喉科新設、病床数129床に増床
- 1962年 9月 総合病院の承認
- 1963年 1月 病床数159床に増床
- 1968年 1月 第2代院長に 有重嘉久 就任
- 1970年 5月 病床数184床に増床
- 1973年 9月 整形外科を新設、リハビリテーション施設を設置
- 1982年 4月 病床数240床に増床(3番館増設)
第3代院長に 弓場意出夫 就任
- 1984年 3月 CT導入
- 1984年10月 財団法人倉敷中央病院から独立し、医療法人同心会西条中央病院を開設
初代医療法人同心会理事長に 平田 求(株)クラレ元取締役) 就任
- 1986年 3月 2番館改築工事完成
- 1986年 6月 第2代医療法人同心会理事長に 中村尚夫(株)クラレ元社長) 就任
- 1990年 3月 4番館新築
MRI導入
人間ドック開始、人工透析体制整備(血液ろ過透析開始)
保育所設置(定員20名)
- 1991年 3月 水・土曜日午後休診制実施(変則週休2日)
- 1995年 5月 療養型病床群 3番館1階55床指定
240床[一般病床185床、療養型病床55床]
- 1996年 1月 訪問看護ステーション開設
- 1997年 9月 リハビリテーション科新設、2番館増築、管理棟新設
- 1998年 3月 西条市大保木診療所の診療を受託(週2回)
- 1999年 3月 感染症病床2床設置、病床数242床に増床
242床[一般病床185床、療養型病床55床、感染症病床2床]
心臓血管撮影装置導入
- 1999年 7月 薬剤院外処方開始
- 1999年11月 居宅介護支援事業開始
- 1999年12月 MRI更新(1.5テスラ)
- 2000年 4月 療養型病棟55床の中2室8床を指定介護療養型医療施設として認定
- 2000年 6月 第4代院長に 高田泰治 就任
- 2000年12月 西条市立病棟(旧隔離病棟)の有償譲渡を受ける
- 2001年 5月 西条市立病棟を撤去し、通所リハビリテーション“ふれあい”(20名定員)を建設
運用開始

2002 年 1 月 病院機能評価〔複合病院種別 B〕認定
 2002 年 4 月 麻酔科標榜
 2002 年 5 月 CT 更新 (8 チャンネル・マルチスライス型)
 2002 年 9 月 療養病棟の指定介護療養型医療施設を 20 床に変更
 2003 年 2 月 インターネットホームページ開設
 2003 年 3 月 医療法病床区分届出実施 [一般病床 186 床、療養病床 54 床、感染症病床 2 床]
 2003 年 4 月 通所リハビリテーション 2 単位 (定員 40 名) に変更
 2004 年 3 月 西条市大保木診療所の診療を移譲
 2004 年 4 月 病院創立 50 周年・同心会設立 20 周年記念式
 2004 年 9 月 デジタルマンモグラフィ撮影装置導入
 亜急性期入院医療管理料 (8 床) 認定
 2005 年 2 月 CT 更新 (16 チャンネル・マルチスライス型)
 2005 年 5 月 亜急性期入院医療管理料 8 床から 16 床に変更
 2006 年 1 月 療養病床 54 床のうち介護型 20 床を医療型に変更
 2006 年 3 月 特定医療法人に認定
 2006 年 4 月 院内保育園を西条市認可保育園「わかば保育園」に移管
 分娩中止
 2006 年 7 月 3 番館 2 階一般病棟から障害者病棟に変更 (障害者施設等入院基本料 3 13 対 1)
 2006 年 8 月 臨床工学科新設
 2007 年 1 月 病院機能評価 Ver. 5.0 認定
 2007 年 2 月 循環器科設置
 2007 年 8 月 訪問看護ステーション廃止
 2007 年 9 月 管理型臨床研修病院に指定
 2008 年 5 月 一般病棟入院基本料 2 (10 対 1) に移行
 隔週土曜日休診制実施
 2008 年 6 月 中村理事長逝去
 2008 年 7 月 第 3 代医療法人同心会理事長に 和久井康明 就任
 分娩再開
 2008 年 8 月 透析・リハビリテーション棟稼働開始
 3 番館 1 階を療養病棟から障害者病棟に変更 (障害者施設等入院基本料 3 13 対 1)
 2008 年 10 月 健康管理センター設置
 2009 年 4 月 障害者施設入院基本料 2 (10 対 1) 移行
 2009 年 6 月 小児リハビリテーション開始
 2009 年 12 月 社会医療法人に認定
 2010 年 2 月 CT 更新 (64 列)
 2010 年 6 月 特別養護老人ホーム設立運営に向け、社会福祉法人同心会設立
 2011 年 2 月 一般病棟入院基本料 1 (7 対 1) 移行
 2011 年 4 月 特別養護老人ホーム「ついたちの里」開設 (社会福祉法人同心会)
 2011 年 8 月 心臓血管撮影装置更新
 2011 年 12 月 敷地内禁煙開始
 2012 年 1 月 病院機能評価 Ver. 6.0 認定
 2012 年 4 月 DPC 準備病院開始
 2012 年 5 月 MRI 更新 (1.5 テスラ)
 2012 年 5 月 患者用食堂新設 (S cafe centre)
 2013 年 4 月 電子カルテ運用開始
 2013 年 5 月 亜急性期病床増床 (16 床→20 床)

- 2013年 8月 東予東部小児2次救急輪番制開始
- 2014年 4月 DPC病院開始
- 2014年 9月 基幹型臨床研修病院に認定
- 2014年 10月 亜急性期病床廃止、地域包括ケア病棟設置（2番館3階 35床）
- 2015年 12月 新病院棟（5番館）稼働開始
- 2015年 12月 5病棟編成から6病棟編成へ移行
242床[一般病棟108床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病棟35床、
障害者病棟97床]
- 2016年 4月 基幹型臨床研修開始
- 2016年 4月 患者支援センター設置
- 2016年 7月 3番館閉鎖
- 2016年 7月 一般病床及び地域包括ケア病床の変更
242床[一般病棟82床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病棟65床、障害者病棟93床]
- 2017年 1月 病院機能評価3rdG:Ver.1.1認定
- 2017年 1月 1番館・旧リハビリ棟解体後、駐車場に整備
- 2017年 3月 耳鼻咽喉科休止
- 2017年 11月 一般病床及び地域包括ケア病床の変更
242床[一般病棟90床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病床57床、障害者病床93床]
- 2018年 10月 住宅型有料老人ホーム「ココロココ西条」開設（3番館を久保組に貸与）
- 2019年 7月 休日内科小児科一次救急体制開始（月1回）
- 2020年 4月 新型コロナウイルス感染症対策開始（発熱外来等）
- 2020年 6月 第5代院長に 風谷幸男 就任
- 2020年 6月 循環器ホットライン設置
- 2021年 3月 一般病床及び地域包括ケア病床の変更
242床[一般病棟94床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病棟53床、
障害者病棟93床]
- 2021年 3月 電子カルテ更新
- 2021年 4月 多機能型重症心身障害児（者）施設「piccolo」開設（社会福祉法人同心会）
- 2021年 4月 新型コロナウイルスワクチン接種開始
- 2021年 5月 第4代医療法人同心会理事長に 伊藤正明 就任
- 2021年 4月 ホームページリニューアル
- 2021年 7月 内科・小児科休日一次救急当番増回（月2回）
- 2022年 2月 新型コロナウイルス感染症重点医療機関認定
- 2022年 6月 耳鼻咽喉科外来診療再開（非常勤医師）
- 2023年 3月 病床の変更
242床[一般病棟116床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病棟30床、障害者病棟93床、
ハイケアユニット3床（開始）]
訪問看護ステーション再開
- 2023年 6月 心不全治療学寄附講座（愛媛大学医学部）開設
- 2023年 8月 病院機能評価3rdG:Ver.2.0 一般病院2 認定
- 2023年 10月 病床の変更
242床[一般病棟95床（内感染症病床2床）、地域包括ケア病棟57床、障害者病棟84床、
ハイケアユニット4床]

(3) 組織図

2024年3月31日



(4) 各種委員会など

2024年3月31日

診療体制・業務に関する委員会	開催頻度
がん診療委員会	年2回
－緩和ケアチーム会	月1回
－がん化学療法委員会	不定期
検体検査管理加算・適正化委員会	年2回
薬事審議委員会	年4回(3・6・9・12月)
入退院支援委員会	毎月第4金曜日
手術室運営委員会	月1回
各チーム会	
－糖尿病ケア推進チーム会	毎月第3水曜日
－心不全チーム会	毎月第1水曜日

経営に関する委員会	開催頻度
DPCコーディング委員会	年4回
設備投資検討委員会	年2回(9・2月)
SPD運用部会	奇数月第4火曜日

倫理に関する委員会	開催頻度
虐待防止委員会	年2回
倫理委員会	偶数月第4金曜日

学術・教育に関する委員会	開催頻度
治験審査委員会	偶数月第4金曜日
臨床研修管理委員会	年2回
教育研修委員会	年6回
図書委員会	年2回

医療の質の向上に関する委員会	開催頻度
医療安全管理委員会	毎月第3火曜日
輸血療法委員会	年6回
事故分析委員会	毎月第1月曜日
院内感染対策委員会	毎月第4月曜日
－感染制御チーム(ICT)	週1回
－抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	週1回
－感染対策・環境を考える会	毎月第3木曜日
－感染諮問会	月1回
クリニカルパス委員会	月1回
NST委員会	偶数月第3月曜日
栄養委員会	偶数月第3月曜日
褥瘡対策委員会	毎月第2金曜日
接遇委員会	毎月第3金曜日
医療ガス安全管理委員会	年2回
医療放射線安全管理委員会	年1回
透析機器安全管理委員会	毎月第3火曜日
各チーム会	
－認知症ケアチーム会	月1回
－身体的拘束最小化チーム	月1回

管理・運営に関する委員会	開催頻度
病床管理委員会	週1回
診療情報管理委員会	年2回
安全衛生委員会	毎月第4月曜日
個人情報管理委員会	年1回
病院広報推進委員会	毎月第1水曜日
大規模災害対策委員会	毎月第3水曜日
診療管理会議	月1回
勤務医負担軽減及び看護師負担軽減会	年3回(4・10・3月)
機能評価受審推進委員会	不定期
TQC推進委員会	年2回

(5) 職員構成

2024年3月31日現在

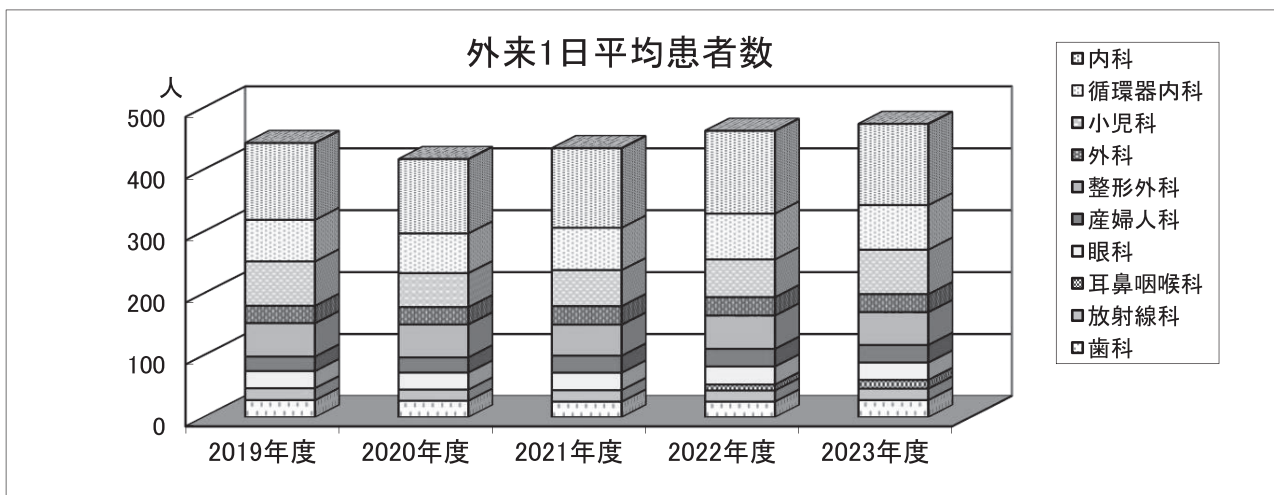
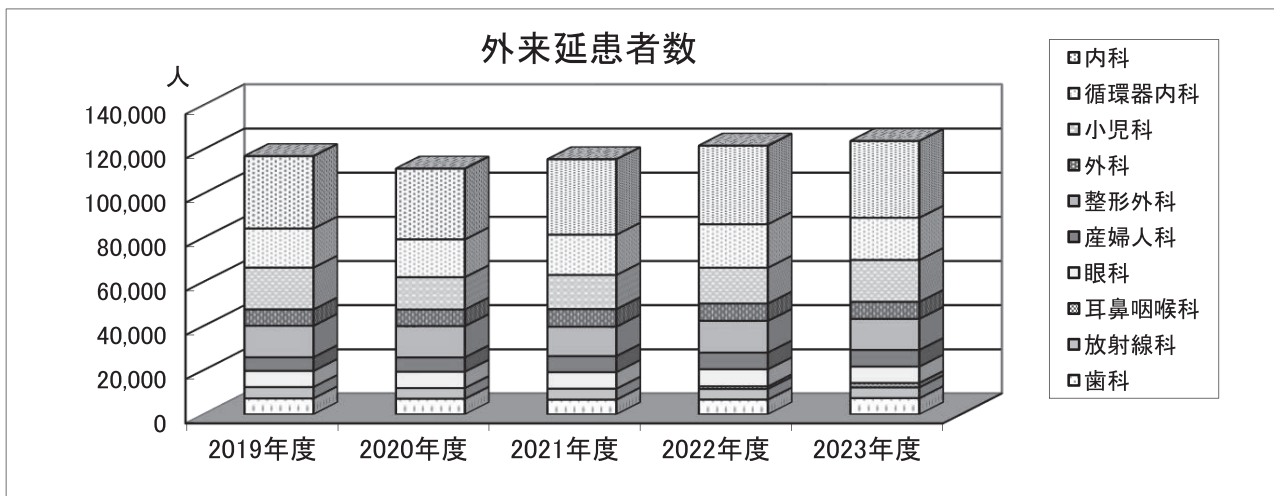
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医 師	内 科	3	3	3	3	3
	循 環 器 内 科	4	6	6	7	7
	小 児 科	3	3	3	3	3
	外 科	3	3	3	3	4
	整 形 外 科	2	2	2	2	2
	産 婦 人 科	2	2	2	2	2
	眼 科	1	1	1	1	0
	耳 鼻 咽 喉 科	0	0	0	0	0
	放 射 線 科	2	2	2	2	2
	麻 酔 科	1	1	1	1	3
	泌 尿 器 科	0	0	0	0	0
	臨床検査部(病理)	1	1	1	1	1
	歯 科	1	1	1	1	1
	臨 床 研 修 医	4	2	4	4	3
小 計	27	27	29	30	31	
薬 剤 師		11	12	12	10	9
看 護 師	保 健 師	4	4	4	4	4
	助 産 師	7	10	10	9	11
	看 護 師	176	175	176	170	174
	准 看 護 師	14	13	12	11	10
	小 計	201	202	202	194	199
医 療 技 術 職	放 射 線 技 師	10	10	10	10	10
	臨 床 検 査 技 師	12	11	13	13	12
	理 学 療 法 士	17	18	19	18	18
	作 業 療 法 士	10	8	8	10	10
	言 語 聴 覚 士	4	4	3	3	3
	視 能 訓 練 士	1	1	1	1	1
	臨 床 工 学 技 士	14	14	14	12	13
	歯 科 衛 生 士	4	4	4	4	4
	管 理 栄 養 士	3	3	3	3	3
	健 康 運 動 指 導 士	1	1	1	1	1
	介 護 福 祉 士	5	9	14	17	20
	介 護 福 祉 士 (通 所)	6	7	7	6	6
	保 育 士	1	2	2	2	2
	小 計	88	92	99	100	103
ケ ア ス タ ッ プ 他 補 助 職	ケ ア ス タ ッ プ	36	33	29	28	24
	ケ ア ス タ ッ プ (通 所)	3	2	1	1	2
	補 助 員 (薬, 検, 放 他)	8	9	7	9	9
	小 計	47	44	37	38	35
事 務 職	医 療 ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	4	4	4	3	3
	診 療 情 報 管 理 士	2	2	2	2	2
	一 般 事 務	36	38	34	32	32
	医 療 秘 書	13	13	14	12	14
	医 療 事 務	10	9	11	11	11
	小 計	65	66	65	60	62
合 計		439	443	444	432	439
居 宅 介 護 支 援 事 業 所		4	4	3	3	3
訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン					3	3
総 合 計		443	447	447	438	445

注:パート休職職員を含む

2. 診療部門実績

(1) 診療科別外来患者数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均
内科	28,496	107.9	27,893	104.5	29,891	112.4	31,266	117.5	30,490	115.1
循環器内科	17,712	67.1	17,118	64.1	18,193	68.4	19,681	74.0	19,117	72.1
小児科	18,926	71.7	14,630	54.8	15,490	58.2	16,233	61.0	18,996	71.7
外科	4,932	18.7	5,035	18.9	5,594	21.0	5,377	20.2	5,418	20.4
整形外科	14,259	54.0	14,166	53.1	13,341	50.2	14,361	54.0	14,084	53.1
産婦人科	6,206	23.5	6,535	24.5	7,284	27.4	7,563	28.4	7,533	28.4
眼科	7,298	27.6	7,379	27.6	7,515	28.3	7,728	29.1	7,435	28.1
耳鼻咽喉科							1,195	9.7	1,981	14.0
放射線科	5,100	19.3	4,817	18.0	4,918	18.5	4,791	18.0	4,892	18.5
歯科	7,306	27.7	7,132	26.7	6,721	25.3	6,736	25.3	7,368	27.8
泌尿器科	4,272	18.7	4,161	16.7	4,291	17.7	4,310	17.7	4,270	17.6
皮膚科	1,598	17.6	1,592	16.4	1,407	15.0	1,604	16.5	1,396	15.0
脳外科	870	17.8	879	17.6	920	18.8	869	18.1	866	11.9
合計	116,975	443.1	111,337	417.0	115,565	434.5	121,714	457.6	123,846	467.3



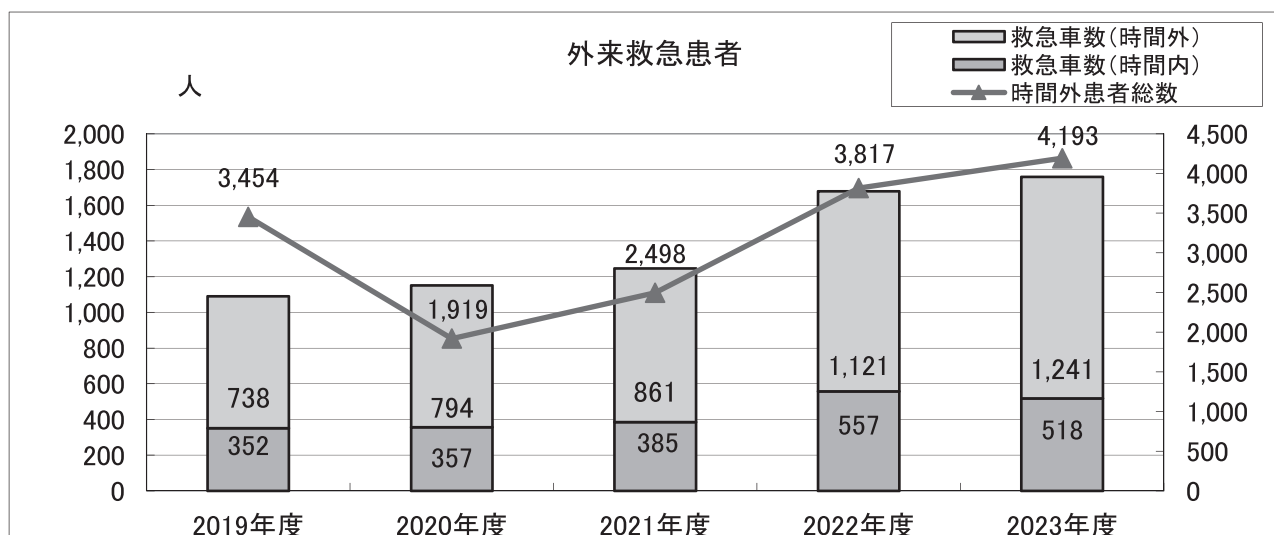
(2) 外来救急患者数

1) 救急車搬送患者数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	時間内	時間外	時間内	時間外	時間内	時間外	時間内	時間外	時間内	時間外
内 科										
循環器内科	217	443	230	520	247	563	355	693	342	830
小 児 科	33	118	23	81	28	107	44	173	56	166
外 科	25	27	27	45	25	72	32	89	26	81
整形外科	71	150	74	148	81	117	125	161	92	161
産婦人科	5	0	3	0	4	1	1	3	1	2
眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科							0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1
歯 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	352	738	357	794	385	861	557	1121	518	1241
合 計	1,090		1,151		1,246		1,678		1,759	

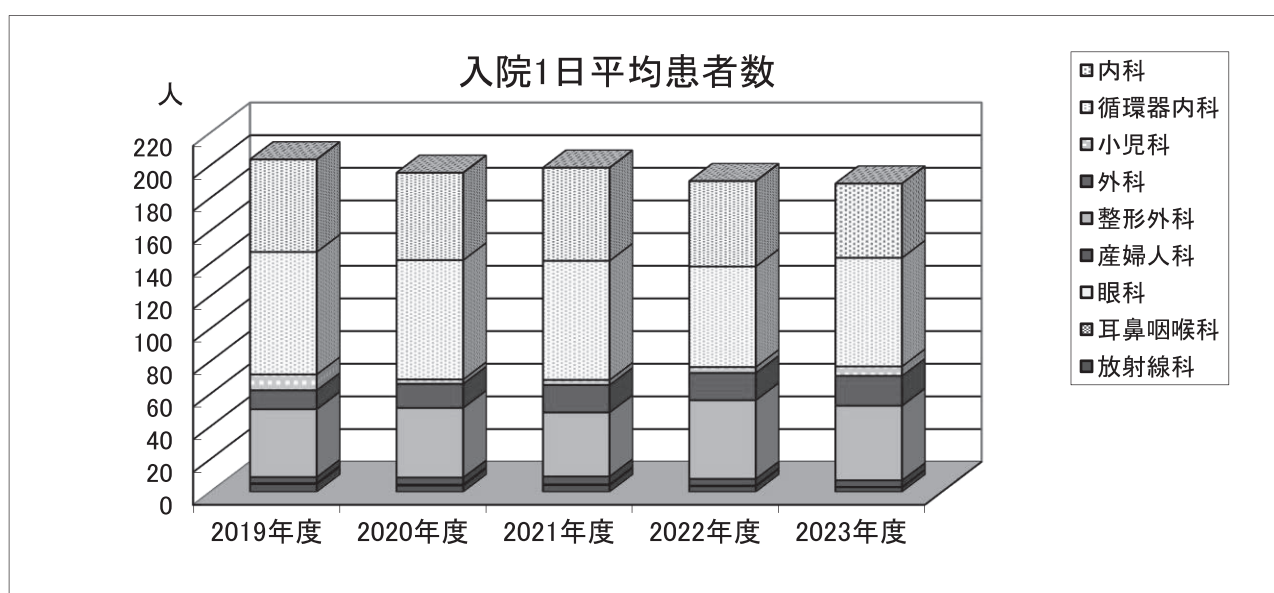
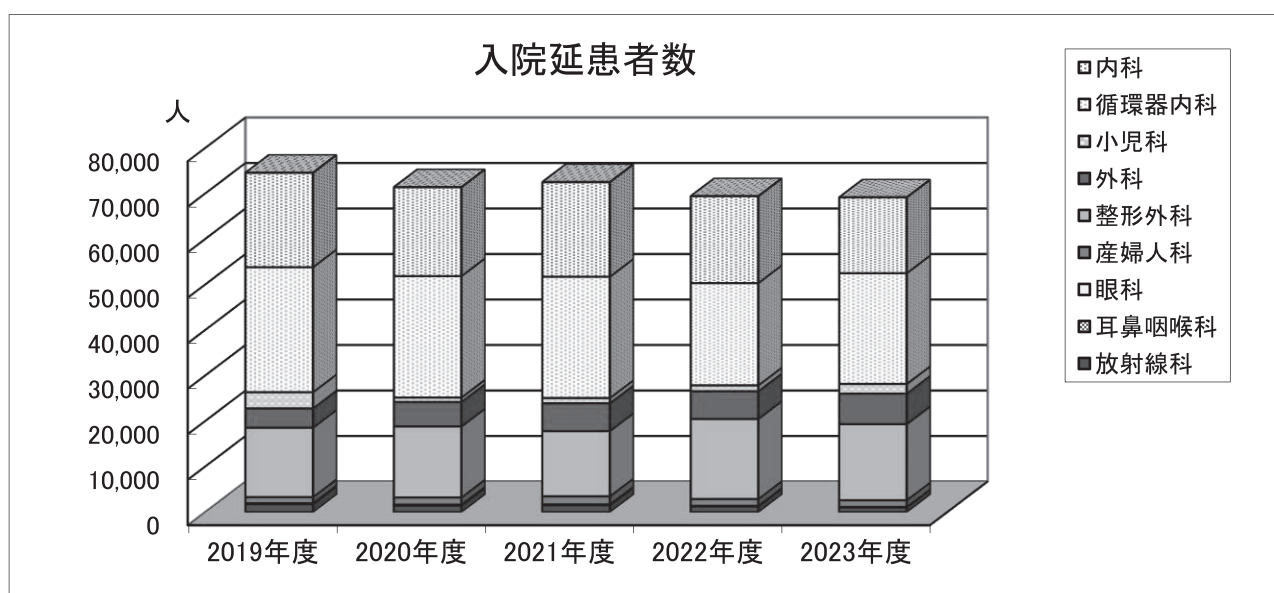
2) 時間外患者総数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内 科					
循環器内科	1,734	1,066	1,372	2,222	2,464
小 児 科	969	306	565	974	1,135
外 科	130	128	170	174	187
整形外科	501	289	249	287	265
産婦人科	110	115	136	149	133
眼 科	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科				0	0
放射線科	9	6	5	9	6
歯 科	1	0	0	0	0
泌尿器科	0	9	1	2	3
皮膚科	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	0	0
合 計	3,454	1,919	2,498	3,817	4,193



(3) 診療科別入院患者数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均
内 科	20,760	56.7	19,539	53.5	20,791	57.0	19,095	52.3	16,669	45.5
循環器内科	27,461	75.0	26,674	73.1	26,661	73.0	22,478	61.6	24,332	66.5
小 児 科	3,564	9.7	999	2.7	1,148	3.1	1,299	3.6	2,134	5.8
外 科	4,245	11.6	5,376	14.7	6,128	16.8	6,084	16.7	6,701	18.3
整形外科	15,243	41.6	15,592	42.7	14,325	39.2	17,582	48.2	16,721	45.7
産婦人科	1,354	3.7	1,580	4.3	1,792	4.9	1,505	4.1	1,481	4.0
眼 科	207	0.6	231	0.6	159	0.4	135	0.4	86	0.2
耳鼻咽喉科										
放射線科	1,759	4.8	1,430	3.9	1,534	4.2	1,263	3.5	1,059	2.9
合 計	74,593	203.8	71,421	195.7	72,538	198.7	69,441	190.2	69,183	189.0

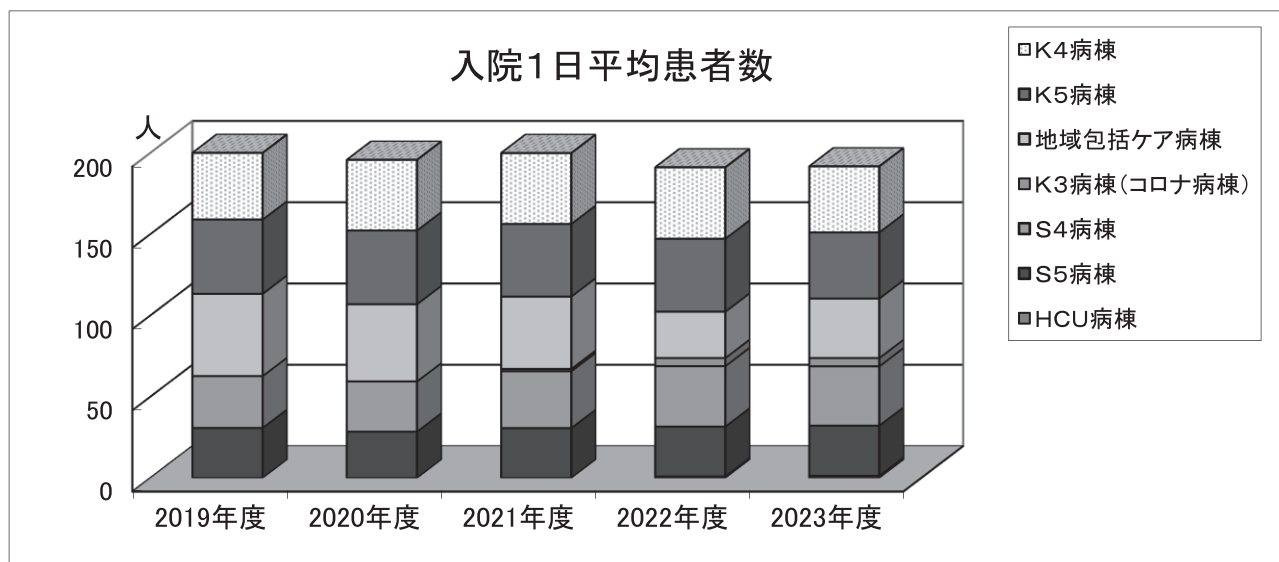
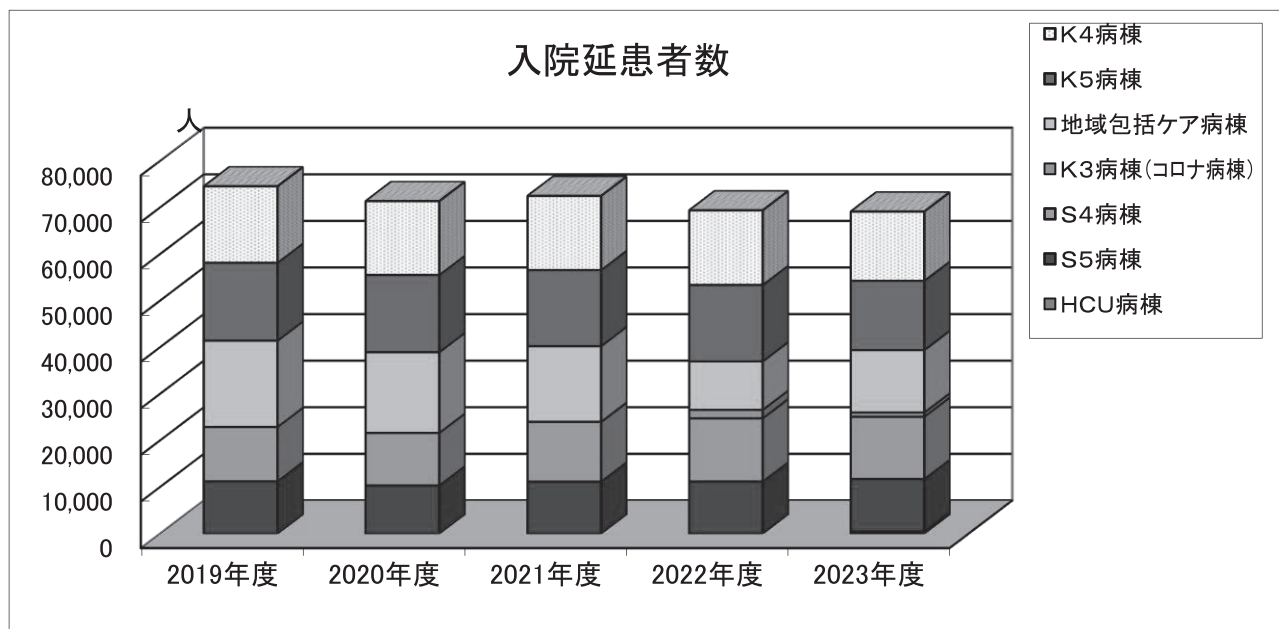


(4) 病棟別入院患者数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均	延患者数	日平均
K 4 病 棟	16,398	44.8	15,846	43.4	15,915	43.6	16,015	43.9	14,860	40.6
K 5 病 棟	16,734	45.7	16,578	45.4	16,330	44.7	16,404	44.9	14,878	40.7
地域包括ケア病棟	18,524	50.6	17,329	47.5	16,244	44.5	10,403	28.5	13,394	36.6
K3(コロナ)病棟※1					42	1.4	1,821	5.0	926	5.1
S 4 病 棟	11,663	31.9	11,277	30.9	12,786	35.0	13,567	37.2	13,351	36.5
S 5 病 棟	11,274	30.8	10,391	28.5	11,221	30.7	11,204	30.7	11,301	30.9
H C U 病 棟							27	0.9	473	1.3
合 計	74,593	203.8	71,421	195.7	72,538	198.7	69,414	190.2	69,183	189.0

※1 2022年3月からK3病棟を一般病棟(コロナ病棟), S3病棟を地域包括ケア病棟とする

※ 2023年10月からK3病棟, S3病棟と統合して地域包括ケア病棟とする

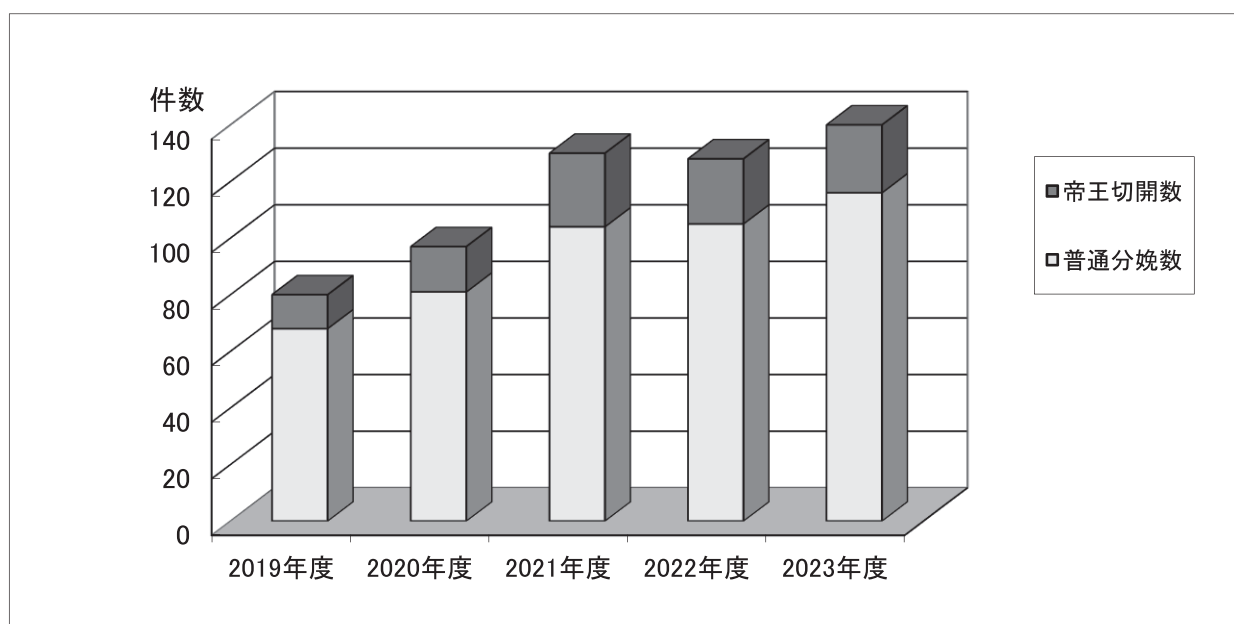


(5) 透析患者数及び回数

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
透析延患者数		712	803	873	839	758
新規導入患者数		8	14	14	8	8
透析延回数		8,869	10,064	10,931	10,613	9,498
休日延回数(内数)		720	614	686	657	656
夜間延回数(内数)		515	405	395	591	638
種類	血液透析	7,949	8,356	8,756	7,749	5,729
	血液濾過透析	920	1,683	2,173	2,836	3,741
	持続緩徐式血液濾過	0	25	2	28	28

(6) 分娩数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総分娩数	80	97	130	128	140
帝王切開数(内数)	12	16	26	23	24



(7) 診療科別手術件数

外科

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
創傷処理	1		3	1	2
皮膚切開術	1	1	2	2	2
デブリードマン				1	
皮膚、皮下腫瘍摘出術	17	6	4	13	13
手掌、足底異物摘出術					1
気管切開術	3	3	3		1
甲状腺部分切除術, 甲状腺腫摘出術(片葉のみ)	1	2	1	3	6
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)			3	6	1
甲状腺悪性腫瘍手術(全摘・亜全摘)	3	2			
乳腺膿瘍切開術		1			
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	2	2	4	5	3
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm以上)			1	3	2
乳管腺葉区域切除術	1			4	2
乳房切除術		1			
乳腺悪性腫瘍手術(単純乳房切除術(乳腺全摘術))	1				
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	3	4	2	4	8
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	4	4	7	3	1
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む))			1	1	1
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)胸筋切除を併施しないもの)		2	2	1	2
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)胸筋切除を併施するもの)		1			
胸壁悪性腫瘍摘出術(その他のもの)		1			
胸腔鏡下肺切除術(肺嚢胞手術(楔状部分切除))	1	2	3	1	2
血管血紮術(その他のもの)			1		1
動脈形成術, 吻合術(指(手, 足)の動脈)			1		
抗悪性腫瘍剤動脈, 静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置(四肢に設置した場合)	1			2	1
抗悪性腫瘍剤動脈, 静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部・その他に設置した場合)	4	2	12	1	9
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(四肢に設置した場合)				2	1
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(頭頸部・その他に設置した場合)		4	2	1	1
リンパ節摘出術(長径3cm未満)	1		1	1	
リンパ節摘出術(長径3cm以上)		2			
リンパ節群郭清術(顎下部又は舌下部)(浅在性)				1	
リンパ節群郭清術(頸部)(深在性)				1	
リンパ節群郭清術(腋窩)	1			1	
腹壁膿瘍切開術	2				
腹壁瘻手術(腹腔に通ずるもの)		2			
腹壁腫瘍摘出術(形成手術を必要としない場合)	1				
ヘルニア手術(腹壁瘢痕ヘルニア)				2	1
ヘルニア手術(臍ヘルニア)	2		1	1	2

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)	23	21	28	15	19
ヘルニア手術(大腿ヘルニア)		3			4
腹腔鏡下ヘルニア手術(腹壁癭痕ヘルニア)	1	3	4	4	
腹腔鏡下ヘルニア手術(大腿ヘルニア)					1
腹腔鏡下ヘルニア手術(臍ヘルニア)		1			
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	1	1		15	8
試験開腹術					1
腹腔鏡下試験開腹術		1		2	3
腹腔鏡下試験切除術				1	
限局性腹腔膿瘍手術(その他のもの)				1	
急性汎発性腹膜炎手術	1	6		1	
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	3			4	1
大網切除術				1	
大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術(腸切除を伴わないもの)		1	2		
胃縫合術(大網充填術又は被覆術を含む)		1			
腹腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合術					1
腹腔鏡下胃局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)				1	
胃切除術(悪性腫瘍手術)	1	2	5		1
腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)	4	6	2	1	9
胃全摘術(悪性腫瘍手術)		2	1	1	
腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)	1				1
腹腔鏡下胃腸吻合術			1		4
胆管切開結石摘出術(胆嚢摘出を含むもの)	2				
腹腔鏡下胆管切開結石摘出術(胆嚢摘出を含むもの)				1	2
胆嚢摘出術	8	1	1	2	
腹腔鏡下胆嚢摘出術	39	31	34	37	29
脾摘出術	1				
腸管癒着症手術	1	2	1	2	1
腹腔鏡下腸管癒着剥離術				3	3
小腸切除術(その他のもの)	1	4	3	5	2
腹腔鏡下小腸切除術(その他のもの)					3
虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)			2		
虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴うもの)					1
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	16	17	10	13	17
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴うもの)	7	1	3	8	5
結腸切除術(小範囲切除)			2	5	3
結腸切除術(結腸半側切除)		1	1		
結腸切除術(全切除・亜全切除・悪性腫瘍手術)	7	8	8	1	1
腹腔鏡下結腸切除術(小範囲切除・結腸半側切除)	1	1	2	3	14
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	7	3	1	10	14
腸吻合術					1
腸瘻, 虫垂瘻造設術			1		
人工肛門造設術	1	3	3	5	2

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
腹腔鏡下人工肛門造設術	1	4	1	1	1
人工肛門閉鎖術(腸管切除を伴わないもの)					1
人工肛門閉鎖術(腸管切除を伴うもの)	2	3	3	2	1
直腸周囲膿瘍切開術			1		
直腸腫瘍摘出術(経肛門)					1
直腸腫瘍摘出術(経腹及び経肛)					1
直腸切除・切断術(切除術)				1	
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)	1		2		2
腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)	2	2	4		3
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切断術)		1			
直腸脱手術(経会陰によるもの)(腸管切除を伴わないもの)				1	2
痔核手術(結紮術・焼灼術・血栓摘出術)		1			1
痔核手術(根治手術)	2	4	4	4	6
肛門周囲膿瘍切開術		2	3		
痔瘻根治手術(単純なもの)				1	1
肛門良性腫瘍、肛門ポリープ、肛門尖圭コンジローム切除術				1	
毛巣嚢、毛巣瘻、毛巣洞手術		1			
膀胱壁切除術				1	
尿尿管摘出術		2	1	1	
陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)					1
外科合計	184	182	188	216	235

整形外科

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
創傷処理	2	1	1	4	3
皮膚切開術	3	7	2	3	3
デブリードマン				4	2
皮膚、皮下腫瘍摘出術		1		4	2
皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術(25平方センチメートル未満)				3	
腱鞘切開術(腹腔鏡下によるものを含む。)	5	4	1	11	11
筋肉内異物摘出術	1				
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(前腕)			1		
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(大腿)			1		
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(下腿)	1		1		1
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(躯幹)	1			1	
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(手)	1				
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(足)	1				
腱縫合術				1	
アキレス腱断裂手術	2	5	4		1
骨折非観血的整復術(上腕)					1
骨折非観血的整復術(足その他)		1			
骨折経皮的鋼線刺入固定術(前腕)	1	2			
骨折経皮的鋼線刺入固定術(手)		1			

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
骨折経皮的鋼線刺入固定術(足)	1				
骨折経皮的鋼線刺入固定術(指・趾)	8	2	2	7	1
骨折観血の手術(上腕)	2		2	10	3
骨折観血の手術(大腿)	36	25	30	48	55
骨折観血の手術(前腕)	12	10	6	20	27
骨折観血の手術(下腿)	18	10	9	19	11
骨折観血の手術(手舟状骨)				1	
骨折観血の手術(鎖骨)	2		2	7	7
骨折観血の手術(膝蓋骨)	5	3	4	4	2
骨折観血の手術(足)	2	1			
骨折観血の手術(指・趾)					1
観血の整復固定術(インプラント周囲骨折に対するもの)(大腿)					1
一時的創外固定骨折治療術	1	1		4	
骨内異物除去術(上腕)	1	1		3	
骨内異物除去術(大腿)	5	3	2	3	2
骨内異物除去術(前腕)	8	8	12	19	7
骨内異物除去術(下腿)	19	14	10	11	8
骨内異物除去術(鎖骨)	4	1	3	2	5
骨内異物除去術(膝蓋骨)	2	2	6	5	1
骨内異物除去術(足)	2	1	2		
骨内異物除去術(指・趾)	1				
骨腫瘍切除術(指・趾)	1		1		2
骨腫瘍切除術(下腿)	2		1		1
骨腫瘍切除術(足)				1	
骨切り術(大腿)				2	3
骨切り術(下腿)	3	2			1
骨移植術(自家骨移植)			2	3	6
骨移植術(同種骨移植(非生体))(その他の場合)	3			1	7
関節脱臼非観血的整復術(肩)	1				
関節脱臼非観血的整復術(股)		2	1	2	1
関節脱臼観血的整復術(股)		1			
関節脱臼観血的整復術(足)			1	2	1
関節脱臼観血的整復術(肩鎖)		1		1	
関節脱臼観血的整復術(指・趾)				1	1
関節滑膜切除術(膝)			1		
関節鏡下関節滑膜切除術(肩)					1
関節鏡下関節滑膜切除術(膝)		1			
関節鏡下関節滑膜切除術(足)		1	1		
関節鏡下関節滑膜切除術(肩鎖)					1
関節鏡下関節鼠摘出手術(足)		1			
関節鏡下半月板切除術	1				
関節鏡下半月板縫合術		1	1	3	5
関節内骨折観血の手術(股)	3				

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
関節内骨折観血的手術(膝)	1	2			
関節内骨折観血的手術(肘)	3	4	1		
関節内骨折観血的手術(手)	3	5	6		
関節内骨折観血的手術(足)		1			1
観血的関節制動術(膝)	1				
観血的関節固定術(足)			1		
靭帯断裂形成手術(その他の靭帯)		1			2
関節鏡下靭帯断裂形成手術(十字靭帯)	1				2
関節形成手術(指・趾)			1		
関節鏡下肩腱板断裂手術(簡単なもの)	1	2			1
関節鏡下肩腱板断裂手術(複雑なもの)	1	1		1	
人工骨頭挿入術(肩)	1				
人工骨頭挿入術(股)	13	18	22	25	24
人工骨頭挿入術(肘)	1				
人工関節置換術(肩)	1	2	2	1	1
人工関節置換術(股)	2	1	1	13	13
人工関節置換術(膝)	24	24	16	11	12
四肢切断(指・趾)	1			2	
四肢切断(大腿)			1		
四肢切断(下腿)		1	1		
断端形成術(骨形成を要するもの(指・趾))				1	
手根管開放術	1	2		3	2
脊椎、骨盤骨(軟骨)組織採取術(試験切除によるもの)(その他のもの)					1
脊椎、骨盤内異物(挿入物)除去術					1
内視鏡下椎弓切除術					2
黄色靭帯骨化症手術				1	
椎間板摘出術(後方摘出術)			2	2	
内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方摘出術)					21
椎間板内酵素注入療法					1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方又は後側方固定)	1		1	3	9
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	2	1		1	5
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓切除)			4	13	
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	31	41	41	9	6
顕微鏡下腰部脊柱管拡大減圧術				3	2
神経腫切除術(その他のもの)				1	
神経移行術				2	
整形外科合計	250	220	210	302	291

産婦人科

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
皮膚、皮下腫瘍摘出術		1	1	1	
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術				1	
腸管癒着症手術		1			

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)		1		1	
腔閉鎖術(中央腔閉鎖術)(子宮全脱)			2		
腔閉鎖術(その他)		1			
腔壁形成手術				1	
子宮内膜搔爬術		2			
子宮脱手術(腔壁形成手術及び子宮全摘術)(腔式、腹式)	1	2			
子宮頸部(腔部)切除術	14	6	6	9	13
子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療		2	1	10	5
子宮筋腫摘出(核出)術(腹式)		2	1		
子宮筋腫摘出(核出)術(腔式)				2	1
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術		1	9	1	1
子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切除術、子宮内膜ポリープ切除術(電解質溶液利用のもの)		1	4	3	1
子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切除術、子宮内膜ポリープ切除術(その他のもの)	3	2			1
子宮鏡下子宮筋腫摘出術(電解質溶液利用のもの)			2		
子宮鏡下子宮筋腫摘出術(その他のもの)	1		1		
子宮全摘術	8	14	3	4	
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	3	14	13	3	3
子宮付属器癒着剥離術(両側)(開腹によるもの)			1		
卵管結紮術(腔式を含む)(両側)(開腹によるもの)					1
子宮付属器腫瘍摘出術(両側)(開腹によるもの)	4	6	4	1	
子宮付属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡によるもの)	6	20	22	10	9
卵管全摘除術、卵管腫瘤全摘除術、子宮卵管留血腫手術(両側)(開腹によるもの)		1	6		2
卵管全摘除術、卵管腫瘤全摘除術、子宮卵管留血腫手術(両側)(腹腔鏡によるもの)			1		
子宮付属器悪性腫瘍手術(両側)	1	3			
帝王切開術(緊急帝王切開)		4	7	6	5
帝王切開術(選択帝王切開)	12	12	19	17	19
胎盤用手剥離術					1
子宮頸管縫縮術(マクドナルド法)				1	
子宮頸管縫縮術(シロッカー法又はラッシュ法)		1			
子宮頸管縫縮術(縫縮解除術)(チューブ抜去術)			1		
流産手術(妊娠11週までの場合)(手動真空吸引法によるもの)	5	7	6	5	4
異所性妊娠手術(腹腔鏡によるもの)			1	1	
人工妊娠中絶	1	6	9	7	9
産婦人科合計	59	110	120	84	75

眼科

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
皮膚・皮下腫瘍摘出術		5	2	1	2
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術				1	4
麦粒腫切開術	3		2	2	
マイボーム腺梗塞摘出術、マイボーム腺切開術	20	16	14	11	3
霰粒腫摘出術		1	2	1	

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
眼瞼結膜腫瘍手術					1
眼瞼内反症手術	1	1			
結膜結石除去術	1	8	6	2	1
結膜下異物除去術		1	1	1	
結膜嚢形成手術(部分形成)	1				
翼状片手術(弁の移植を要するもの)	3	4	4	2	1
結膜肉芽腫摘除術					1
眼窩内腫瘍摘出術(表在性)		2		1	
角膜・強膜縫合術	1				
顕微鏡下角膜抜糸術					4
角膜潰瘍掻爬術			1		
角膜・強膜異物除去術	10	5	5	10	9
網膜光凝固術(虹彩光凝固等を含む)	49	26	36	27	22
後発白内障手術	22	31	29	19	20
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)	139	151	122	105	87
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)				1	
眼科合計	250	251	224	184	155

耳鼻咽喉科

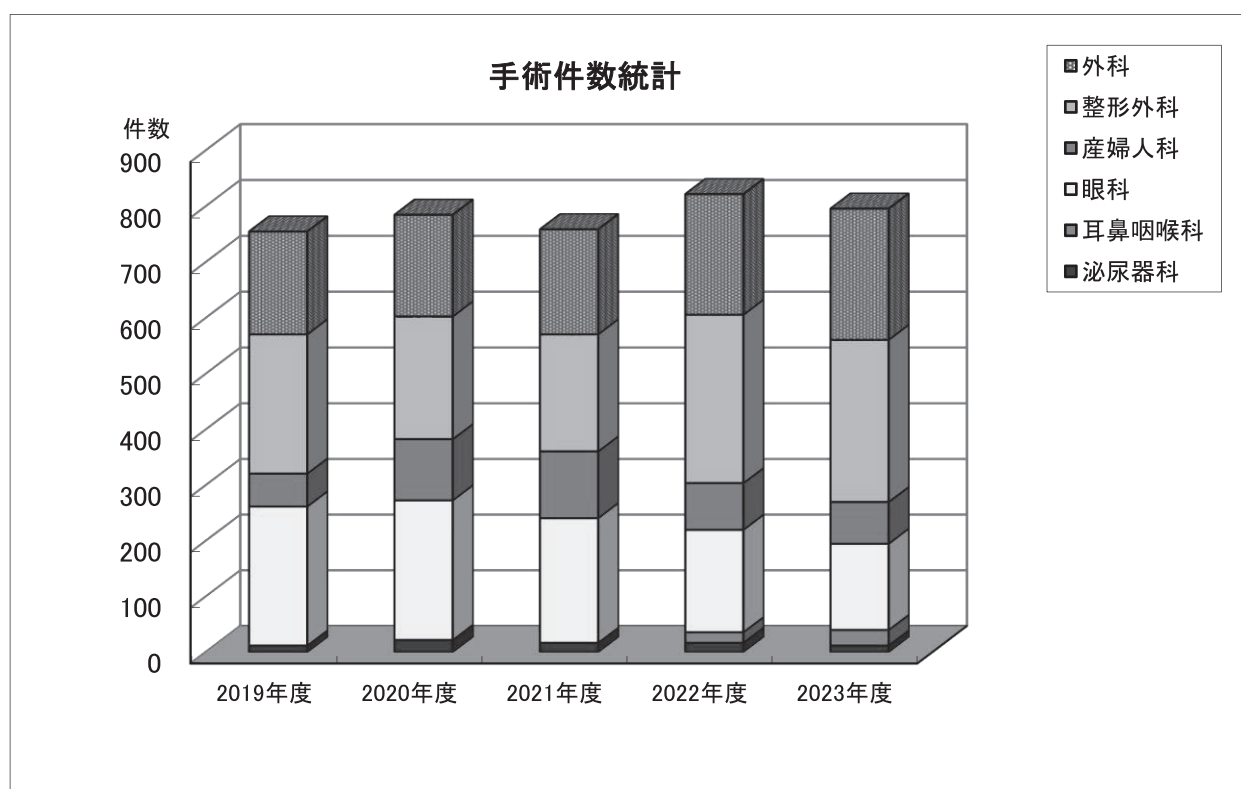
手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外耳道異物除去術				1	1
鼓膜切開術				6	9
鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術				2	4
鼻腔粘膜焼灼術				5	14
喉頭異物摘出術				3	
唾石摘出術				2	
耳鼻咽喉科合計				19	28

泌尿器科

手術分類名	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
創傷処理		1			
血管結紮術(その他のもの)			1		
末梢動脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	10	21	15	16	11
静脈瘤切除術(下肢以外)				1	
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(頭頸部・その他に設置した場合)	2		1		
腹腔鏡下膀胱部分切除術					1
泌尿器科合計	12	22	17	17	12

(8) 年度別科別手術件数集計表

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外科	184	182	188	216	235
整形外科	250	220	210	302	291
産婦人科	59	110	120	84	75
眼科	250	251	224	184	155
耳鼻咽喉科				19	28
泌尿器科	12	22	17	17	12
合計	755	785	759	822	796



(9) 麻酔件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
マスク又は 気管内挿管全身麻酔	342	345	318	342	394
硬膜麻酔又は 脊椎麻酔	69	80	103	107	71

(10) 検査・処置実施件数

1) 超音波検査件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
腹部	2,638	2,705	2,902	2,829	2,799
頰動脈	112	98	79	125	165
甲状腺	513	446	462	497	488
乳房	614	611	779	842	700
心臓	2,104	2,270	2,527	2,548	2,576
合計	5,981	6,130	6,749	6,841	6,728

2) 内視鏡検査件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
食道・胃・十二指腸	3,934	3,805	3,875	3,780	3,842
大腸	935	927	911	928	938
気管支	9	7	0	1	1
鼻咽腔・喉頭	1	0	2	160	284
合計	4,879	4,739	4,788	4,869	5,065

3) 内視鏡手術処置・超音波処置・腹部血管造影処置件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
食道 (EMR、EIS、EVL、ESD)	0	0	0	0	1
胃 (EMR、ESD)	10	8	12	15	11
胃 (PEG 造設)	1	3	2	3	0
大腸 (ポリペク)	143	134	101	105	115
大腸 (ESD)					19
胆・肝 (ERCP、EST、PTCD)	57	54	69	25	40
内視鏡的膵管ステント留置術					3
食道狭窄拡張術食道ブジー法					2
合計	211	199	184	148	191

4) 眼科検査・処置件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
眼底カメラ撮影 (蛍光眼底法の場合)	20	10	19	9	8
眼底カメラ撮影 (自発蛍光撮影法の場合)	4	1	2	1	1
コンタクトレンズ検査	196	154	163	177	154
硝子体内注射	24	28	26	28	28
合計	244	193	210	215	191

4) MRI 撮影件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
頭 部	1,147	1,075	1,147	1,212	1,217
頸 部	14	16	20	55	41
頭 頸 部	1,133	1,059	1,127	1,157	1,176
軀 幹	1,659	1,677	1,744	1,645	1,686
胸 部	17	18	23	13	12
腹 部	735	655	742	733	717
骨 盤 部	173	200	200	190	162
心 臓	97	102	120	88	122
乳 腺	22	37	30	35	22
肩	39	40	28	51	72
脊 椎	576	625	601	535	579
四 肢	237	301	313	338	345
合 計	3,043	3,053	3,204	3,195	3,248

5) CT 撮影件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
頭 部	842	799	780	972	1,152
頭 部	101	59	743	898	1,070
頸 部	69	47	36	71	67
頭 頸 部	672	693	1	3	15
軀 幹	5,915	5,630	5,831	5,752	6,418
胸 部	1,674	1,483	1,483	1,348	1,620
腹 部	1,557	1,526	1,566	1,680	1,715
胸腹部骨盤	1,756	1,673	1,744	1,645	1,829
心 臓	213	280	287	251	248
肩	21	25	30	67	75
体 幹 部	217	157	233	249	327
脊 椎	150	144	175	157	270
頭 胸 部	72	53	26	33	28
頭胸腹部骨盤	255	289	287	322	306
四 肢	344	406	402	572	648
合 計	7,101	6,835	7,013	7,296	8,218

6) CT・MRI 撮影造影件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
MRI造影あり	273	270	234	238	216
MRI造影なし	2,770	2,783	2,970	2,957	3,032
CT造影あり	727	815	724	825	874
CT造影なし	6,374	6,020	6,289	6,471	7,344

7) 造影撮影件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
食道・胃・小腸透視	1,989	2,374	2,330	2,428	2,463
注腸	16	26	15	20	28
卵管造影	4	10	7	5	8
合計	2,009	2,410	2,352	2,453	2,499

8) 心血管カテーテル件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
心臓カテーテル検査	128	142	135	129	138
経皮的冠動脈形成術	92	118	126	110	142
大動脈バルーンポンピング法	4	3	5	6	4
電気生理学的検査	19	21	9	13	18
ペースメーカー埋込術・交換術	33	39	25	40	27
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	25	38	29	30	43
四肢の血管拡張術	12	12	17	17	23
下大静脈フィルター留置術	2	5	5	4	5

9) 心臓MRA・心臓CTA件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
心臓MRA	87	91	103	80	109
心臓CTA	211	279	286	251	247
合計	298	370	389	331	356

10) 骨塩量測定件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
骨塩量測定	491	520	557	576	631

11) マンモグラフィ件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
マンモグラフィ	396	426	467	544	520

1 2) 生理機能検査数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
呼吸機能検査	1,187	463	403	151	1,008
脈波図検査	347	310	378	296	331
神経伝導検査	43	42	40	55	38
脳波検査	130	81	102	100	126
心電図検査(医療)	5,350	5,422	5,618	5,402	5,565
心電図検査(健診)	7,846	8,166	8,662	9,234	8,959
合計	14,903	14,484	15,203	15,238	16,027

1 3) 細胞診検査数及び病理組織診検査数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
細胞診検査数	4,155	4,160	4,305	4,437	4,232
子宮頸部	2,548	2,665	2,755	2,819	2,758
子宮体部	557	512	572	595	570
尿	741	655	629	631	579
膣断端	92	48	79	90	56
甲状腺穿刺液	67	52	57	62	52
乳腺穿刺液	72	133	135	158	135
腹水・胸水・喀痰他	78	95	78	82	82
病理組織検査数	1,488	1,422	1,474	1,423	1,299
気管支	1	2	0	0	0
胃	407	385	415	372	370
大腸	537	624	608	554	588
その他	543	411	451	497	341

(11) 薬剤服薬指導件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
延指導回数(回)	3,951	5,484	6,394	6,370	4,654
退院時指導回数	934	611	829	863	1,007
指導患者数(人)	1,872	1,689	1,823	1,759	1,974

(12) 栄養指導件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入院	380	480	218	262	325
外来	108	148	92	98	97

(13) 疾患別リハビリテーション延単位数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
心大血管疾患リハ(I)	3,929	3,800	4,583	3,702	4,932
脳血管疾患等リハ(I)	31,916	33,193	29,722	28,936	31,253
小児リハビリ(内数)	20,828	22,545	19,414	20,379	21,581
廃用症候群リハ(I)	36,757	35,627	34,075	28,137	28,370
運動器リハ(I)	27,786	30,951	28,973	36,054	34,641
呼吸器リハ(I)	119	310	285	55	259
がん患者リハ	2,615	3,012	3,891	2,792	2,666
訪問リハビリ	1,884	1,888	1,834	1,646	1,821

(14) 医療相談室実績

1) 相談件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
相 談 件 数	1,357	1,368	1,383	1,316	1,082

2) 相談者の状況－①

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入 院	1,148	1,168	1,184	1,173	970
外 来	209	200	199	143	112

2) 相談者の状況－②

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
新 規	733	732	764	842	677
継 続	624	636	619	474	405

3) 相談内容

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入 院 相 談	20	27	42	55	41
退 院 相 談	173	165	169	385	238
転 院 入 所 相 談	222	192	209	178	179
介 護 保 険 相 談	701	723	711	569	344
療 養 上 の 問 題	78	57	58	221	353
経 済 的 相 談	58	780	55	38	31
社 会 保 障 の 利 用	147	187	196	119	36
資 源 の 利 用	77	70	79	165	207
そ の 他	551	491	500	251	372

4) 相談対象

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
本 人	610	578	597	569	502
家 族	717	708	658	653	602
医 療 ス タ ッ フ	329	328	321	241	159
関 係 機 関	678	687	638	537	434

5) 相談方法

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
面 接	1,839	1,882	1,838	1,403	679
電 話	920	824	807	744	584

6) 書類依頼（主治医意見書、医療要否意見書、身体障害者診断書意見書等）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
書 類 件 数	949	884	923	997	1,162

3. 介護部門実績

(1) 介護保険利用件数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
居宅介護 支援事業所	1,795		1,678		1,574		1,378			
通所リハビリ テーション 事業所	1,097	8,171	1,021	7,835	1,013	8,116	919	7,475	847	6,911

(2) 要介護状態区分別利用者数

通所リハビリテーション

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
要支援1	92	86	84	54	39
要支援2	187	126	145	167	166
要介護1	370	300	295	249	234
要介護2	263	249	242	177	185
要介護3	123	171	161	156	122
要介護4	29	69	79	107	80
要介護5	33	20	7	9	21
合計	1,097	1,021	1,013	919	847

4. 健康管理部門実績

(1) 人間ドック及び健康診断受診者数

年 度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
人 間 ド ッ ク	日 帰 り	協 会 健 保	3,411	3,392	3,493	3,672	3,694
		そ の 他	2,432	2,297	2,493	2,628	2,478
		小 計	5,843	5,689	5,986	6,300	6,173
	1 泊 2 日	39	32	25	15	22	
	合 計	5,882	5,721	6,011	6,315	6,194	
	各 種 検 査	脳 ド ッ ク	300	282	300	330	279
		大 腸 ド ッ ク	9	15	12	10	14
		骨 密 度	64	64	89	100	102
		腹 部 エ コ ー	2,241	2,205	2,302	2,445	2,407
		肺 腹 C T セ ッ ト	88	93	85	82	94
C T 肺 癌		176	147	148	154	159	
乳 癌 (マンモグラフィ)		1,337	1,330	1,327	1,460	1,324	
子 宮 癌		1,445	1,523	1,573	1,738	1,582	
A B I	83	96	101	107	88		
健康診断(企業健診)		6,349	6,385	7,864	6,735	6,144	

(2) 保健指導実施件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人間ドック保健指導	39	32	25	15	22
特定保健指導	23	29	44	51	48
健診事後指導	288	23	23	172	78
健康教室	85	0	50	60	30
訪問企業数	12	12	12	12	12

(3) 健康教室の受講者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
糖尿病教室	94				
月 平 均	8				

※2020年度～2023年度は感染症予防のため、実施を見送った。

5. 診療情報管理室統計

(1) クリニカルパス使用件数

診療科	種 類	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内科	心臓カテーテル検査・手術	189	233	126	206	237
	シヤントPTA	16	32	27	21	23
	睡眠時無呼吸症候群検査	8	3	0	5	1
	急性冠症候群	22	31	32	37	47
	COVID-19感染症	0	0	5	193	164
	顔面神経麻痺	0	0	0	6	0
小児科	小児呼吸器疾患	461	26	64	21	113
	小児消化器疾患	115	5	22	19	26
	食物負荷試験	73	87	34	0	0
	小児科新生児	1	0	19	4	26
	小児けいれん	0	0	12	1	0
	正常新生児	77	95	117	126	109
	成長ホルモン負荷試験	1	0	0	0	0
	アトピー性皮膚炎教育	0	2	2	1	0
アレルギー負荷試験	0	0	27	71	52	
外科	甲状腺切除	2	4	0	10	7
	開腹胆嚢摘出術	4	0	0	0	1
	成人そけいヘルニア	22	23	28	19	21
	小児そけいヘルニア	0	0	0	0	0
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術	0	0	0	23	12
	急性虫垂炎切除術	24	4	13	1	25
	ラパ胆	40	45	36	42	32
	ラパ虫垂炎	0	0	0	23	19
	乳房温存手術	4	5	6	19	14
	乳房全摘出術	8	8	9	4	3
	胃切除術	1	0	1	4	17
	直腸切除	0	0	2	5	9
半結腸切除	0	0	5	16	23	
整形外科	人工膝関節置換術	23	24	16	3	4
	大腿骨頸部骨折	14	2	0	0	0
	リハビリ入院	191	194	141	3	2
	頚椎症性脊髄症	14	19	18	5	3
	腰椎症	18	19	23	22	44

診療科	種 類	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
産婦人科	産褥期	66	80	105	105	112
	帝王切開	12	17	27	26	27
	婦人科開腹術	9	20	3	4	1
	子宮内清掃術	1	1	3	0	0
	流産手術	5	10	13	13	13
	円錐切除	15	9	9	10	14
	経頸管的切除	4	1	7	5	2
	子宮脱	2	1	3	2	3
	人工妊娠中絶	0	5	2	5	3
	産後ケアパス 1泊2日	0	2	9	19	12
	産後ケアパス 日帰り	0	3	16	14	24
	腹腔鏡下手術	9	34	45	13	9
	子宮頸部蒸散手術	0	0	0	5	6
眼科	白内障	146	167	120	116	93
	翼状片	0	0	2	0	0
放射線科	大腸ポリペクトミー	145	128	108	97	120
	内視鏡粘膜下層剥離術	10	7	13	16	17
	内視鏡的乳頭括約筋切除	0	0	16	4	3
共通	化学療法	34	73	59	43	59
合計		1786	1419	1345	1407	1552

(2) 診療科別紹介（受入）患者数

診療科	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
内循環器内科	422	264	378	243	417	236	407	234	384	271
小児科	208	213	158	90	210	74	203	79	204	126
外科	104	21	137	40	114	31	91	48	118	38
整形外科	310	129	279	121	290	85	238	120	292	121
産婦人科	85	6	94	13	131	14	157	8	181	3
眼科	41	6	25	8	36	8	61	2	57	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	30	0	28	0
放射線科	757	7	665	8	711	1	695	3	733	4
歯科	24	0	34	0	37	0	44	0	68	0
泌尿器科	30	0	24	0	27	0	48	0	44	0
皮膚科	9	0	17	0	5	0	15	0	11	0
脳外科	16	0	18	0	15	0	14	0	25	0
小計	2,006	646	1,829	523	1,993	449	2,003	494	2,145	563
合計	2,652		2,352		2,442		2,497		2,708	

(3) 地域別紹介（受入）患者数

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
西条市医療機関	1,530	437	1,415	390	1,534	356	1,501	379	1,557	445
旧西条市	1,022	258	962	245	1,052	241	990	231	1,029	279
旧東予市	299	132	258	92	289	72	323	94	333	122
旧小松町	80	30	61	33	69	24	76	34	76	31
旧丹原町	129	17	134	20	124	19	112	20	119	13
新居浜市医療機関	124	98	125	49	135	41	162	57	175	71
今治市医療機関	14	10	17	8	25	4	17	3	39	9
その他の医療機関	338	101	272	76	299	48	323	55	374	38
小計	2,006	646	1,829	523	1,993	449	2,003	494	2,145	563
合計	2,652		2,352		2,442		2,497		2,708	

(4) 2023年度退院患者疾病分類

(2023年4月1日～2024年3月31日)

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
	総数	3,049	100.0	1,325	386	407	400	274	86	171
	構成比(%)	100.0		43.5	12.7	13.3	13.1	9.0	2.8	5.6
	該当なし	7	0.2			6		1		
I	感染症及び寄生虫症	208	6.8	147	58	2	1			
A02	その他のサルモネラ感染症	1		1						
A04	その他の細菌性腸管感染症	5	0.2	3	1		1			
A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	19	0.6	3	16					
A09	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	44	1.4	26	18					
A16	呼吸器結核、細菌学的又は組織学的に確認されていないもの	1		1						
A31	その他の非結核性抗酸菌による感染症	2	0.1	2						
A40	連鎖球菌性敗血症	1		1						
A41	その他の敗血症	12	0.4	12						
A46	丹毒	3	0.1	3						
A49	部位不明の細菌感染症	1			1					
A87	ウイルス（性）髄膜炎	1			1					
B02	带状疱疹〔带状疱疹〕	6	0.2	5		1				
B08	皮膚及び粘膜病変を特徴とするその他のウイルス感染症、他に分類されないもの	1			1					
B34	部位不明のウイルス感染症	108	3.5	89	18	1				
B44	アスペルギルス症	1		1						
B94	その他及び詳細不明の感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	2	0.1		2					
II	新生物<腫瘍>	281	9.2	36		193	3	15		34
C15	食道の悪性新生物<腫瘍>	3	0.1			2				1
C16	胃の悪性新生物<腫瘍>	54	1.8	4		39				11
C17	小腸の悪性新生物<腫瘍>	1				1				
C18	結腸の悪性新生物<腫瘍>	43	1.4	3		37				3
C19	直腸S状結腸移行部の悪性新生物<腫瘍>	2	0.1			2				
C20	直腸の悪性新生物<腫瘍>	42	1.4			38				4
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	4	0.1	3						1
C24	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物<腫瘍>	4	0.1	1		3				
C25	膵の悪性新生物<腫瘍>	5	0.2	3		2				
C34	気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	8	0.3	8						
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>	50	1.6			50				

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
C56	卵巣の悪性新生物<腫瘍>	1		1						
C64	腎盂を除く腎の悪性新生物<腫瘍>	2	0.1	2						
C73	甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	1				1				
C77	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>	1				1				
C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物<腫瘍>	1				1				
C79	その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物<腫瘍>	1				1				
C80	悪性新生物<腫瘍>、部位が明示されていないもの	2	0.1			2				
C85	非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他及び詳細不明の型	5	0.2	4						1
D01	その他及び部位不明の消化器の上皮内癌	11	0.4							11
D06	子宮頸(部)の上皮内癌	4	0.1					4		
D12	結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物<腫瘍>	2	0.1							2
D16	骨及び関節軟骨の良性新生物<腫瘍>	2	0.1				2			
D17	良性脂肪腫性新生物<腫瘍>(脂肪腫を含む)	2	0.1			2				
D24	乳房の良性新生物<腫瘍>	1				1				
D25	子宮平滑筋腫	1						1		
D27	卵巣の良性新生物<腫瘍>	6	0.2					6		
D39	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	4	0.1					4		
D43	脳及び中枢神経系の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	1		1						
D44	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	6	0.2			6				
D46	骨髄異形成症候群	5	0.2	5						
D47	リンパ組織、造血組織及び関連組織の性状不詳又は不明のその他の新生物<腫瘍>	1		1						
D48	その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>	5	0.2			4	1			
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	15	0.5	6	2	2		5		
D50	鉄欠乏性貧血	6	0.2	3				3		
D61	その他の無形成性貧血	1		1						
D62	急性出血後貧血	1						1		
D64	その他の貧血	2	0.1	1				1		
D69	紫斑病及びその他の出血性病態	2	0.1		2					
D70	無顆粒球症	1				1				
D73	脾疾患	1				1				
D86	サルコイドーシス	1		1						
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患	41	1.3	38	3					
E06	甲状腺炎	1		1						

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
E11	2型<インスリン非依存性>糖尿病<N I D D M>	8	0.3	8						
E14	詳細不明の糖尿病	5	0.2	5						
E15	非糖尿病性低血糖性昏睡	1		1						
E16	その他の膵内分泌障害	2	0.1	1	1					
E23	下垂体機能低下症及びその他の下垂体障害	1		1						
E46	詳細不明のタンパク<蛋白>エネルギー性栄養失調(症)	1		1						
E51	チ<サイ>アミン欠乏症	3	0.1	3						
E85	アミロイドーシス<アミロイド症>	2	0.1	2						
E86	体液量減少(症)	7	0.2	6	1					
E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	9	0.3	8	1					
E88	その他の代謝障害	1		1						
V	精神及び行動の障害	10	0.3	8	1		1			
F03	詳細不明の認知症	1		1						
F10	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	5	0.2	5						
F19	多剤使用及びその他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1			1					
F41	その他の不安障害	1		1						
F44	解離性〔転換性〕障害	1					1			
F45	身体表現性障害	1		1						
VI	神経系の疾患	55	1.8	30	18		2			5
G20	パーキンソン<Parkinson>病	1		1						
G21	続発性パーキンソン<Parkinson>症候群	1		1						
G30	アルツハイマー<Alzheimer>病	5	0.2	5						
G31	神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	2	0.1							2
G40	てんかん	9	0.3	5	4					
G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	4	0.1	4						
G47	睡眠障害	6	0.2	6						
G51	顔面神経障害	3	0.1	3						
G56	上肢の単ニューロパチ<シ>ー	1					1			
G72	その他のミオパチ<シ>ー	1		1						
G80	脳性麻痺	17	0.6		14					3
G90	自律神経系の障害	2	0.1	2						
G91	水頭症	2	0.1	2						
G95	その他の脊髄疾患	1					1			

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
VII	眼及び付属器の疾患	88	2.9		2				86	
H00	麦粒腫及びびらん<霰>粒腫	2	0.1		2					
H25	老人性白内障	39	1.3						39	
H26	その他の白内障	47	1.5						47	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	21	0.7	21						
H81	前庭機能障害	19	0.6	19						
H91	その他の難聴	2	0.1	2						
IX	循環器系の疾患	500	16.4	498	1		1			
I10	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	7	0.2	7						
I20	狭心症	94	3.1	94						
I21	急性心筋梗塞	39	1.3	39						
I24	その他の急性虚血性心疾患	4	0.1	4						
I25	慢性虚血性心疾患	66	2.2	66						
I26	肺塞栓症	1		1						
I27	その他の肺性心疾患	3	0.1	3						
I31	心膜のその他の疾患	2	0.1	2						
I33	急性及び亜急性心内膜炎	2	0.1	2						
I34	非リウマチ性僧帽弁障害	1		1						
I35	非リウマチ性大動脈弁障害	3	0.1	3						
I40	急性心筋炎	1		1						
I42	心筋症	2	0.1	2						
I44	房室ブロック及び左脚ブロック	11	0.4	11						
I45	その他の伝導障害	1		1						
I46	心停止	1		1						
I48	心房細動及び粗動	10	0.3	10						
I49	その他の不整脈	7	0.2	7						
I50	心不全	135	4.4	135						
I51	心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載	6	0.2	6						
I61	脳内出血	4	0.1	4						
I62	その他の非外傷性頭蓋内出血	1		1						
I63	脳梗塞	46	1.5	46						
I66	脳動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	2	0.1	2						
I67	その他の脳血管疾患	1			1					

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
I69	脳血管疾患の続発・後遺症	12	0.4	12						
I70	アテローム<じゅく<粥>状>硬化(症)	17	0.6	17						
I71	大動脈瘤及び解離	6	0.2	6						
I74	動脈の塞栓症及び血栓症	5	0.2	4			1			
I80	静脈炎及び血栓(性)静脈炎	5	0.2	5						
I85	食道静脈瘤	1		1						
I87	静脈のその他の障害	1		1						
I95	低血圧(症)	3	0.1	3						
X	呼吸器系の疾患	362	11.9	181	170	10	1			
J01	急性副鼻腔炎	2	0.1	2						
J02	急性咽頭炎	16	0.5	5	11					
J03	急性扁桃炎	5	0.2	5						
J04	急性喉頭炎及び気管炎	1			1					
J06	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	9	0.3	1	8					
J10	その他のインフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	22	0.7	9	13					
J11	インフルエンザ、インフルエンザウイルスが分離されないもの	1		1						
J12	ウイルス肺炎、他に分類されないもの	26	0.9	2	24					
J13	肺炎連鎖球菌による肺炎	1		1						
J14	インフルエンザ菌による肺炎	5	0.2		5					
J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	22	0.7	17	5					
J18	肺炎、病原体不詳	89	2.9	65	23	1				
J20	急性気管支炎	57	1.9	3	54					
J21	急性細気管支炎	13	0.4		13					
J36	扁桃周囲膿瘍	2	0.1	2						
J42	詳細不明の慢性気管支炎	2	0.1	2						
J43	肺気腫	1		1						
J44	その他の慢性閉塞性肺疾患	9	0.3	9						
J45	喘息	17	0.6	9	8					
J46	喘息発作重積状態	7	0.2	2	5					
J47	気管支拡張症	1		1						
J69	固形物及び液状物による肺臓炎	15	0.5	15						
J70	その他の外的因子による呼吸器病態	1		1						
J80	成人呼吸窮<促>迫症候群<ARDS>	1		1						

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
J81	肺水腫	1		1						
J82	肺好酸球症、他に分類されないもの	1		1						
J84	その他の間質性肺疾患	7	0.2	7						
J86	膿胸（症）	1		1						
J90	胸水、他に分類されないもの	6	0.2	6						
J93	気胸	9	0.3	1		8				
J96	呼吸不全、他に分類されないもの	11	0.4	9		1	1			
J98	その他の呼吸器障害	1		1						
X I	消化器系の疾患	410	13.4	119	1	159				131
K22	食道のその他の疾患	4	0.1	3		1				
K25	胃潰瘍	11	0.4	9		2				
K26	十二指腸潰瘍	4	0.1	3		1				
K27	部位不明の消化性潰瘍	3	0.1	3						
K29	胃炎及び十二指腸炎	5	0.2	5						
K31	胃及び十二指腸のその他の疾患	2	0.1	1						1
K35	急性虫垂炎	38	1.2	3		35				
K36	その他の虫垂炎	5	0.2			5				
K40	そけい<鼠径>ヘルニア	29	1.0	1		28				
K41	大腿<股>ヘルニア	5	0.2			5				
K42	臍ヘルニア	1				1				
K43	腹壁ヘルニア	1				1				
K44	横隔膜ヘルニア	1				1				
K51	潰瘍性大腸炎	1								1
K52	その他の非感染性胃腸炎及び非感染性大腸炎	3	0.1	2	1					
K55	腸の血行障害	15	0.5	13		2				
K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	26	0.9	4		22				
K57	腸の憩室性疾患	28	0.9	21		5				2
K58	過敏性腸症候群	1		1						
K59	その他の腸の機能障害	1		1						
K61	肛門部及び直腸部の膿瘍	1				1				
K62	肛門及び直腸のその他の疾患	5	0.2	1		2				2
K63	腸のその他の疾患	114	3.7	1		1				112
K65	腹膜炎	3	0.1	1		2				

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
K70	アルコール性肝疾患	1		1						
K71	中毒性肝疾患	1		1						
K72	肝不全、他に分類されないもの	5	0.2	5						
K74	肝線維症及び肝硬変	1		1						
K75	その他の炎症性肝疾患	2	0.1	1		1				
K76	その他の肝疾患	2	0.1	2						
K80	胆石症	47	1.5	7		27				13
K81	胆のう<囊>炎	15	0.5	5		10				
K82	胆のう<囊>のその他の疾患	3	0.1			3				
K83	胆道のその他の疾患	5	0.2	4		1				
K85	急性膵炎	7	0.2	7						
K91	消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	1				1				
K92	消化器系のその他の疾患	13	0.4	12		1				
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	37	1.2	19	9	3	6			
L02	皮膚膿瘍、せつ<フルンケル>及び よう<カルブンケル>	1				1				
L03	蜂巣炎<蜂窩織炎>	17	0.6	7	3	2	5			
L04	急性リンパ節炎	5	0.2	1	4					
L08	皮膚及び皮下組織のその他の局所感染症	1		1						
L12	類天疱瘡	2	0.1	2						
L27	摂取物質による皮膚炎	2	0.1	1	1					
L30	その他の皮膚炎	1		1						
L50	じんま<蕁麻>疹	4	0.1	3	1					
L73	その他の毛包障害	1		1						
L89	じょ<く褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域	2	0.1	2						
L98	皮膚及び皮下組織のその他の障害、他に分類されないもの	1					1			
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	130	4.3	20	7	2	101			
M06	その他の関節リウマチ	1		1						
M10	痛風	1		1						
M11	その他の結晶性関節障害	3	0.1				3			
M13	その他の関節炎	4	0.1				4			
M16	股関節症 [股関節部の関節症]	14	0.5				14			
M17	膝関節症 [膝の関節症]	15	0.5				15			
M19	その他の関節症	2	0.1	1			1			

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
M20	指及び趾<足ゆび>の後天性変形	1					1			
M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	6	0.2		6					
M31	その他のえく壊>死性血管障害	2	0.1	1	1					
M35	その他の全身性結合組織疾患	3	0.1	3						
M43	その他の変形性脊柱障害	2	0.1				2			
M46	その他の炎症性脊椎障害	6	0.2				6			
M47	脊椎症	10	0.3	2			8			
M48	その他の脊椎障害	12	0.4	1			11			
M50	頸部椎間板障害	1					1			
M51	その他の椎間板障害	26	0.9				26			
M54	背部痛	5	0.2	1			4			
M62	その他の筋障害	9	0.3	9						
M65	滑膜炎及び腱鞘炎	2	0.1				2			
M72	線維芽細胞性障害	1					1			
M79	その他の軟部組織障害、他に分類されないもの	2	0.1			2				
M87	骨えく壊>死	2	0.1				2			
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	99	3.2	70	4	5		20		
N04	ネフローゼ症候群	2	0.1	1	1					
N10	急性尿細管間質性腎炎	10	0.3	9	1					
N12	尿細管間質性腎炎、急性又は慢性と明示されないもの	4	0.1	4						
N17	急性腎不全	5	0.2	5						
N18	慢性腎臓病	22	0.7	22						
N20	腎結石及び尿管結石	2	0.1	2						
N21	下部尿路結石	1		1						
N30	膀胱炎	1		1						
N39	尿路系のその他の障害	26	0.9	23	2	1				
N41	前立腺の炎症性疾患	2	0.1	2						
N60	良性乳房異形成(症)	1				1				
N61	乳房の炎症性障害	3	0.1			3				
N81	女性性器脱	4	0.1					4		
N84	女性性器のポリープ	2	0.1					2		
N87	子宮頸(部)の異形成	13	0.4					13		
N93	子宮及び膣のその他の異常出血	1						1		

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外	婦人科	眼科	放射線
X V	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	195	6.4				1	194		
002	受胎のその他の異常生成物	4	0.1					4		
003	自然流産	1						1		
004	医学的人工流産	13	0.4					13		
020	妊娠早期の出血	2	0.1					2		
021	過度の妊娠嘔吐	3	0.1					3		
026	主として妊娠に関連するその他の病態の母体ケア	1					1			
034	既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	3	0.1					3		
041	羊水及び羊膜のその他の障害	1						1		
042	前期破水	1						1		
045	(常位)胎盤早期剥離	1						1		
047	偽陣痛	21	0.7					21		
048	遷延妊娠	1						1		
061	分娩誘発の不成功	2	0.1					2		
062	娩出力の異常	1						1		
066	その他の分娩停止	4	0.1					4		
068	胎児ストレス〔仮死<ジストレス>〕を合併する分娩	2	0.1					2		
080	単胎自然分娩	98	3.2					98		
081	鉗子分娩及び吸引分娩による単胎分娩	13	0.4					13		
082	帝王切開による単胎分娩	23	0.8					23		
X VI	周産期に発生した病態	43	1.4		42			1		
P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	16	0.5		16					
P07	妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	3	0.1		3					
P21	出生時仮死	2	0.1		2					
P22	新生児の呼吸窮<促>迫	3	0.1		3					
P24	新生児吸引症候群	2	0.1		2					
P39	周産期に特異的なその他の感染症	1			1					
P59	その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	12	0.4		12					
P70	胎児及び新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	1			1					
P81	新生児のその他の体温調節機能障害	1			1					
P92	新生児の哺乳上の問題	1			1					
P95	原因不明の胎児死亡	1						1		
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	5	0.2		4		1			

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外科	婦人科	眼科	放射線
Q65	股関節部の先天(性)変形	1					1			
Q91	エドワーズ<Edwards>症候群及びパ トー<Patou>症候群	4	0.1		4					
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	71	2.3	48	17	4	1			1
R00	心拍の異常	3	0.1	3						
R02	えく壊>疽、他に分類されないもの	2	0.1			1	1			
R04	気道からの出血	1		1						
R06	呼吸の異常	3	0.1	3						
R07	咽喉痛及び胸痛	1		1						
R09	循環器系及び呼吸器系に関するその他の症状 及び徴候	1		1						
R10	腹痛及び骨盤痛	2	0.1	2						
R11	悪心及び嘔吐	10	0.3	3	6	1				
R22	皮膚及び皮下組織の限局性腫脹、腫瘤<ma ss>及び塊<lump>	1				1				
R25	異常不随意運動	1		1						
R33	尿閉	1			1					
R40	傾眠、昏迷及び昏睡	8	0.3	6	1					1
R42	めまい<眩暈>感及びよろめき感	2	0.1	2						
R50	その他の原因による熱及び不明熱	9	0.3	8	1					
R52	疼痛、他に分類されないもの	2	0.1	1		1				
R53	倦怠(感)及び疲労	1		1						
R54	老衰	9	0.3	9						
R55	失神及び虚脱	3	0.1	3						
R56	けいれん<痙攣>、他に分類されないもの	7	0.2		7					
R57	ショック、他に分類されないもの	2	0.1	2						
R63	食物及び水分摂取に関する症状及び徴候	1		1						
R79	その他の血液化学的異常所見	1			1					
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	393	12.9	46	47	20	280			
S00	頭部の表在損傷	4	0.1			3	1			
S01	頭部の開放創	1				1				
S06	頭蓋内損傷	8	0.3	6		2				
S09	頭部のその他及び詳細不明の損傷	3	0.1				3			
S13	頸部の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレ イン	4	0.1				4			
S14	頸部の神経及び脊髄の損傷	4	0.1	1			3			
S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	14	0.5			1	13			

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外	婦人科	眼科	放射線
S27	その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	1				1				
S30	腹部、下背部及び骨盤部の表在損傷	3	0.1				3			
S32	腰椎及び骨盤の骨折	32	1.0	1			31			
S38	腹部、下背部及び骨盤部の挫滅損傷及び外傷性切断	1				1				
S42	肩及び上腕の骨折	30	1.0				30			
S43	肩甲<上肢>帯の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	1					1			
S46	肩及び上腕の筋及び腱の損傷	5	0.2				5			
S51	前腕の開放創	2	0.1			2				
S52	前腕の骨折	34	1.1				34			
S57	前腕の挫滅損傷	1				1				
S61	手首及び手の開放創	1					1			
S70	股関節部及び大腿の表在損傷	3	0.1				3			
S72	大腿骨骨折	93	3.1	1			92			
S73	股関節部の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	1					1			
S82	下腿の骨折、足首を含む	31	1.0	1			30			
S83	膝の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	6	0.2				6			
S86	下腿の筋及び腱の損傷	3	0.1	1			2			
S92	足の骨折、足首を除く	5	0.2				5			
T02	多部位の骨折	10	0.3				10			
T17	気道内異物	3	0.1	3						
T50	利尿薬、その他及び詳細不明の薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	2	0.1	2						
T63	有毒動物との接触による毒作用	3	0.1	1		2				
T67	熱及び光線の作用	11	0.4	11						
T68	低体温（症）	1		1						
T78	有害作用、他に分類されないもの	51	1.7	3	47	1				
T79	外傷の早期合併症、他に分類されないもの	1				1				
T81	処置の合併症、他に分類されないもの	5	0.2			4	1			
T82	心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	12	0.4	12						
T84	体内整形外科的プロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	1					1			
T88	外科的及び内科的ケアのその他の合併症、他に分類されないもの	1		1						
T91	頸部及び体幹損傷の続発・後遺症	1		1						
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	78	2.6	38		1	1	38		
Z71	その他のカウンセリング及び医学的助言についての保健サービスの利用者	38	1.2					38		

		総数	構成比(%)	内科	小児科	外科	整形外	婦人科	眼科	放射線
Z93	人工的開口状態	1				1				
Z95	心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	37	1.2	37						
Z96	その他の機能性の挿入物の存在	1					1			
Z98	その他の術後状態	1		1						

6. 診療科別報告

(1) 内科全般

院長 風谷幸男

当院の内科は、内科医と放射線科医が一体になり、愛媛大学の協力を得て、循環器、総合内科、糖尿病、消化管、肝胆膵、血液透析、呼吸器など幅広い領域の診療を担当している。地域の中核病院としての役割を担っており、特に、循環器内科は西条圏域における中心的役割を果たしている。さらに、高度急性期医療から慢性期医療や終末期医療まで、様々なフェーズの医療を提供することで、地域の医療ニーズに真正面から取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症（コロナ）が蔓延し始めてから4年目となる2023年度、内科は国のコロナ政策の転換に伴い大きな影響を受けた。コロナは2023年5月8日に国の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に変更された。さらに、9月末で重点医療機関制度が廃止され、10月1日から、12床の即応病床を含む24床のコロナ病床を急性期病床と地域包括ケア病床に転換するというハードランディングを行った。

内科を含む全ての診療科の診療指標について、コロナ禍前を含む過去6年間で比較すると、2023年度は、外来患者数、新入院患者数、救急搬送件数、紹介患者数、手術・手技件数の5指標とも最も多かった。それにもかかわらず、1日当たりの入院患者数は189人に留まり、最も少なかった。この傾向が顕著だったのが内科である。

外来患者数は、人口の減少、処方薬の長期化に加え、病診連携が推進されてきた結果、多くの診療科で減少傾向が続いてきた。しかし、2021年度には全診療科の外来患者数が435人へと増加に転じ、2023年度は467人に達し、2022年度の458名を上回った。内科（内科・循環器内科）の2023年度の1日当たりの外来患者数は187名であり、2022年度の192名に次いで多く、コロナ禍前をも上回った（図1）。

新入院患者数は、コロナ禍前を含む6年間で2023年度が全診療科（3,381人）、内科（1,550人）とも最も多かった。特に、内科の増加が顕著であり、2022年度の1,314人、コロナ禍前である2018年度の1,207人を大きく上回った。この中には、新型コロナで入院した患者174人を含んでいるが、新型コロナで入院した患者を除いても、最多だった（図2）。

救急搬送件数も同様であり、この6年間で2023年度が全診療科（1,759件）、内科（1,172件）とも最も多く、内科の増加が顕著だった（図3）。救急搬送患者の受け入れは2次救急を担う地域の中核病院における重要な役割の一つである。この数年、西条市全体の救急搬送件数が増加しているが、当院への搬送率も増えており、西条市の救急医療における当院の役割が大きくなっていることがうかがえる。搬送時間帯別にみると、時間内が518件（うち、内科342件）、時間外が1,241件（830件）であり、時間外が多かった。時間外比率は2022年度の66.9%（61.0%）から70.6%（70.8%）へと増加し、救急搬送件数の増加は時間外の増加によるものだった。

紹介患者数は、この6年間で2023年度が全診療科（2,707件）、内科（1,825件）とも最も多く、2020年度ー2022年度コロナ禍で減少していたが、2023年度はコロナ禍前を上回った。内科の紹介率は31.2%（1,825/5,848）、逆紹介率は18.8%（1,102・5,848）であり、2022年度の紹介率（28.0%）、逆紹介率

(15.6%)を上回ったが、依然として低かった。2023年度は4月-11月まで発熱外来を行い、1,090人(2022年度は通年で2,674人)が内科の発熱外来を受診しており、その多くが初診患者であることを考えると、この数字が必ずしも当院の実態を反映したものとは言えない。しかし、それを加味しても低水準であり、紹介率を上げるとともに、逆紹介率の向上に取り組まなければならないと考えており、返書管理の徹底などに取り組んでいる。

一方、1日当たりの入院患者数は112人であり、2022年度に比し2人、2021年度に比し18人減少した(図4)。コロナ重点医療機関中は、地域包括ケア病棟の削減に伴い、急性期病棟内で高速回転せざるを得ない状況になり、急性期病棟の平均在棟日数が2021年の10.4日、2022年度の9.6日から2023年度には8.9日に減少したことが一因と考えられる。さらに、急性期病棟から他の病棟に転棟するのではなく、退院または他の医療機関や施設に移るなどの流れができ、この流れが重点医療機関制度廃止後もしばらくの間続いたことがもう一つの要因と思われる。コロナ禍を経て、入院患者の質が変わった可能性も否定はできないが、これについては分析中である

図 1. 1日当たりの外来患者数の年次推移

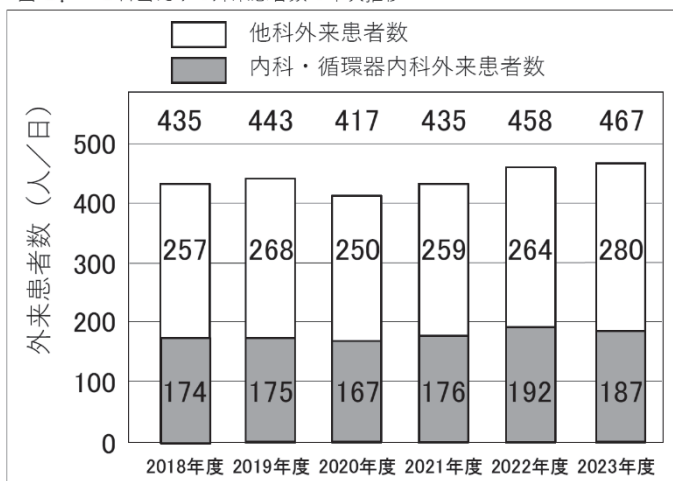


図 2. 新入院患者数の年次推移

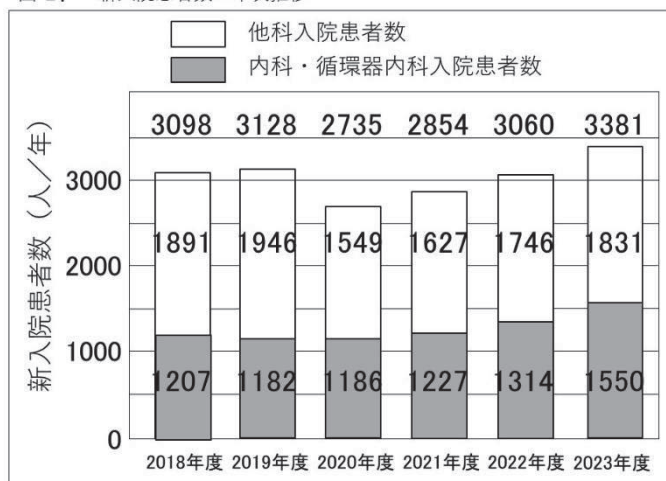


図 3. 救急搬送患者数の年次推移

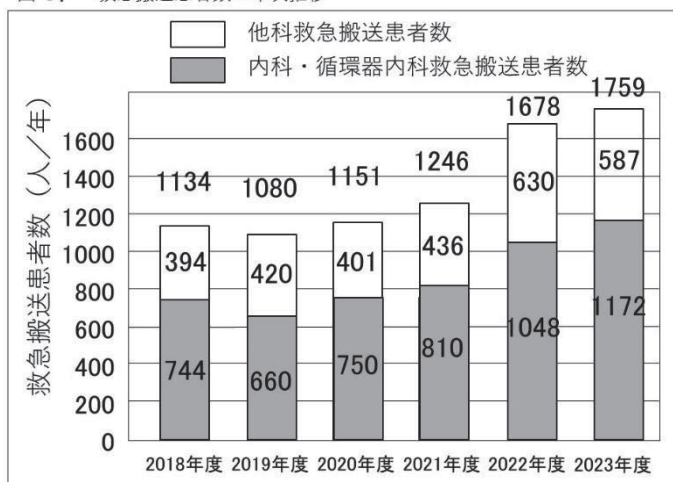
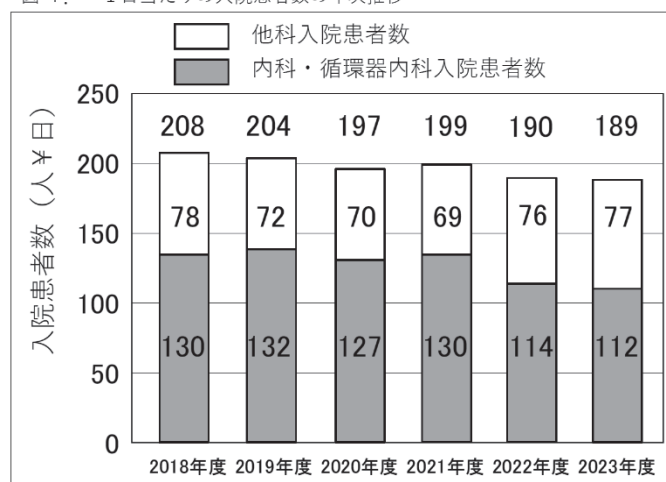


図 4. 1日当たりの入院患者数の年次推移



(2) 循環器内科

副院長 中村真胤

①この一年間の歩み (図 1, 2, 3)

循環器カンファレンスを毎週木曜朝に開催し、循環器医療に携わるスタッフが参加することで共通の意識をもって検査・治療が円滑に行えるようにしている。心臓カテーテル検査・治療は毎週木曜の午後に施行しているが、急性冠症候群 (ACS) など緊急時や木曜午後の予定枠が無い場合は不定期に施行している。2023 年度は冠動脈造影 (CAG) 137 件、経皮的冠動脈形成術 (PCI) は 142 件と昨年度より CAG と PCI 件数はともに増加しており CAG+PCI 件数と PCI 件数は過去最大であった。(図 1)。また毎月の CAG+PCI 件数は 14~33 件であり、8 月で最も少なかった (図 2)。2020 年 7 月より西条市内で発症する ST 変化を伴う胸痛患者を平日限定で受け入れる ACS ホットライン (ACS-HL) を設置した事もあり 2023 年度の ACS は 47 件で、その内、急性心筋梗塞 (AMI) は 41 件、不安定狭心症 (UAP) は 6 件と昨年度より AMI は増加した (図 3)。その他、下肢の閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術 (PTA) が 24 件、下肢静脈フィルター挿入が 5 件、恒久的ペースメーカーの植え込みが 22 件、電池交換が 4 件あった。また、当院の透析患者のシャント狭窄や閉塞をきたす症例に対して循環器科がシャント PTA を施行しており 2023 年度は 41 件であった。

②画像診断の積極的な活用

迅速な診断、治療を行うために非侵襲的な画像診断を積極的に用いている。CAG と同様に冠動脈 CT にて冠動脈の狭窄の程度を知ることが可能であり、当院は放射線技師の迅速な対応と協力もあり冠動脈 CT を多く行っている。また、症例によっては非造影、無被爆、組織識別に優れた心臓 MRI を用いて冠動脈病変のスクリーニングを行うこともあるが、心筋シンチが当院に無いこともあり冠動脈の狭窄による心筋虚血の程度を知る目的に薬剤負荷による Perfusion MRI を積極的に行っている。

③今後の見通し

2020 年 7 月より ACS-HL を設置した事で当院の西条地区における循環器救急に果たすべく責務は更に大きくなっていくと思われる。CAG にて冠動脈に狭窄病変を認め、治療の判断に悩ましい場合は冠血流予備量比 (FFR) を測定して適応を決定し、血管内エコー (IVUS) や光干渉断層計 (OCT) を用いて PCI を施行している。2021 年 12 月から高度石灰化病変を削るローターブレードやダイヤモンドバックが当院で施行可能になった。AMI や狭心症の治療後、心不全などの患者を対象に心臓リハビリテーションとして運動療法や日常生活の指導を入院時から外来まで積極的に行い、定期的に多職種カンファレンスを行い患者の社会復帰や再発予防に繋げて行くように 2023 年 4 月から心不全チームを立ち上げた。また 2023 年 7 月に愛媛大学と連携し心不全治療学講座が開設された。限られたスタッフと時間の中で当院の果たす最適な医療は、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、不整脈アブレーションの適応例や、難易度、危険性の高いカテーテル治療例などは常に高度専門医療機関と連携を保ちながら、患者の安全を第一に、必要に応じ躊躇なく専門医に治療を依頼すべきと考える。今後もチーム全体として更なる知識、技術のレベルアップを図って行くつもりである。

図 1

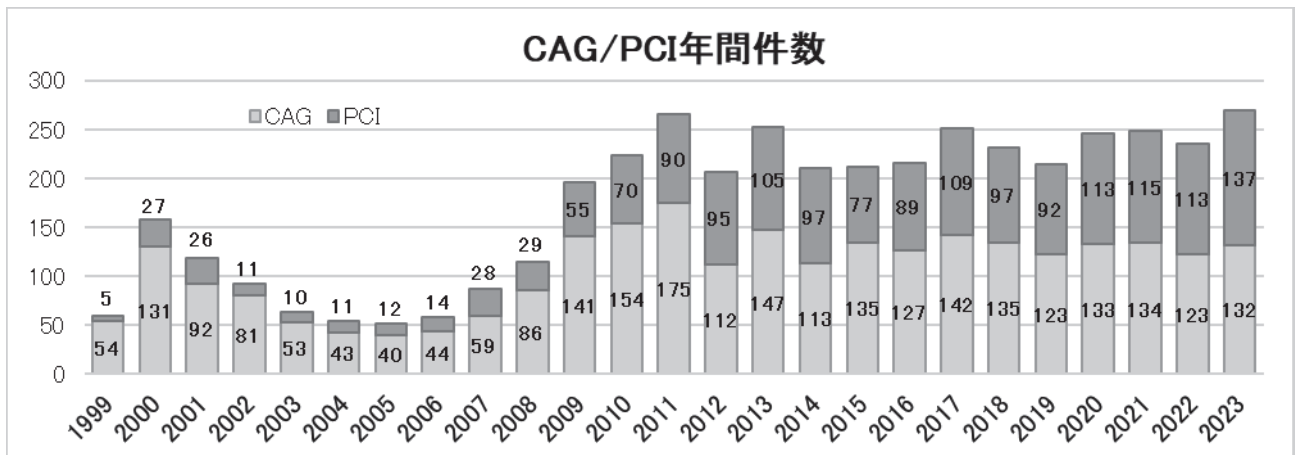


図 2

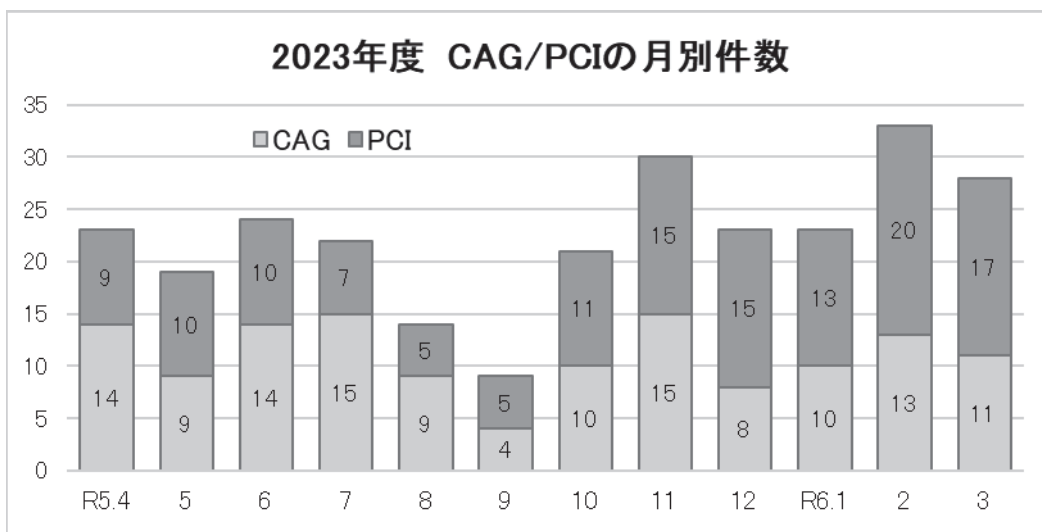
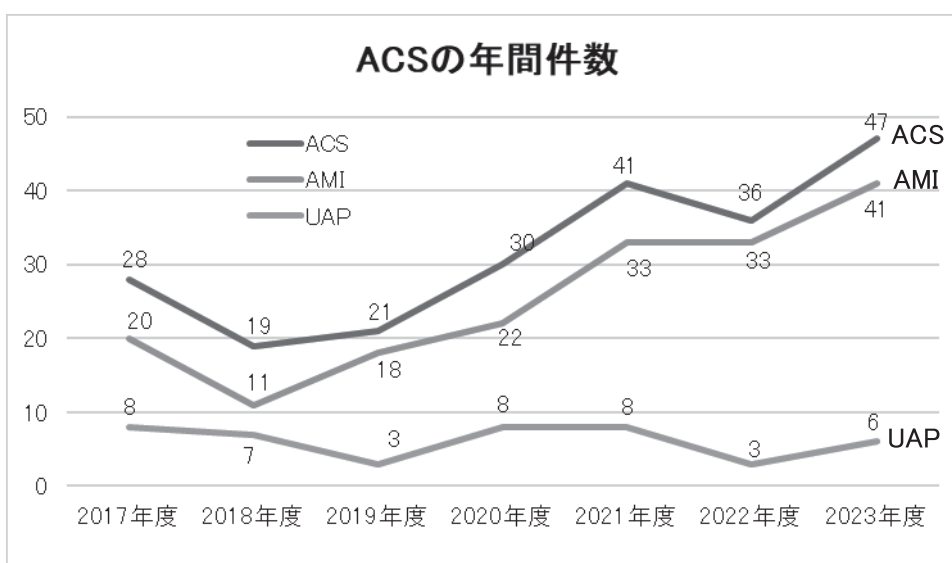


図 3



(3) 糖尿病内科

健康管理センター長 藤原正純

2023年度の糖尿病外来は1日平均約45人、1ヶ月の患者数は約800人、実患者数は約1,600人です。外来診察は月、火、水、金曜日の午前です。外来で行うインスリン、GLP-1、GLP1/GIP製剤、自己血糖測定、isCGM（間歇スキャン式持続間質液糖測定：フリースタイル リブレ及びリブレプロを使用）導入及び変更、生活指導などの看護師（一部クラーク）による年間総指導症例数は731名でした。患者の性格、理解度（認知症、高齢者の増加、難聴）、自立度、家族背景などを考慮した対応が要求され、指導に労力と心配り、粘り、傾聴等が必要とされます。自己管理が不能となり、家族管理や訪問看護師、Day Care スタッフ管理など他人管理が増える傾向にあります。

透析予防症例は7症例です。医師、看護師、栄養士が同日に指導する事が必須条件で、微量アルブミン尿の段階での早期介入に焦点を当てております。フットケア外来（足病変予防外来）は毎週月曜午前に担当者が行い、必要に応じて、皮膚科、整形外科へ紹介しております。年間87症例を行いました。フットケア外来は飽く迄、足の衛星を保ち、傷を作らない様に指導する合併症予防外来ですので、既に傷が出来て、処置や治療が必要な症例は、皮膚科受診が必要となり、フットケア外来の対象から外れます。糖尿病合併症予防のための指導であって、自己管理が基本となります。

フリースタイルリブレ及びリブレプロによる isCGM（間歇スキャン式持続間質液糖測定）の症例は現在205例（リブレ：174例、リブレプロ：31例）で2023年度新規導入は26例（リブレ：19例、リブレプロ：7例）です。皮下間質液の糖を1分毎測定、15分毎集計、糖のながれを曲線で表示するコンパクトな装置です、センサーは2週間持続装着可能で、スマートフォンと連動するリブレビューもあります。又、リブレビューを用いている人には最近リブレ2も使用可能となり、レコーダー（読み取り機）をかざさなくてもBluetoothで測定、記憶するタイプも出ております。但しリブレは皮下注射をしている症例が対象となり、経口剤のみでは保険適応されません。毎回指先穿刺の必要がなく、痛みや感染の危険も大幅に低下しますが、MRI 検査の際は外す事が要求され、ペースメーカー装着者は使えません。

2023年度の栄養指導は入院65件、外来初回49例、2回目以降47例でした。

又、他科の整形外科、外科、眼科（白内障）の周術期糖管理や入院症例の糖管理も依頼があれば致しております。妊娠糖尿病症例も産婦人科からご依頼の元、isCGMを導入し、出産へ向けてお手伝いを致しております（2023年度はリブレ導入2例）。病棟の他科からの併診依頼（糖管理）症例は常時入院症例で約20名以上、外来では300例以上の状況です。他には透析症例の糖管理も19例行っております。

(4) 小児科

主任医長 牧野 景

2023年4月は、相原香織医師、吉松卓治医師、牧野の3名体制でスタートしました。忙しいときも和やかで頼りになるメンバーで大変な中でも明るく診療させていただきました。

午前午後の小児一般外来をはじめ、乳児健診や予防接種外来、乳幼児の発育発達フォローなど幅広い診療を行っています。病棟では入院患者の回診や産科で出生した新生児の定期診察を実施しております。大学病院からの応援で、小児一般外来、神経外来、循環器外来、糖尿病・内分泌・夜尿症外来も継続できております。当院は総合病院であり、様々な科の先生方に助けていただいて成り立っています。また西条市以外からも、多くの小児リハビリを利用されている患者様がおられ、地域の小児リハビリの中心としても頑張ってくれています。

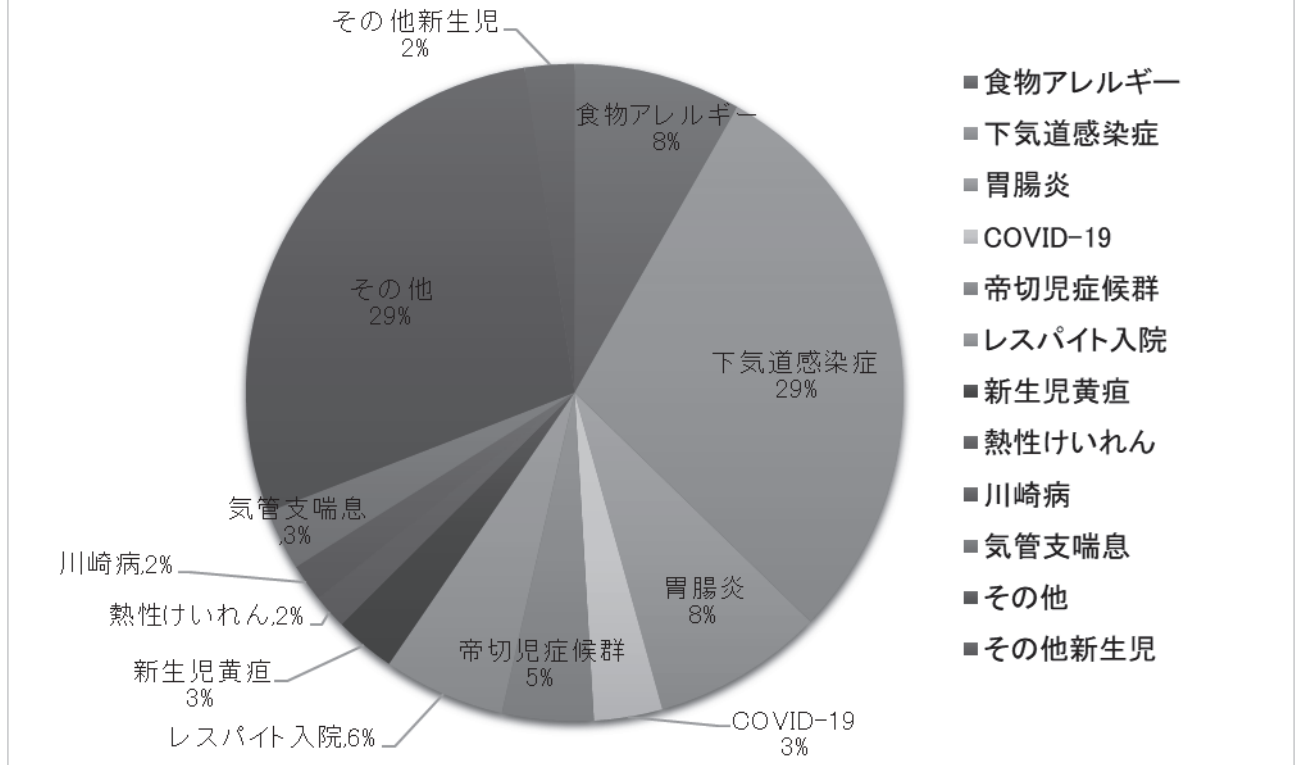
2023年度はコロナウイルス感染への対応を続けながらも、他の感染症の疾患も増加してきていました。小児のコロナウイルス患者はコロナ病棟で受け入れていただき、丁寧にご対応いただけました。病院全体での支えがあり、対応を維持することができました。レスパイト入院も重症の方にはつきっきりで、成人病棟のスタッフの皆様が一生懸命支えてくれました。小児科病棟では感染症をはじめ、食物経口負荷試験など様々な疾患に柔軟に対応いただきました。

2013年8月より開始した東予東部における小児二次救急輪番制度は、引き続き、皆様のご協力のおかげでしっかりと継続できております。全国的にも医療圏を越えて小児の二次救急輪番制を行っている地域は珍しく、モデルケースとして注目されています（日本小児科学会雑誌 2018:122;793-799）。平日夜間の一次救急は新居浜急患センターで診ていただいておりますが、2021年度から月2回、日曜・祝日の空白時間帯には当院で内科も含め一次救急の診療をしております。また地域の先生方からもたくさんご紹介いただき、西条市内唯一の小児科入院施設として地域に貢献できたと考えております。しかし、小児科医不足の影響で特に時間外診療は個々の努力により成り立っている部分が多く、将来的には一次救急も医療圏を超えた集約化が望まれます。

本年度は、2名の研修医が当科にて研修されました。小児科ならではの疾患への対応や処置を経験していただきました。毎日のカンファレンスで状況を確認しつつ、分野ごとのレクチャーを行いました。2名とも、小児科研修の前後で大きく成長され、とても嬉しく思いました。

子ども達や、子どもをみている親も安心して地域で過ごせるような、西条市の小児医療に貢献できるよう、日々皆で頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

西条中央病院 小児科 2023年度 入院症例 n=534



(5) 外科

副院長 小野仁志

【診療体制】

小野、佐藤両医師に加え、2023年4月から愛媛大学の名誉教授 渡部祐司医師が着任され、また、外科専攻医の内藤宏貴医師が着任し、常勤医師4名と以下の非常勤医師3名で外科診療を行っています。

火曜日午後に愛媛大学消化管腫瘍外科の押切太郎教授に上部消化管疾患の診療・手術支援を、金曜日午後は桑原淳小児外科専門医による小児外科外来を、火曜日午後に愛媛大学心臓血管外科黒部裕嗣准教授による心臓血管外来を行っています。

【研修医指導】

外科研修医指導に関しましては2023年は基幹型1年目の2名の研修医を迎えました。大西研修医は4月、5月に、吉岡研修医を9月10月に迎え、外科研修および一般外来研修を行いました。1年目の必修研修としては、①麻酔時の換気および気管挿管②一般外来の単位取得③外科外来処置④手術治療の実際の知識習得、⑤多職種チーム医療への参加を実践しております。

【外科関連の施設認定】

施設認定としては、外科学会外科専門医指定施設、消化器外科専門医関連施設、日本乳癌学会関連施設、日本がん治療医認定施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設に認定され、外科系専門医を取りやすい環境になっています。

【診療範囲】

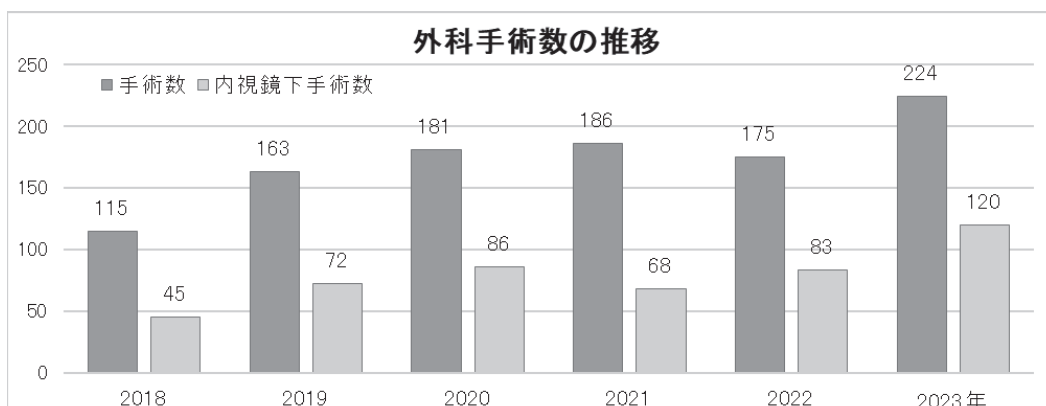
当院では、従来より行われていた胆石症や虫垂炎に対する腹腔鏡下手術に加えて、大腸がんや胃がん手術に対して腹腔鏡下手術を標準としており、特に消化器がん手術症例が増加しています。

また当科では、乳癌学会関連施設として乳癌を含めた乳腺疾患の診断・手術治療も行い、甲状腺の診断・治療をしています。

がん患者さまに対する診療に力を入れており、外来化学療法室での外来化学療法や緩和ケア診療も積極的に行っています。また、緩和ケアチーム、NST（栄養サポートチーム）と連携して、患者様の症状や栄養状態の改善に努めています。

【2023年度の実績】

手術実績では、NCD手術登録症例は、2018年115例、2019年は163例、2020年は181例、2021年は186例、2022年は175例、2023年224例と増加しています。腹腔鏡・胸腔鏡による鏡視下手術は2018年115例中45例、2019年163例中72例、2020年は181例中86例、2021年は186例中68例、2022年は175例中83例、2023年は224例中120例と手術全体に占める内視鏡下手術も増加しています。



(6) 整形外科

部長 竹田治彦

整形外科では、2023年4月より福田医師が着任されて現在、医師は常勤2名と非常勤3名です。福田医師は2014年からの3年間当院に在籍し、その後異動されてさらに外傷を中心に経験を積まれてこの度帰って来られました。福田医師を含めて当科に関わる外来、病棟、そして手術室他の医療スタッフが東奔西走して当科の業務を行っています。当科の実績ですが、一昨年に増加した外来及び入院患者数を昨年度はほぼ維持し、手術件数も一昨年に大幅に増加した件数を昨年度は概ね維持しています(表1)。

また、同23年4月より毎週水曜日に愛媛大学から、奇しくも福田医師の旧友である山岡先生に出向して頂いています。山岡先生は脊椎外科を専門とし、前任の森野医師を引き継いで西条、新居浜地域の脊椎疾患の受け皿という重責を担って頂いています。特筆すべきは脊椎内視鏡手術の導入です。脊椎外科のなかでも内視鏡手術は特に専門性の高い領域であり、耳目を集めて地域の枠を超えた県内各地からの手術目的の患者さんや他院の整形外科先生の手術見学など幅広く人が集まっています。一方で愛媛大学から応援の先生は上述の山岡先生に加えて、第4火曜日に高尾教授と毎第2第4土曜日に忽那先生にも出向して頂いています。高尾教授は股関節外科を専門とし、特に手術のコンピュータ支援の導入により術前のAI支援による3次元画像計画から手術中のナビゲーションシステムまで一貫して人工関節の正確な設置に努めています。これまで術後成績は概ね良好であり、今後も継続していく予定です。さらに忽那先生は股関節と膝関節が専門で、関節鏡手術、骨切り手術、そして人工関節手術まで幅広く行います。特に人工膝関節手術はこれまで三浦前教授が当院に出向されて多くの患者さんの手術を行い地域に福音を届けてきましたが、三浦教授の退職後は忽那先生がその流れを縷々に引き継いでいます。

このような多士済々の先生方に加えて、他科及び地域の先生方さらに当院他職種の職員によりこの整形外科は支えられています。他方で県内の医師不足や地方の空洞化の問題に目を向けると、この地域もその遷移が現実のものと感じます。以って広い視座を持ちこの地域の整形外科、引いては地域医療を堅守することが枢要です。今後も病病・病診連携、そして愛媛大学病院との連携を大事にして、地域にやさしい整形外科として努力を重ねたいと思います。

表1. 整形外科における外来、入院患者数、手術件数の推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来延患者数	14,259	14,166	13,341	14,361	14,084
入院延患者数	15,243	15,592	14,325	17,582	16,721
手術件数	250	220	210	302	291

(7) 産婦人科

部長 村上雅博

【2022年度の診療実績】

外来患者数は7,533人で、前年度7,563人であった。2021年1月から愛媛大学からの外来派遣が一部中止され木曜日は1診体制となったが、常勤医が2名となり予約制限を緩和し当日の受診希望にも可能な限り対応している。

手術件数は75件（前年度84件）であった。子宮全摘などの開腹手術は0件（前年度5件）、腹腔鏡下手術は13件（前年度13件）、子宮頸部円錐切除術は13件（前年度9件）、子宮鏡下手術は3件（前年度3件）、子宮頸部蒸散術は5件（前年度10件）であった。

行政政策の誘導によりHPVワクチン接種希望者が増加していくことが見込まれる。

流産手術は4件（前年度5件）で、人工妊娠中絶は9件（前年度7件）であった。2023年5月に経口中絶薬が認可されており、今後は流産/中絶手術が減少すると予想される。

分娩件数は140件（前年度128件）、うち選択的帝王切開分娩は19件（前年度17件）、緊急帝王切開は5件（前年度6件）であった。夜間、休日など対応が困難であった場合は愛媛県立新居浜病院等へ救急母体搬送した。

母乳育児を積極的に推奨し母乳率は県内トップレベルを維持している。2022年度の産後1か月健診時の完全母乳率は66.8%（前年度69.8%）だった。

西条市産後ケア事業の市指定医療機関として宿泊型23件（昨年度33件）、日帰り型23件（昨年度12件）、訪問型0件（昨年度1件）に対して健康管理、乳房ケア、授乳指導、沐浴指導などをおこなった。

【診療体制】

常勤医2名（村上雅博、吉田 望）と非常勤医3名（関 正明、愛媛大学：今井 統、宮上 眸）にて24時間体制で診療を行った。

【診療範囲】

① 産科について

妊娠および周産期管理を行っている。里帰り分娩も受け入れている。糖尿病でインスリン注射が必要な方や双胎妊娠などのハイリスク妊娠は愛媛県立新居浜病院などに紹介している。

当院では妊婦健診のたびに助産師指導がなされ、妊娠および出産・育児への継続的なかわりを行っている。また、両親学級、ベビーマッサージ教室、産後ケア入院を実施している。

② 婦人科について

婦人科がん検診、月経異常、更年期障害、不妊相談、骨盤臓器脱などの診療を行っている。婦人科浸潤がんなど集学的治療を要する疾患については愛媛大学や四国がんセンターに紹介している。不妊症については2022年4月より保険適応となったことから高度生殖補助医療が可能な専門クリニックへの紹介希望患者が増加している。

【今後の取り組み】

妊娠・分娩時のトラブル防止に努めること、母乳育児を推進することを継続する。分娩制限を解除したことで増加する妊産婦に対応するため病床の確保、スタッフの増員と新人教育をおこなっていく。近隣産婦人科施設と連携を継続する。

(8) 放射線科

特任副院長 二宮克彦

放射線科は現在専門医 2 名の常勤体制で業務を行っている。業務内容は CT、MR、胸部 X 線写真の読影の他、消化器内科医が不在のため消化器系の検査・治療は当科が主体となり施行している。CT、MR の件数は前年と比較し、CT は著明に増加し前年度と比較し約 1,000 件増加、MR は 53 件増加した。上部・下部の内視鏡検査件数、胃腸の ESD 件数はいずれも軽度増加した。検査件数が全体に増加したが CT の件数増加が目立った年度であった。

【2023 年度の検査件数と動向】

CT の総件数は 8,018 件で前年度(7,296 件)と比較し 922 件増加した。内訳は頭部・頭頸部 CT が 1,152 件(前年度 972 件で 180 件の増加)、躯幹部 CT は 6,418 件(前年度 5,752 件で 666 件増加)であった。躯幹部 CT 増加の内訳は胸部・腹部 CT が 487 件増加。整形外科領域(椎体、四肢)の検査件数は 993 件で(前年度 796 件)で 196 件の増加を認めた。心臓 CT の件数は 248 件(前年 251 件)で微減した。CT 検査件数はいずれの領域でも増加していたが脊椎の CT 件数が前年 157 件、今年度 270 件で増加がやや目立った。

MR の総件数は 3,248 件で、前年度(3,195 件)と比較し 53 件増加した。内訳は頭部が 1,217 件(前年 1,212 件)、整形領域が 996 件(前年 924 件)、腹部・骨盤領域が 879 件(前年 923 件)、心臓 MR の件数は 122 件(前年 88 件)であった。心臓 MR 件数がやや増加したが、ほぼ前年と同様の傾向であった。

上部内視鏡の検査件数は 3,848 件で前年度(3,780 件)より 62 件の増加、大腸内視鏡検査は 938 件で(前年 928 件)10 件の増加、大腸ポリペクトミー件数は 115 件(前年 105 件)で前年より 10 件増加した。胃腸の ESD 総件数は 30 件(胃 11 件、大腸 19 件)と前年(28 件)より微増した。昨年度早期悪性腫瘍粘膜下切除術の施設基準を取得したが今後とも維持に努める必要がある。

胆道系(EST, PTCD)の治療件数は 40 件で前年度(25 件)より 15 件増加した。肝臓の治療件数は前年に引き続き 0 件であった。

【2024 年度目標】

例年通り以下を目標として挙げた。

- 1) 患者への丁寧な対応と説明
- 2) 紹介患者に対する迅速かつ正確な診断結果報告
- 3) 質の高い検査と読影
- 4) 患者にとって苦痛の少ない内視鏡検査と内視鏡治療

今後とも地域に貢献し信頼される放射線科を目指したいと考えている。

(9) 麻酔科

主任医長 葛川洋介

【診療体制】

2023 年度から常勤医師 3 名体制で診療を行っている。

【2023 年度診療実績】

外科手術の件数は年々増加傾向である。麻酔科医が 1 人体制から 3 人体制になった事で、脊椎麻酔で対応していただいていた整形外科手術を、全身麻酔でより安全に麻酔科管理で対応する事が出来た。結果的に全身麻酔件数が大幅に増加した。

【2024 年度診療目標】

今後もより良い医療を患者様に提供する事を目指す。また、例年通り救急救命士の気管挿管実習を行い、地域にも貢献出来る手術室を目指す。

手術件数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外 科	184	182	188	216	235
整 形 外 科	250	220	210	302	291
産 婦 人 科	59	110	120	84	75
眼 科	250	251	224	184	155
耳 鼻 咽 喉 科				19	28
泌 尿 器 科	12	22	17	17	12
合 計	755	785	759	822	796

麻酔件数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
マスク又は 気管内挿管全身 麻酔	342	345	318	342	394
硬膜麻酔又は 脊椎麻酔	69	80	103	107	71

(10) 歯科

医員 山崎悠貴

【診療体制】

現在歯科は常勤歯科医師1名と愛媛大学付属病院から出向されている中城准教授の非常勤歯科医師1名、歯科衛生士4名、受付1名で業務にあたっています。

【診療内容】

主にう蝕や歯周病に対する治療や義歯の作製といった一般歯科治療、周術期における口腔機能管理、病棟における口腔ケアを行っています。

加えて口腔外科の標榜のもと、近隣歯科で対応できない有病者の歯科治療や親知らずの抜歯、口腔粘膜疾患や腫瘍、顎関節症、口腔外傷などといった疾患の診断や治療も対応しています。

また保健衛生活動として、歯科疾患予防のための歯科衛生士を中心とした口腔清掃指導や人間ドック、酸蝕症検診、企業検診、幼稚園検診等も行っていきます。

【診療実績】

患者数はここ数年低下傾向でありましたが、本年度はコロナ禍以前の水準まで復調しました。また、診療点数に関しても大幅に増加しました。終日の口腔外科対応や、院内外からの周術期および化学療法時の口腔ケア介入数の増加、透析患者への受診推奨などが一因と考えられます。

歯科における外来患者数、診療点数の推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
患者数(人)	7,476	7,277	6,758	6,787	7,446
診療点数(点)	3,899,340	4,662,181	4,673,522	4,729,258	6,436,053

【今後の課題と取り組み】

昨年度は患者支援センターや他科外来と連携して頂いたことで、全身麻酔前後の口腔ケアならびに化学療法中の口腔ケア介入数が増加となりました。それに伴い施設基準を達成できたため、本年度より地域歯科診療支援病院としての届け出を行う予定としております。引き続き他部署の方々にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、施設基準達成の維持のためご協力いただければ幸いです。

また2024年5月より歯科衛生士枠が増員となり、5名体制で診療にあたります。2023度は外来診療の圧迫により往診での病棟口腔ケア介入数が横ばいであったため、2024年度はさらに積極的な介入や質の高いケアを提供できるよう取り組んでまいります。

(11) 透析センター

院長 風谷幸男

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）が蔓延し、透析施設でもクラスターの発生事例が報告されている。透析患者が新型コロナに感染すると、重症化しやすい上に受け入れ先が限られているため、生死に関わる事態になりかねない。このため、当院透析センターでも感染対策に万全を期すとともに、重点医療機関になってからは、県立中央病院、山師定腎糖尿病センター長の指導の下、新型コロナに罹患した患者の透析を担ってきた。2023年度の患者数は14名で、4名が入院、残る10人は外来で対応した。入院後1名が死亡したが、他は、新型コロナは全員治癒した。厳密な感染対策と透析患者全員の協力により二次感染を起こすことはなかった。

わが国の透析人口は、伸びが鈍化しているものの増加し続けており、2022年度の全国統計では34万7,474人に達している。透析患者の生存率の著明な改善と、糖尿病性腎症の増加、高齢化などが主な要因と考えられる。透析導入の原因疾患は、糖尿病性腎症が最も多く39.5%、次いで慢性糸球体腎炎が24.0%、腎硬化症が13.4%と報告されている。3大要因に大きな変動はなく、透析療法のニーズは高い状態が続くものと思われる。各透析治療形態は、血液透析（hemodialysis）が45.9%、血液透析濾過（hemodiafiltration；HDF）が55.1%、血液濾過（hemofiltration）が0.1%、在宅血液透析（home hemodialysis）が0.2%、腹膜透析（peritoneal dialysis）が2.4%となっている。

当院の透析患者の推移を見ると（図1）、2023年度の新規導入は8人で昨年より1人減少している。死亡は13多く、転入2、転出1であった。このため、2024年3月末には58人となり、昨年より7名減少した。

当院では血液透析と血液透析濾過を行っている。血液透析濾過は増加傾向にあり、特に2012年の診療報酬改定以降 on-line HDF が急激に増加してきている。当院では11台の on-line HDF 装置を有し、現在26人の患者に施行している。

シャントPTAは43件（予定27件、緊急16件）で、昨年度の30件を大幅に上回った。全国的に透析患者は高齢化しており、当院でも同様の傾向が認められている。平均年齢は70.8才で昨年度よりも0.5歳上がった。年齢別では、40才代が0名（0%）、50才代が7名（12.1%）、60才代が18名（31.1%）、70才代が21名（36.2%）ともっとも多く、80才代が10名（17.2%）、90才代が2名（3.4%）であった（図2）。当院の透析患者数は2011年の81名をピークに減少傾向にある。毎年新規導入患者は10人前後確保されているものの、高齢化により死亡者数が増加していることが主な要因となっている。なお、2014年から2015年にかけて大幅に患者数が減少しているのは、新規開業した透析医への転出が多かったためである。

当院透析センターでは、来年度も新規導入患者を確保に努めるとともに、引き続き感染対策を行いながら患者さんの安全を第一に業務を進めてまいりたい。

図1. 透析患者数の経年推移（年度末）

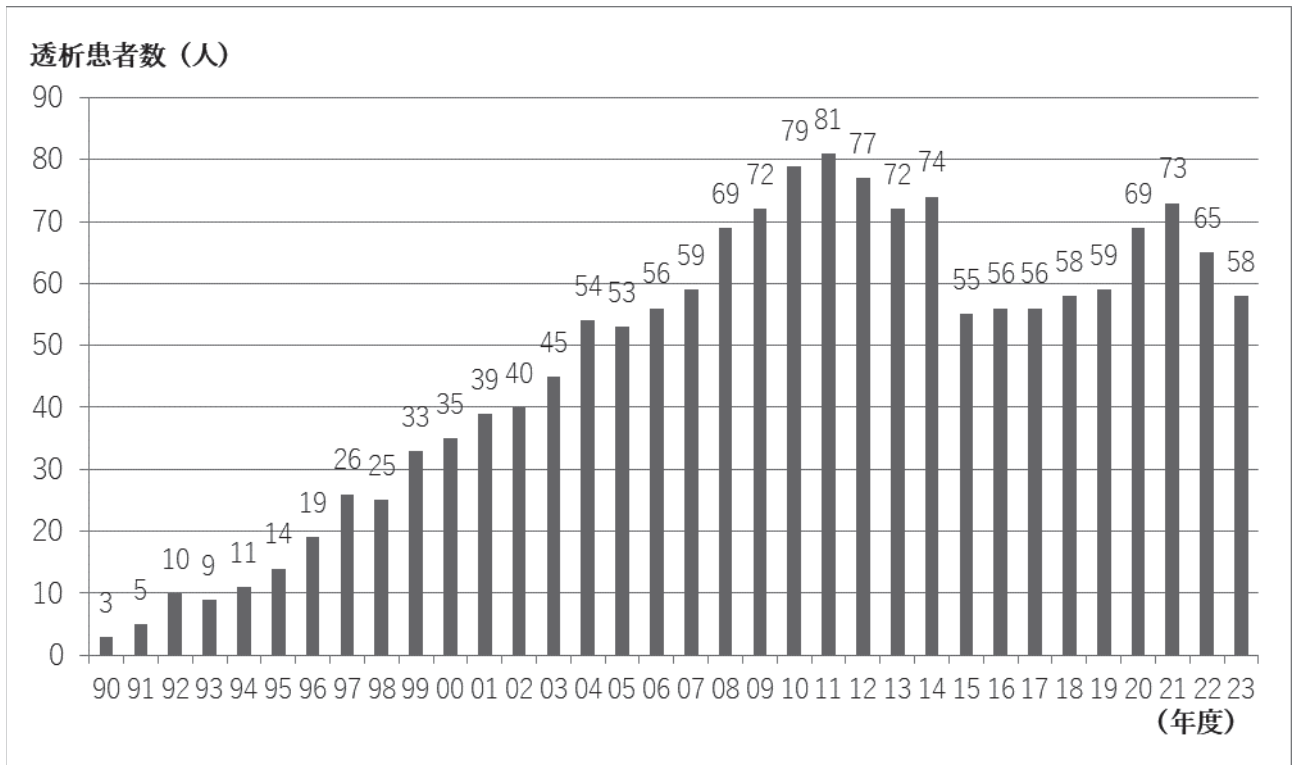
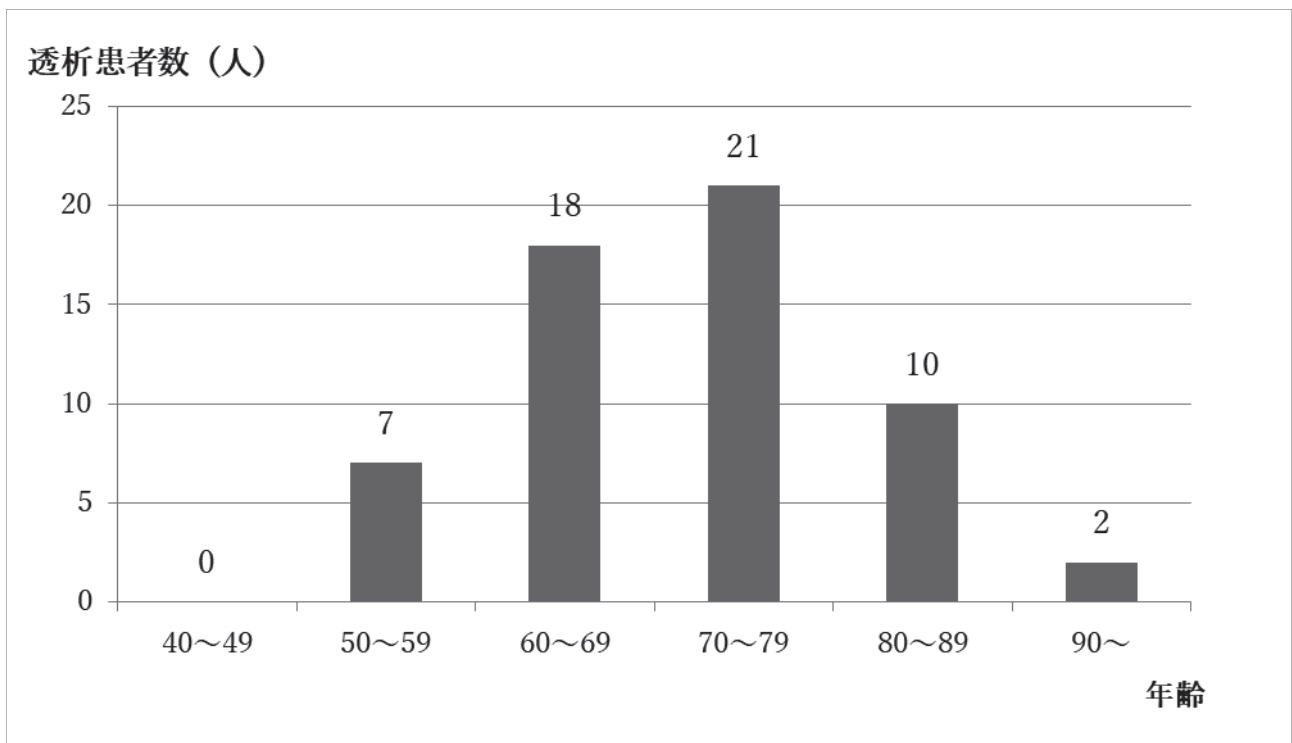


図2. 年代別透析患者数（2023年度）



7. 学術業績

内科・循環器内科

論文発表

1. 大下祐也, 入田 純, 森 弥華, 中村真胤, 宮崎慈大, 阿部亜里紗, 森 英城, 太宰康伸, 高田泰治, 風谷幸男
感染性大動脈炎の診断, 治療効果判定に低 b 値MR I 拡散強調画像 (low-b DWI) が有用であった 1 例
心臓 Vol. 55 No. 3 (2023). 282-288.

学会・研究会・講演会発表

1. 中村真胤, 中矢雄一郎, 吉本光平, 阿部亜里紗, 森 弥華, 入田 純, 森 英城, 太宰康伸, 保利友美, 児島加代子, 風谷幸男, 高田泰治
地域中核病院での心不全診療の取り組み
第 123 回日本循環器学会四国地方会 (2023. 12. 2)
2. 中矢雄一郎, 中村真胤, 吉本光平, 阿部亜里紗, 森 弥華, 入田 純, 森 英城, 太宰康伸, 風谷幸男, 高田泰治
当院における心不全入院患者の心腎貧血鉄欠乏症候群との関連性についての検討
第 123 回日本循環器学会四国地方会 (2023. 12. 2)
3. 中矢雄一郎, 中村真胤, 吉本光平, 阿部亜里紗, 森 弥華, 入田 純, 森 英城, 太宰康伸, 風谷幸男, 高田泰治
COVID-19 感染後に発症した可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症の 1 例
第 129 回日本内科学会四国地方会 (2023. 12. 3)
4. 吉本光平, 近藤史和, 入田 純, 森 英城, 太宰康伸, 中村真胤, 風谷幸男
感染性心内膜炎治療中にアンピシリンによる薬剤性間質性腎炎を発症した一例
第 129 回日本内科学会四国地方会 (2023. 12. 3)

糖尿病内科

論文発表

1. 藤原正純 DrugFlag 当院におけるイメグリミン処方時の工夫: より安全に, 効果的に使用するために
診療と新薬 2023 ; 60 (12) : 772-773

学会・研究会・講演会発表

(講演)

1. 藤原正純藤原正純 四国中央市糖尿病講演会 症例検討会: アドバイザー、特別講演「臨床現場での糖管理～インスリン、GLP-1 製剤などの使用を含む」

四国中央市 (2023. 8. 9)

2. 藤原正純 四国中央市糖尿病講演会 症例検討会: アドバイザー、特別講演「日常臨床での糖管理」
四国中央市 (2024. 2. 14)

小児科

学会・研究会・講演会発表

1. 牧野 景、吉松卓治、相原香織 小児の摂食嚥下について
西条小児科医会. 西条 (2023. 5)
2. 吉松卓治、相原香織、西村幸士 背部痛、背部腫脹で発症した IgA 血管炎の男児例 西条小児科医会. 西条 (2023. 6)
3. 相原香織、吉松卓治、牧野 景 ピボキシル基含有抗生剤投与に伴う低カルニチン血症による低血糖をきたした 1 例
西条小児科医会. 西条 (2023. 11)

外科

論文発表

(論文・英文原著)

1. 1. Hironori Matsumoto, Kei Ishimaru, Satoshi Kikuchi, Satoshi Akita, Yuji Yamamoto, Motohira Yoshida, Shigehiro Koga, Hiroyuki Egi, Yuji Watanabe
Efficacy of Coagulofibrinolytic Markers for Postoperative Prediction of Venous Thromboembolism in Colorectal Surgery Patients: A Retrospective Observational Study
Journal of the Anus, Rectum and Colon dx.doi.org/10.23922/jarc.2022-077
2. Yusuke Ogi, Hiroyuki Egi, Kei Ishimaru, Shigehiro Koga, Motohira Yoshida, Satoshi Kikuchi, Satoshi Akita, Hiroki Sugishita, Hironori Matsumoto, Tetsuya Shimokawa, Akihide Takeuchi, Yuji Watanabe
Cadaveric and CT angiography study of vessels around the transverse colon mesentery
World J Surg Oncol 2023 Feb 6;21(1) doi:10.1186/s12957-023-02919-9

著書

渡部祐司 (共著)

ハイパーサーミア (癌温熱療法) 装置 pp 209-218、2023 年
臨床工学講座 医用治療機器学 医歯薬出版株式会社

学会・研究会・講演会発表

1. 大西修平、内藤宏貴、小野仁志、佐藤元通、渡部祐司、藤原佑太
虫垂重積症の 1 例 (第 75 回愛媛外科会、第 9 回日本臨床外科学会愛媛支部総会)
愛媛県医師会館、愛媛 (2023. 8. 5)
2. 吉田素平、恵木浩之、石丸 啓、古賀繁宏、大木悠輔、武智 瞳、杉下博基、渡部祐司
第 85 回ヘルスアカデミー (市民公開講座) 消化管の病気 -診断・治療の新時代-

伊予鉄高島屋ローズホール (2023.2.5)

3. 渡部祐司 東温市医師会講演会 消化器外科の変遷と将来展望
愛媛医療センター (2023.1.18)

4. 渡部祐司

退官記念講演「発想から形へ」 -研究・臨床・教育- 医学部 40 周年記念講堂

5. 内藤宏貴、大木悠輔、恵木浩之、石丸啓、古賀繁宏、吉田素平、秋田聡、菊池聡、杉下博基、桑原淳、武智瞳、垣生恭佑、渡部克哉、五葉海、中田俊輔、穴井貴之、渡部祐司

横行結腸癌術後の直腸腹膜播種再発に対してロボット支援下直腸切除術・右精嚢合併切除を施行した 1 例 (2023.3.24)

第 35 回四国内視鏡外科研究会 (2023.2.25)、徳島市

6. 内藤宏貴、吉田素平、渡部祐司

術前に Nivolumab+SOX 療法を施行し conversion 手術で根治切除が得られた 2 例
第 78 回日本消化器外科学会総会、函館市 (2023.7.12)

整形外科

論文発表

(論文・英文原著)

1. Toshiaki Takahashi, Seiji Watanabe, Masanori Hino, Haruhiko Takeda, Toshio Ito.

Excellent short-term results of dome-shaped high tibial osteotomy combined with all-inside anterior cruciate ligament reconstruction. J Exp Orthop. 10(1):69.2023

8. 臨床研修管理室活動報告

研修管理委員長兼プログラム責任者 小野仁志

2023年度は、基幹型初期研修医8期生2名が4月1日に入職いたしました。当院基幹型研修医は総勢3名となりました。また、協力型臨床研修医1名（十全総合病院1名）を受け入れ、必修の小児科研修を行いました。そして、2023年3月22日に基幹型初期臨床研修医7期生1名が無事、初期研修を修了しました。

2016年4月に最初の基幹型初期臨床研修医2名が着任してから、連続して8年間、研修医が当院を初期研修の場として選んでくれており、職員一同大変うれしく思っております。

2020年に医師臨床研修制度の見直しに伴うプログラムの変更がなされ4年目となり、外科、小児科、産婦人科、精神科が必修選択科目となり、一般外来研修を20日以上行い、訪問診療についても必須項目となりました。研修医評価、指導医評価についてスマホでも評価が行えるEPOC2を使用し、研修医評価に指導医以外に、多職種評価（当院では看護師）が含まれています。

COVID-19の影響で、歓送迎会やアフター5の慰労会などがなかなかできず、指導医－研修医間の問題拾い上げや、指導医間の意思疎通が制限される状況が続いていましたが、アフターコロナの時期となり、できるだけ風通しの良い初期研修が行え、修了後に専門医研修にスムーズに移行できるような対応を考えています。

当院の研修の良い点、悪い点はあると考えていますが、研修医の満足度の高い研修実績を積み重ねているものと信じています。実際は、個々の研修医が研修終了後、専攻医の過程あるいは、専門医になった後で、初期研修生活を振り返ることで、真の満足度は評価されるものかもしれません。

研修医のマッチングが続くように、今年度も愛媛大学医学部の県内病院説明会への参加やwebの病院説明会に参加し、研修病院としての魅力を伝えました。リアルな病院見学も6名来ていただきました。10月のマッチングは3名とフルマッチしました。

2018年度より新専門医制度が開始され、当院は内科、外科、整形外科が専門研修連携施設として、小児科は研修可能施設として登録されています。専門医研修中や専門医研修終了後でも当院での研修を希望していただけるようにと期待しています。

臨床研修管理室は、研修医が医師としての最初の充実した2年間を送り、今後の医師人生の方向性をも決める重要な時期を応援します。同時に研修医がいることが、西条中央病院を盛り上げ、活気づける極めて重要なことです。そのため、西条中央病院研修の持ち味である研修医を暖かく受け入れる『職員全員でウェルカム』の体制を今後も継続していきます。

2023年度 活動実績

時期		行事	場所（主催者）	備考
4月	3日	入職式	講義室	基幹型臨床研修医 8期生2名採用
	3・4日	オリエンテーション	講義室	
	5日	研修医合同オリエンテーション	愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター	県内の基幹型臨床研修医 1年目対象

	6日	医師会オリエンテーション	愛媛県医師会	
6月	8日	医師臨床研修マッチング [※] 参加登録		
8月	5・6日	卒後臨床研修指導医講習会	愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター	麻酔科：越智先生
	12日	病院見学		愛媛大学5年1名
	26日	初期臨床研修医採用面接		
10月	3日	医師臨床研修費補助事業申請書提出		
	26日	医師臨床研修マッチング [※] 組み合わせ結果発表		マッチ者3名
11月	7日	第1回臨床研修管理委員会	講義室	
12月	1日	基幹型臨床研修病院説明会	愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター	愛媛大学医学部5年生対象
1月	13・14日	卒後臨床研修指導医講習会	松山赤十字病院	麻酔科：上原先生
	27日	基本的臨床能力評価試験 (CBT方式)	日本医療教育フロンティア推進 機構(JAMEP)	研修医3名
3月	6日	第2回臨床研修管理委員会	講義室	Zoom使用Web参加併用ハイブリッド方式
	11日	奨学生面接		
	13日	修了式	講義室	7期生1名
	16・20日	愛媛県オンラインイベント	(株)シーメック	アーカイブ配信
	23日	病院見学バスツアー		愛媛大学5年1名 愛媛大学4年3名 香川大学3年1名

9. 看護部門報告

部長 田坂嘉子

(1) 2023 年度看護部の取り組み

新型コロナウイルス感染症は、これまで新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）でしたが、2023 年 5 月 8 日から 5 類感染症に移行されました。5 類感染症とは、感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）が定める感染症の 5 類型のうちの 1 つで、感染力や重篤性などに基づく総合的な観点からみた危険性が最も低いとされるものです。季節性インフルエンザや麻疹、風疹、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症などの一般的な感染症は、ここに分類されています。そのような背景において、アフターコロナ後も地域の中核病院としての役割を發揮するために、看護提供体制の再構築が必要とされる年でありました。

看護部は、①VUCA 時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な状態）に対応できるイノベーションの推進、②地域のニーズに応える医療・看護の提供、③病床機能の役割を認識した質の高い看護の提供を方針として活動しました。

年間を通しての具体的な活動実績です。4 月に看護管理職の大幅な人事異動を実施しました。この異動における一番の目的は、急性期における救急医療の強化です。特定認定看護師の資格を持つ主任看護師を救急管理師長に任命し、救急外来や循環器ホットラインにおける看護管理を強化しました。この成果として、コロナ前と 2023 年度の救急車搬送件数を比較すると約 1.5 倍増加しています。また、高度な治療を必要とする緊急入院や心臓カテーテル治療・外科系術後の治療を充実させるために、急性期病棟併設型の高度急性期機能を担うハイケアユニットを開設しました。

また、救急医療に関連した事業として、西条消防署と当院におけるオリジナル版救急ワークステーションが開始されました。救急ワークステーションは、救急救命士病院実習の 1 つですが、実習中に救急車を病院に常駐させ、救急救命士と看護師が救急現場に直行し、患者さんやご家族に接することで、全身状態の観察や聞き取りにより傷病状況を把握します。その後、現場や救急車内で医師の事前指示に従い速やかに治療が開始されること、また、病院内で勤務している医師と連携し、病院搬送時間の短縮や搬送直後に CT 検査など速やかに検査が実施でき早期診断につなげることができます。さらに、救急救命士と看護師が互いに協働することで、顔の見える関係ができ、救急搬送について意見交換する機会にもなっています。2024 年度も救急ワークステーションは継続予定であり、今後は、消防と複数の医療機関との連携がさらに拡大されることにより救命率の向上など西条市の救急医療の質向上に発展していくことが期待されます。

2023 年 4 月 1 日に、13 名の新人看護師が入職しました。当院看護部は教育師長の配置や院内外の教育研修、クリニカルラダーの導入など教育体制を整備しています。特に看護職の基盤となる 1 年目から 3 年目までの教育体制を強化しています。また、部署の看護管理職が主となり現場看護職全員で後輩育成することや共に育つことを意識しています。その効果もあり、2022 年以降の新人看護師離職率は 0%です。今後も将来の地域医療を担う若手看護職を大切に育てていきたいと思えます。

看護部は看護師の特定行為研修にも力を入れています（表 1）。国が進める働き方改革の 1 つであるタスク・シフト/シェアや医療の質向上の観点からも看護師の特定行為は重要であります。今後も積極的に育成し、地域医療につなげていきたいと思えます。

当院の訪問看護ステーションは、当初 1996 年 1 月に開設されていましたが、看護師不足のため 2007 年 8 月に廃止されました。2018 年より地域のニーズに応えるために、看護部門内の訪問看護室という形で運用を再開していましたが、在宅医療の推進という国の政策の後押しもあり、2023 年 3 月に訪問看護ステーションとして、看護師 2.5 人という最小人数で再開設されました。2024 年 6 月には、常勤

看護師 5 名、非常勤看護師 1 名を配置し、機能強化型訪問看護ステーションへと事業拡大されました。これからも利用者が住み慣れた在宅で安心して過ごせるように 24 時間体制で在宅医療を支えています。

看護部は、2020 年 7 月に施設資材課長や SPD センター担当者と協働した「コストバスターズ」を立ち上げています。このチームは、病院内のムダを見つけ退治し経費削減につなげる活動をしています。具体的には、節電・材料の見直しだけでなく、5S 活動や西条中央病院オリジナル快適入院セットの導入など患者サービスにも力を入れています。2023 年度の経費削減効果を金額で示すと 9,325,554 円です。この活動には現場力が重要になります。患者中心の視点を忘れずに、コストバスターズ活動を継続していきたいと思っています。

よいとさ保健室は、村上記念病院・済生会西条病院・株式会社大屋・西条市 SDG s 推進協議会が協同し、地域の健康を支えることを目的としたまちの保健室です。2023 年度は、公民館や西条市イベント、産業祭など合計 8 回の出勤がありました。この活動も 2 年目となり、地域の方々にもよいとさ保健室が認知されはじめており、まちの保健室として実りある活動ができていると感じています。社会構造は、生産年齢人口の減少、地域経済の縮小、災害の激甚化など大きく変化しています。看護領域においても、看護職の確保定着、看護職の資質向上や処遇改善、働く環境の整備など課題は山積んでいます。今後も命と暮らしを守る地域の看護職として力が発揮できるよう努力して参ります。

表 1 特定行為に係る看護師の研修状況一覧

取得年	氏名	特定行為区分の名称	特定行為
2021 年	大久保美喜	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	・インスリンの投与量の調整
2023 年	近藤啓司	感染に係る薬剤投与関連	・感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
2024 年	越智伸一	ろう孔管理関連	・胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 ・膀胱ろうカテーテルの交換
		呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連	・気管カニューレの交換
2024 年	渡部昭子	精神及び神経症状に係わる薬剤投与関連	・抗けいれん剤の臨時的投与 ・抗精神病薬の臨時的投与 ・抗不安薬の臨時的投与
受講中	吉田晴香	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整
受講中	國田朋美	動脈血液ガス分析関連	・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保
全受講者共通特定行為		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液による補正

写真
救急ワークステーション



(2) 臨地実習実績

看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことであり、看護実践能力の基礎を学ぶための授業科目の一つです。当院では5校の看護学生を受け入れており、保健師助産師看護師実習指導者講習会を受講した看護職員が将来の看護を担う学生の指導を担当しています。

2022年度までは新型コロナウイルス感染症の影響で実習受け入れが最小限となっていましたが、2023年度からは通常のカリキュラム内容で受け入れることができました。今後も、学生とともに対象にとってのより良いケアを考え実践できるような実習施設でありたいと思っております。

表1. 2023年度臨地実習受け入れ状況

学校名	実習科目	受け入れ延べ人数(人)
人間環境大学	小児・母性看護・統合	348
河原医療大学校	小児・母性・成人・老年看護	408
東城看護専門学校	老年・小児看護	177
四国中央医療福祉総合学院	小児看護	68
十全看護専門学校	母性看護	99

(3) 看護部研究業績

【院内看護研究】

1. 動画を用いたクリニカルパス説明の効果～心臓カテーテル検査・治療のイメージ化～
S5 病棟 高橋エリカ、山内 恵、八木 唯
2. 早期流産に対する当院での対応の現状と課題、対応に関する検討
外来 好井真美 矢野満江
3. 障害者病棟における災害時対応フローチャートの作成及びスタッフの意識の変容
K5 病棟 藤原悠々、尾崎久美、河野秀利
4. 急性期病棟に勤務している看護師の退院支援に対する意識調査
S4 病棟 青野冴香、鶴居鈴香、小森七実
5. 慢性期病棟で退院に繋げるための支援
K4 病棟 近藤優衣、瀬尾瑞季
6. 地域包括ケア病棟における退院支援が困難だった事例の振り返り
地域包括ケア病棟 兵藤夢華、工藤乃里子
7. 「その人らしさ」へつなぐための入院支援の検討
患者支援センター 佐々木麻由、黒川 優

【愛媛県看護研究学会】

1. A 病院外来における急性心筋梗塞ウォークイン患者の実態調査
外来 富永恵美、山城百合子
2. 健康診断受診者における高血圧治療者の受診行動促進要因の分析
健康管理センター 竹田麻衣、山内美香子

【院内事例研究】

1. 緊急でストーマ造設となった患者との関わりや指導に対する看護 S4 病棟 今井絵里香
2. 社会復帰を予定していた胃切除術後患者への関わり S4 病棟 近藤未来
3. 褥瘡を有し退院される患者家族への退院指導を通して S3 病棟 玉井莉生
4. 退院後に医療面と介護面において支援が必要となる患者への退院支援 S3 病棟 目見田ゆき
5. 心不全患者が抱える療養生活における不安への関わり 外来 菅菜々子
6. 心肺停止で搬送された患者家族の悲嘆へのケア 外来 嶋村優汰
7. 伝達麻酔から全身麻酔へ変更となった患者への精神的な関わりについて 手術室 富山姫生
8. 暴言、暴力行為のある認知症患者への関わり K5 病棟 伊藤蒼月
9. 仙骨部に褥瘡のある患者の関わり K5 病棟 越智万里
10. 下肢拘縮が強く右第 1 中足骨内側に潰瘍形成のある患者のケア K5 病棟 戸田玲奈
11. フィンクの危機モデルから振り返る脳梗塞患者との関わり S5 病棟 小原水樹
12. 自宅退院を目指す患者の転倒予防への関わり K4 病棟 松本紗季
13. 患者の意思を尊重した終末期看護 K4 病棟 藤田春菜

(4) 看護部資格取得者・研修受講修了者

【院内】

クリニカルラダー認定（西条中央病院版）

<看護師>

レベルⅠ・・・永田美祐、近藤優衣、瀬尾瑞季、藤原悠々、小森七実、青野冴香、鶴居鈴夏

レベルⅡ・・・日野允嵩、奥野理恵、安永暢之、前野加奈、一色由奈、伊藤綾香、越智 愛、
二宮恵里奈、村上真里奈、佐伯美沙

レベルⅢ・・・・・・國田朋美、伊藤好江、千葉美由紀

<ケアスタッフ>

レベルⅠ・・・・・・曾我部ゆかり、戸田恵子、河野智香

【院外】

特定行為研修・・近藤啓司

区分：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連

特定行為研修受講中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・越智伸一

区分：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連、
ろう孔管理関連

特定行為研修受講中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・渡部昭子

区分：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連

認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）・・・・・・・・・・・・・・・・小野直美

認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）・・・・・・・・千場美保子、成松 綾

新人看護職員研修「研修責任者・教育担当者研修」・・・・・・・・黒川 優

新人看護職員研修「実地指導者研修」・・・・・・・・藤岡知可、一色晶子、村上佳帆

保健師助産師看護師実習指導者講習会・・・・・・・・大井未希、田村啓子

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修・・・・・・・・工藤乃里子

訪問看護研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高橋彩音

災害支援ナース養成研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・伊藤 敬、黒川 優

（５）助産師業務実績

産婦人科ユニット師長 高橋直子

今年度は人員の確保による保健指導やケア提供の充実を念頭におき、広報活動や学生の対応にも力を入れてきました。そして今年度2名の助産師を新たに迎え、さらに来年度の新人助産師採用も予定することができました。これにより、産後ケアや助産師外来での保健指導などを充実させていくことができ、安心安全な分娩と安心安定の育児への働きかけがさらに強化できるようになりました。妊産褥婦を取り巻く社会的な課題や問題点は複雑かつ多様になっています。精神疾患を持つ方や外国の方の出産も増えてきました。これからの保健指導や支援についても、今までと視点を変えながら専門性を高めた細やかなものが要求されます。これからも、助産師外来や母乳保育への取り組みなど業務改善と研鑽を重ねていきたいと考えます。

助産師活動実績の推移

内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分娩件数	80	97	130	128	140
助産師外来	1,058	1,428	1,724	1,638	2,149
2週間健診	78	88	112	114	114
育児相談	44	16	57	61	30
1ヶ月健診	75	92	136	122	138
アロママッサージ	79	100	157	171	141

母親学級	73	43		15	43
要支援妊婦紹介	4	4	5	5	11
電話相談	88	113	132	162	169
ベビーマッサージ	14	0		6	13
産後ケア入院	0	5	27	46	37
訪問活動	7	67	45	1	0

* 2014年8月 2週間目電話訪問⇒助産師外来にて2週間健診へ移行

* 2016年3月 ベビーマッサージ、産後ケア開始

* 2016年4月 第3講座・両親学級を合併

* 2019年10月 訪問活動開始

* 2020年10月 西条市産後ケア事業委託開始

* 2022年8月 オンラインベビーマッサージ開始

* 2022年10月 新居浜市産後ケア事業委託開始

(6) 看護の質向上委員会活動実績

日本看護協会における認定看護師制度は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的としている。当院では、2013年に糖尿病看護、2015年に感染管理、認知症看護の認定看護師、2017年に皮膚・排泄ケア認定看護師が誕生し、2018年には感染管理、緩和ケア認定看護師が増え、現在5領域における認定看護師6名が、院内外で積極的に活動している。専門看護師制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上を図ることを目的としている。当院では2022年に老年看護専門看護師が加わり、院内外で活動している。

【糖尿病看護】

糖尿病看護特定認定看護師 大久保美喜

[目標]

1. 糖尿病患者を包括的にアセスメントし、水準の高い看護実践を行う。
2. 糖尿病フットケアの質の担保を行い、継続看護及び新規患者介入を行う。
3. 地域住民の方もしくは院外の医療従事者に対し、糖尿病に関する情報発信や健康に関する啓発活動を行い地域貢献できる。

[活動実績] *療養指導・フットケア件数は、糖尿病療養指導士の看護師全員が行った件数

		2021年度	2022年度	2023年度
実 践	療養支援	1,046	970	732
	フットケア	109 (外来) 45 (病棟)	104 (外来) 19 (病棟)	88 (外来)
指	【院内】・院内スタッフ研修	3	3	3

導	【院外】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛糖尿病療養指導看護師研修会 ・研修ファシリテーター ・ECDE 資格試験官 ・院外研修 講演 <li style="padding-left: 20px;">＜2023 年度 講演内容＞ ・東城看護専門学校 非常勤講師 ・愛媛糖尿病チーム医療研修会 <li style="padding-left: 20px;">＜院外活動 内容＞ ・「よいとさ保健室」活動 	0	0	0
相 談	コンサルテーション	22	59	32

[評価・今後の課題]

特定行為実績件数（高カロリー輸液 2 件、脱水輸液調整 2 件：評価のみ、インスリン調整 5 件：評価のみ）であった。タスクシフト・シェアを促進し質の高い医療・看護を提供できるよう、医師と相談しながら特定行為件数を増やしたい。また、高齢糖尿病患者や認知症患者の増加、家族の協力も難しい困難事例が増えている。治療の選択肢も増えており、糖尿病患者が自分に合った最善の方法で療養生活を送ることができるよう支援していきたい。



【緩和ケア】

緩和ケア認定看護師 吉田晴香

[目標]

1. がん患者と家族・重要他者を統合的にアセスメントし、専門的知識と技術を用いて多職種協働で看護実践を行う
2. 毎月輪番制で症例検討を行い、緩和ケアチームの質の向上を図る
3. 外来がん化学療法ホットラインを開設やアピアランスケアマニュアル作成により治療期における看護・ケアを強化する

[活動実績]

	2021 年	2022 年	2023 年
複数回面談を行った患者数	91	30	53
看取り	29	17	37
がん告知、病状説明の同席・ケア	33	20	30

医師からの介入依頼	11	1	5
スタッフからの介入依頼	72	39	85
院内スタッフ教育			
・緩和ケアチーム勉強会	3	1	3
・病棟勉強会	2	0	1
・院内研修（ラダー研修含む）	1	3	2
院外活動			
・東城看護専門学校 講師 老年看護学方法論Ⅰ	1	/	/
医療安全	1	1	1
成人看護学方法論Ⅴ 終末期看護	/	/	1
西条東中学校職業学習会	0	1	0
・愛媛県在宅緩和ケア推進協議会在宅緩和 ケアコーディネーター	1	/	/
・西条市在宅緩和ケア推進事業運営委員会	1	/	/

[評価・今後の課題]

2023年3月第4期がん対策推進基本計画においても引き続き、①がん予防、②がん医療の充実、③がんとの共生の3本柱で施策が推進されることが決まった。治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加する中で、治療に伴う外見変化に対するサポートが重要であると明記されている。当院でもアピアランスケアについての情報提供を目的に胸部補整具、ウィッグについてのパンフレットを作成した。

緩和ケアチーム会において、外来・入院患者の状況把握のために情報共有シートの改訂を行った。また今年度からがん種別の勉強会でなく、部署輪番制で症例検討会を行い患者の全人的苦痛に対する統合的アセスメントやデスクカンファレンスにより緩和ケアチーム全体の知識の向上に努めた。

【感染管理】

感染管理認定看護師 千場美保子
近藤啓司

[目標]

1. 適切な手指衛生の実施による感染リスクの低減
2. サーベイランスの実践による感染予防対策の強化
3. リンクナースの育成
4. 新型コロナウイルス感染症関連の対策強化

[活動実績]

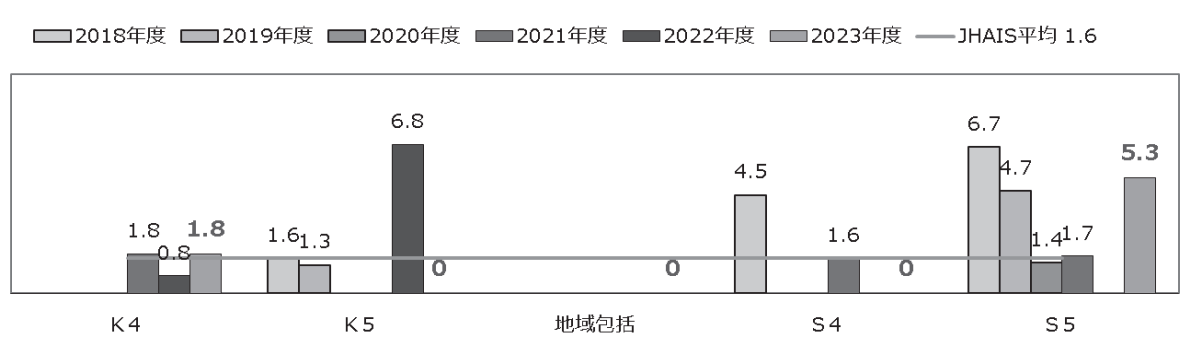
		2021年度	2022年度	2023年度
実践	・インフルエンザ拡大予防の介入	0	0	1
	・新型コロナウイルス感染症関連の介入	1	3	2
	・針刺し・切創・体液曝露事故対応	6	9	8
	・感染制御チーム（ICT）環境ラウンド	52	52	52
	・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動	52	52	52
	・院内感染対策講習会の運営	2	2	2
	・サーベイランス	5	5	5

		2021年度	2022年度	2023年度
指導	・抗菌薬適正使用に関する研修	2	2	2
	・新採用者研修	2	2	2
	・中途採用者研修	3	1	7
	・ケアスタッフ研修	1	1	1
	・リンクナース勉強会	3	2	4
	・部署別勉強会	2	0	0
	・委託業者研修	1	0	1
	・認定看護師出前講座	1	4	6
	・看護学校非常勤講師	2	2	2
相談	・コンサルテーション	184	250	256

[サーベイランスの結果・課題]

1. 中心ライン関連血流感染サーベイランス (CLABSI)

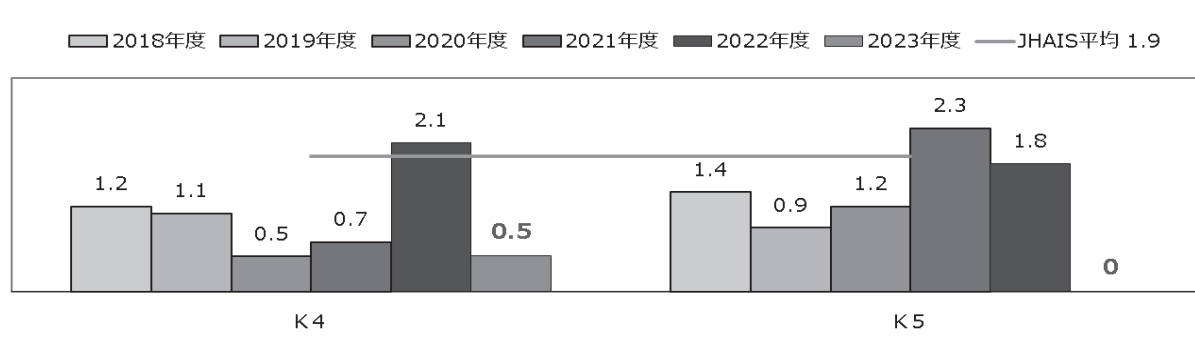
(感染率=中心ライン血流感染患者数÷延べ中心ライン挿入日数×1000)



2023年度の中心ラインによる血流感染は、急性期病棟において感染者が発生し感染率の上昇を認めた。また、K4病棟で同一患者が2件の中心ライン血流感染を発症した。長期留置中の患者であり、課題と管理方法を現場のスタッフとともに検討し、改善に取り組んだ。今後も挿入時の手技も含めスタッフ全員が統一した清潔操作が行えるように指導を行い、リンクナースにより現場での実践が継続されるよう支援を続けていく。

2. 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス (CAUTI)

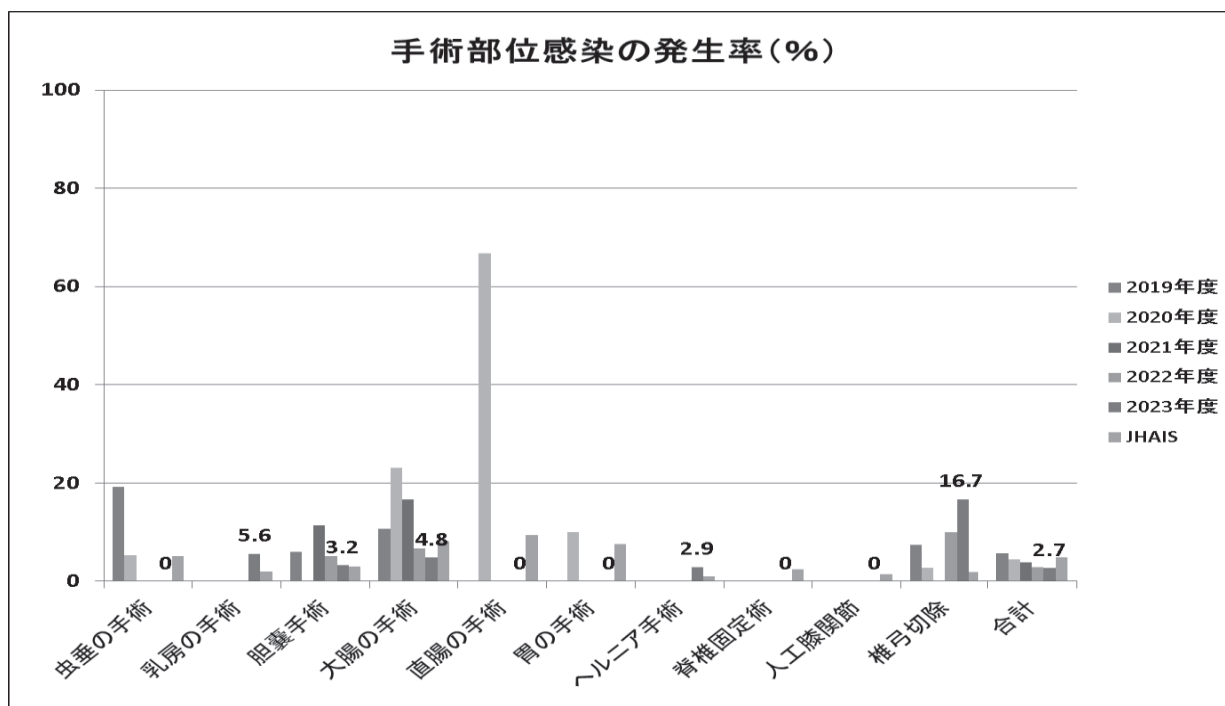
(感染率=カテーテル関連尿路感染患者数÷延べ尿道留置カテーテル挿入日数×1000)



障害者病棟では尿道留置カテーテルの長期間留置患者が多く、また薬剤耐性菌保菌者が多いため、尿路感染のリスクは高い状態である。2023年度はK4病棟で1例の感染者が発生したが、感染率はJHAISの平均値より低い結果となった。急性期での治療を終えた患者が、障害者病棟へ転棟しカテーテル留置の必要性を評価され、抜去に繋がる症例が増えたことが感染率低下の要因と考えられる。今後も、不要なカテーテルが早期に抜去されるよう評価できる体制を支援し、医療従事者の手指を介して感染が伝播されないよう現場の感染対策を強化していく。

3. 手術部位感染サーベイランス (SSI)

(発生率% = 手術部位感染患者数 ÷ 手術件数 × 100)

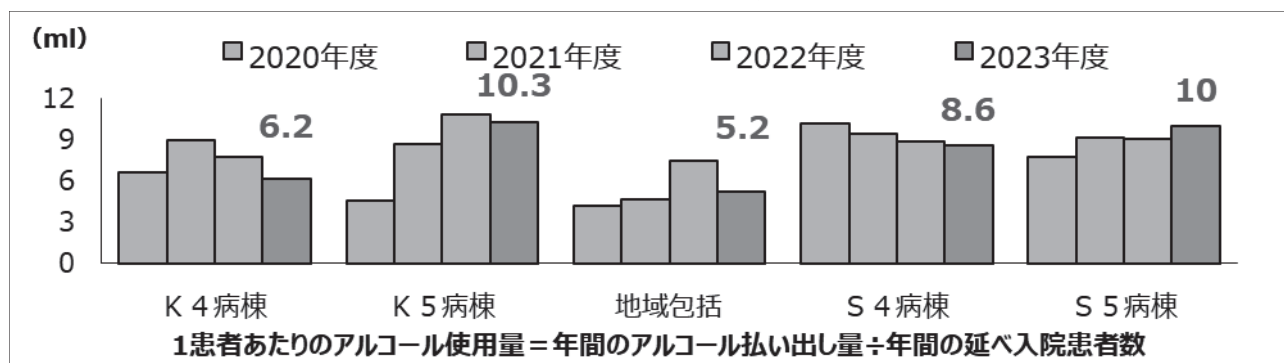


2023年度の手術部位感染は、胆嚢の手術、大腸の手術、ヘルニア手術、乳房の手術、椎弓切除で感染者が発生した。大腸の手術の感染率はJHAISの平均値より低くなっているが、その他の手術では高い数値を示している。全体の感染率は年々減少しJHAISの平均値より低い結果になっているが、今まで発生のなかったヘルニアや乳房の手術での感染を問題と考え、医師や関係するスタッフと課題を検討し、患者指導の在り方を含めた改善活動に取り組んだ。今後も感染率低下に向け、対策の強化と関わるスタッフと継続して現場指導を行っていく。

4. 手指衛生サーベイランス

(1患者1日あたりの擦式アルコール製剤使用量 ml)

= 年間の擦式アルコール製剤払い出し量 ÷ 年間の延べ入院患者数)



2023年度の擦式アルコール製剤の使用量は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたため減少する部署が多かった。1患者あたりの使用量の目標値を10mlと設定し、個人携帯の使用量の調査を行い、毎月の委員会でフィードバックを行った。結果を基に手指衛生の方法やタイミングについて委員会内で勉強会を行い、部署内でのリンクナースの指導に役立ててもらった。今後も、適切なタイミングでの手指衛生が実施されるよう、直接観察による現場指導とリンクナースによる実践活動を支援していくことが必要である。

[評価・今後の課題]

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、入院の受け入れや検査・診療体制が整備され、他部門の協力のもとスムーズに運営されてきた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、標準予防策や感染経路別予防策を改めて指導する機会となり、医療従事者の感染予防への意識付けを強化することができた。一方、地域住民の感染対策に関する考え方が変わる中、周辺地域での新型コロナウイルスの感染者の増加に伴い、院内での感染者の発生や新型コロナウイルス感染症以外の感染症の流行もあり、感染対策を強化するための活動は必要とされた。今後も継続して地域の医療機関と連携し、組織的な感染防止の基幹的な役割を果たすとともに、地域の感染対策の水準を向上させるため多職種協働で活動していきたい。

感染管理の相談窓口として感染管理認定看護師が認知され、看護部以外の医師やコメディカルからの相談件数も増えている。一方で、薬剤耐性菌保菌者や新型コロナウイルス感染症以外での感染事例の発生などの課題もある。特に障害者病棟では医療器具の使用頻度が高く、感染リスクが高い状態であり、現場の実践力の強化が必要と考える。感染管理認定看護師2名の体制でできる限り早期の介入を心がけ活動しているが、感染対策の中心として実践する各部署のリンクナースの存在は重要である。適切な手指衛生の実践など現場でのリンクナースの活動により、感染管理の質を向上させ、すべての医療従事者が必要な対策を理解し継続して実践できるよう支援することが今後の課題である。

【皮膚・排泄ケア】

皮膚・排泄ケア認定看護師 鈴木春枝

[目標]

1. 皮膚・排泄ケアの必要な患者とその家族に対して、専門的な知識と技術を用いた水準の高い看護実践を行うことができる。
2. 皮膚・排泄ケア領域の研修に積極的に参加し、自己研鑽に取り組み、日々の看護に役立てることができる。
3. 皮膚・排泄ケア領域のケアが自立して行える看護師の育成し、皮膚・排泄ケアの質の向上を図ることができる。

[活動実績]

院内の皮膚・排泄ケア領域の患者介入回数（2022年11月～2023年10月活動なし）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
創傷	271	232	149	180
オストミー	161	100	99	52
失禁ケア				
介入回数	432	332	248	232

【院内教育】	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
褥瘡対策委員会勉強会	2	3	3	1

ケアスタッフ会勉強会			1	
部署別勉強会	3	3	3	
新規入職者研修	3	3	2	
看護部研修（ラダー研修・おむつマイスター研修等）	6	1	2	3
【院外講師】	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東城看護専門学校 老年看護学方法論Ⅰ	1	1	1	
外部施設研修講師				1

ストーマケア 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ストーマサイトマーキング 件数	16	13	14	14
人工肛門・人工膀胱造設術 術前処置加算	7	7	10	10
ストーマ造設件数	3	3	7	4
ストーマ外来患者数	17	28	27	17

[評価・今後の課題]

オストミーケアでは、復職後にストーマ外来を再開し、患者の定期外来に合わせて実施した。相談する人がいなくて不安だったという言葉がたくさん聞かれ、ストーマ外来の再開を喜んでいただいた。やはりストーマトラブルに対して対応できる看護師を増やすことが必須であると改めて感じた。次年度は病棟と協力しスタッフ育成に尽力したい。

創傷ケアでは、褥瘡のみならずさまざまな皮膚障害に対して介入を行った。皮膚障害の発生原因をアセスメントし、創部の状態に応じた適切なケアを主治医と共有した上で決定し、スタッフへ根拠を基にしたケア方法や注意点を指導することで統一したケアを実施することができた。新たに提唱された創傷衛生に基づき、バイオフィルムに対する看護師にもできる機械的デブリードメントを取り入れたことで創面環境調整がすすみ、創傷治癒が明らかに早くなった。褥瘡などの皮膚トラブルの予防対策を徹底するためにはスキンケアが重要であり、次年度はスキンケアを強化し、皮膚トラブル減少に取り組んでいきたい。

また創傷治癒がしていない状態で施設や在宅退院している症例も多く、また施設からのD3を超える褥瘡の持ち込みなどが多い。近隣施設での勉強会やストーマ相談など地域での活動の場を増やし、さまざまなつながりを作ることで皮膚・排泄ケア看護師として地域に貢献できる体制を整えていきたい。

【認知症看護】

認知症看護認定看護師 渡部昭子

[目標]

1. 認知症ケア加算対象者において病棟看護師と連携しながら、病状や症状に関する情報収集・アセスメントし、カンファレンスを通して療養生活の助言や退院支援を行う。
2. 認知症患者及び高齢者に関わるスタッフが、在宅での生活習慣を取り入れることで生活リズムの確立に繋がることが理解できるように支援する。

[活動実績]

1. 認知症ケア加算2算定件数

		2021年度	2022年度	2023年度
加算2 認知症ケア	身体抑制なし（14日以内）点	236	59	134
	身体抑制なし（15日以上）点	4,146	3,385	1,712
	身体抑制あり（14日以内）点	623	765	357
	身体抑制あり（15日以上）点	7,251	7,324	4,585
加算1 認知症ケア	身体抑制なし（14日以内）点			222
	身体抑制なし（15日以上）点			1,344
	身体抑制あり（14日以内）点			233
	身体抑制あり（15日以上）点			2,762

2. 院内および院外活動

	2021年度	2022年度	2023年度
認知症サポーター養成講座開催	1	1	1
[院内教育]			
・新規入職者研修	1	1	1
・看護職対象の研修	1	1	1
・中途採用者対象の研修	1	4	4
・ラダー研修	0	1	1
・ケアスタッフ研修	0	1	1
・病棟での勉強会	2	0	2
・認知症ケアチーム会勉強会	10	7	11
[院外研修]			
（東城看護専門学校）			
老年看護学方法論Ⅰ	1	1	1
成人看護学	0	0	1
（看護協会主催）			
・インターネット配信	1	0	0
（愛媛県主催）			
・看護職員の認知症対応力向上研修	1	1	0
コンサルテーション			
・認知症看護	1	1	0
・看護師からの介入依頼	31	31	42
地域活動	0	0	1

[評価・今後の課題]

介入依頼のあった事例においては、在宅での生活状況を確認し、生活習慣を取り入れた生活リズムの調整ができるよう看護介入の方法について病棟スタッフに助言を行うことで、実践することができている。引き続き職員へ療養生活の支援について助言や一緒に方法を考え、患者が安心した療養生活が送れるように支援を行っていく。今後は、身体的拘束の最小化に向けて看護職員と一緒に身体拘束解除に向けた取り組みができるよう支援していくことが課題である。

〔目標〕

1. 所属部署に入院している高齢者を包括的にアセスメントし、患者や家族が望む生活を実現するための支援ができる
2. 老人看護専門看護師として所属部署における解決困難な課題について調整および倫理調整を行う

〔活動実績〕（介入件数）

		2022 年度	2023 年度
看護実践	【院外】事例検討会	6	6
調整	病棟内療養カンファレンス	13	15
コンサル テーション	部署内での相談	2	10
	部署以外からの相談	2	29
	電話相談	0	1
		2022 年度	2023 年度
倫理調整	倫理カンファレンス開催	0	0
教育	【院内】		
	病棟内勉強会	1	1
	新規採用者研修	0	1
	看護研究概論	0	1
	ラダー研修	0	1
	ケアスタッフ研修	0	1
	【院外】	0	
	えひめ排泄ケア研究会講師	1	0
専門学校非常勤講師	0	1	
研究	研究に関わる活動件数	0	0

〔評価・今後の課題〕

2023 年度は認知症ケアチームの一員として活動し、他部署から認知症ケアやせん妄ケアについての相談を受け課題解決に向けて多職種でカンファレンスを実施することができた。所属している S4 病棟ではせん妄を発症した患者に対してせん妄を重症化させないように早期に認知症ケアチームで介入するように調整し、ほとんどの患者が早期に自宅へ退院することができた。また院内外から研修等の講師を依頼されるようになり、専門看護師として活動の幅を広げることができている。調整や倫理調整では役割を果たせるような機会を持つことができなかったが、2024 年度は高齢者の尊厳を尊重し身体拘束を最小化できるような活動を行っていきたいと考えている。

（7）クリニカルラダー別研修実績

教育担当看護師長 千場美保子

クリニカルラダーは、看護師が能力段階を確認しながら自己研鑽を続けていくためのツールであり、組織としては看護師の能力開発を支援し、人材育成にとっても有用なツールと言われている。2023 年度は院外・院内講師による研修を企画運営するとともに、愛媛県看護協会主催の研修をはじめとする院外の研修への受講による自己研鑽も積極的に推進し、新たな知識の習得を支援することができた。

また、多くの看護師が認定審査を受け承認され、キャリア形成に役立てることができた。今後も、専門性の高い知識の習得を目指し、院内研修の内容を充実させ、看護師個々の能力開発を更に支援していく。

[活動実績]

レベル	テーマ	開催月	備考
共 通	認知症サポーター研修	4月	認定看護師
	呼吸器ケア	7月・9月	院外講師
	訪問看護	7月	
	心不全ケア	9月	
	心電図モニター	10月	院外講師
レベルⅠ	メンバーシップ	5月	
	おむつマイスター育成	6月・10月	院外講師
	感染管理	11月	認定看護師
	エンゼルケア	1月	認定看護師
レベルⅡ	メンバーシップ	8月	認定看護師
	救急シミュレーション①	6月	
	救急シミュレーション②	12月	
	在宅支援	9月	
	リーダーシップ	1月	
	ナラティブ事例の書き方	2月	
レベルⅢ・Ⅳ	看護倫理	9月	認定看護師
	心不全ケア	8月	
	感染管理	11月	認定看護師
	創傷管理	12月	認定看護師

(8) SDGs 委員会活動報告

金子真智子 成松 綾

日本看護協会では、看護職（他職種含む）の健康と安全を配慮した労働安全衛生ガイドライン「ヘルシー・ワーク・プレイス（健康で安全な職場）を目指して」を推進している。

当院では、令和元年より職員がやりがいをもって健康に働き続けられることの大切さを重視し、安全で質の高い看護・介護を提供するために、ヘルシー・ワーク・プレイス実現に取り組んでいる。医療・介護従事者が生涯を通して、心身ともに健康で安全に働き続けられる職場づくりを目指し活動を展開している。

今年度より SDGs 委員会として発足し、インデックス調査の評価、職場環境改善、院外への発信という3つを土台に活動した。

【当院のSDGs宣言】



【SDG s3「保健」すべての人に健康と福祉を】

『地域の中核病院としての取り組みを』

①地域社会への医療の提供

- ・感染症医療、急性期、小児周産期医療の提供

②予防医療

- ・集団健診・情報発信・健康教育の開催・出前講座

③医療の質と患者満足度の向上

- ・多職種スタッフによるチーム医療と患者に寄り添った医療の提供
- ・医療安全対策・感染対策



【SDG s4「教育」質の高い教育をみんなに】

『学ぶ楽しさをみんなで分かち合おう』

①院内教育、人材の育成

②患者・家族への教育

- ・糖尿病教育・フットケア・ストマ管理・認知症ケア・創傷管理

③地域への教育

- ・看護学校講師や実習受け入れ・中高生の職場体験・出前講座・産後ケア・西条市在宅緩和推進事業等



【SDG s8「成長・雇用」働きがいも経済成長も】

『働きがいのある職場作り』

①職場環境の充実・時間外労働の削減・平等な休暇取得

②多種多様な勤務形態の導入



【SDG s17「実施手段」パートナーシップで目標達成しよう】

『地域に根ざした親しみある病院作り』

①地域とのパートナーシップ

- ・医療情報提供（ホームページ、地域広報誌など）
- ・地域の施設との連携
- ・地域の開業医との連携
- ・要介護者、医療的ケア児後方支援

【活動報告】

職場環境改善チーム

(目標) やりがいを持って仕事ができる環境づくり

(活動内容)

①インデックス調査の実施

【調査結果】

看護ケアの不十分な点について業務改善が必要という結果となった。昨年度より改善されたところと伸び悩んでいるところがある。全体的に改善されているとは言えない。管理職だけでなく、働いている人からの働きかけが必要。業務改善についてのアイデアをどんどん出して貰う。クロス集計も行い、年齢等しい条件からも結果を出している。

1) 看護に費やす時間が十分とれない。

【改善点】

・看護チームにおける人材活用、看護業務のタスク・シフト/シェア

2) 始業前残業 10 分短縮

【改善点】

・電子カルテの始業前 30 分 P C 使用禁止シールを貼り視覚で訴える

・ポスター掲示

・各部署の所属長より声かけ



始業前残業短縮のためのポスター



始業前のパソコン使用に関する呼びかけ

②業務量調査の実施

業務量調査と、インデックス調査の業務量に関する結果も参考にし、現状の把握をおこなった。

【調査結果】

業務量調査、インデックス調査共に、看護に費やす時間が取れているが、自分達としては出来ていないと感じている結果となった。しかし、7割が看護ケアに費やすことができていると感じている一方で、業務量調査の結果からは6割は実際にベッドサイドに行けているというデータが出た。

【改善点】

業務量を改善できるようなタスク・シフト/シェアの内容検討

・カンファレンス記録

・移送

・入院オリエンテーション

→動画作成予定(現在作成しているものがあるが活用されていないので、全病棟で統一して使用できるようにする。)

・臨床工学技士、臨床検査技師、診療放射線技師へのタスク・シフト/シェアの検討

SDGs 活動周知 院外活動チーム

(目標) 1. SDGs 委員会の活動の周知

2. 院外活動の活性化

(活動内容)

①ふれあい看護体験・職場体験について (当院にて実施)

- ・ふれあい看護体験 7/28 (5名参加)
- ・西条高校職場体験 8/3 (13名参加)
- ・西条北中ジョブチャレンジ 7/6 (4名参加)
- ・西条南中ジョブチャレンジ 9/13 (3名参加)
- ・西条東中ジョブチャレンジ 9/21 (2名参加)



看護体験の様子



妊婦体験の様子

②SDGs 地域へのイベント参加

- ・5月28日 SAIJO BASEの日 石鹸を作ろう
- ・8月27日 救急フェア2023 防災クイズトイレ作り
- ・11月11日 西条産業祭 糖尿病週間イベント
- ・12月13日 卒後2年目研修 縁農体験「里芋堀ほり」

縁農体験を通して地域交流を図るために2年前より参加している。今年度も地域の農家さんの畑で芋ほりを体験した。最初は「芋ほり？」と不満そうなスタッフもいたが、いざ芋ほりをしてみると同期との会話も弾み笑顔で交流が図れ、来年も企画してほしいとの声が聴かれておりよい体験になった。



各イベントポスター



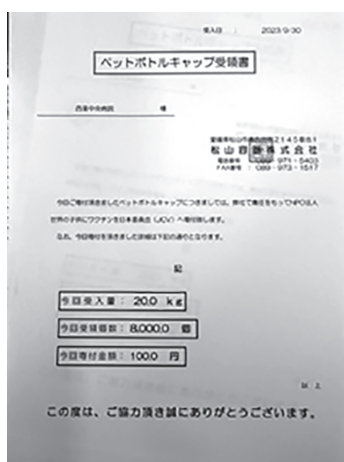
縁農体験

③院内でのSDGs活動の実施

「脱ムダムダ大作戦～目指せ ミニマスト!!」をテーマに10月、12月、2月に各部署でアクションプランを考え取り組んだ。

成果として、各部署のSDGs活動についての確認ができた。

今年度、ペットボトルキャップ収集を全部署で行い、20kg（約8,000個）集まった。「松山容器株式会社」様に引き渡し、NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)へ寄付された。今後もキャップ収集活動は継続していく。



(今後の活動)

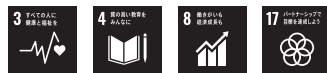
コロナ前のように、イベント開催ができるようになった時のために特技のあるスタッフを見つけていく。(例：楽器、手話など)

「よいとき保健室」活動

宮崎里美 森賀千夏

当院は、企業や団体、市民の協働による持続可能なまち・西条の実現に向けて、西条市 SDGs パートナーとしての活動に取り組んでいる。その一つとして、当院と西条市内の病院、地域の企業が協力し「よいとき保健室」を OPEN した。「よいとき保健室」は、地域への健康に関する情報提供や活動などをおこなうことにより、西条市民の健康意識を高め、地域全体の活性化に繋げていきたいと立ち上げたチームである。

「よいとき保健室」では、SDGs 17 のゴールの内、地域に向けて様々な活動をした。



について

2023 年度 よいとき保健室 活動実績

日程	イベント	内容	場所	来場者	SDGs
5月28日	SAIJO BASE の日	石鹸作り 健康チェック 健康相談	SAIJO BASE	51名	
7月23日	今治造船ファミリーフェスタ	救護班	今治造船 西条工場	4,000人 救護3名	
8月27日	救急フェア2023	防災クイズ トイレ作り 防災の知識	SAIJO BASE	47名	
9月28日	神拝公民館シニアカフェ	健康チェック 健康相談 脳年齢クイズ	神拝公民館	32名	
10月28日	西条市研修の船	救護班	オレンジフェリー	400人 救護0名	
10月29日	神拝公民館文化祭	防災クイズ 健康チェック 健康相談	神拝公民館	68名	
11月11日	西条産業祭	糖尿病週間イベント	西条農業高等学校	126名	
2月25日	LOVE SAIJO ポイントフェスタ	健康チェック ヨガ体操	総合福祉センター	105名	



救護班活動



神拝公民館シニアカフェ



救急フェア (防災トイレ作り)



第46回西条市研修の船



西条産業祭



LOVE SAIJO ポイントフェスタ

10. 健康管理センター活動報告

保健師・師長 越智加奈子

2023年度は受診者に対するサービス向上について取り組みを行った。視力検査と聴力検査の機器を更新し、精度の向上と業務の簡略化に繋がった。また健診着の更新を行い、より快適で清潔な環境整備を行うことができた。受診者アンケートでは丁寧な対応に対する良い意見をいただいた。一方で施設や環境に対するご要望もあり今後の課題となった。日々受診者のご意見や反応を気かけながら、ブラッシュアップを図りたい。受診者数については、前年度と比較し協会けんぽが微増した。人間ドック、企業健診については減少となった。(表1) 特定保健指導は昨年度に引き続き、感染状況により制限がかかり、実施数については現状維持となった。健診後に精密検査を実施した件数は増加傾向にある。(表2) 今後も早期発見に向けて、受診勧奨を継続したい。11月に開催された「LOVE 健康フェス」では、健康増進や健康意識の向上について取り組む機会となった。健康管理センターは、血圧測定や血流測定などの健康チェックや、日頃の体調管理のアドバイスなどを行った。ワークショップやマルシェなども開催し、スタッフも一緒に健康を楽しむイベントとなった。次年度に向けて、一つ一つ丁寧に取り組みを継続したい。

表1. 受診者数の推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2日人間ドック	50	39	32	25	15	22
日帰り人間ドック	2,025	1,993	1,859	2,039	2,144	2,065
協会健保	3,147	3,324	3,291	3,408	3,578	3,592
協会健保子宮癌検診	90	87	101	85	94	102
特定健診	426	439	438	454	433	413
企業健診・がん検診	5,540	6,349	6,385	7,864	6,735	6,144
特定保健指導	-	-	-	-	51	48
計	11,278	12,231	12,106	13,875	13,050	12,386

表2. 精密検査実施数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
胃カメラ	104	83	110	48	42	32
腹部エコー	93	98	103	95	107	109
心エコー	72	69	83	88	129	136
ホルター心電図	8	18	9	18	30	34
採血	113	95	139	144	183	187
大腸カメラ	98	88	114	96	113	111
CT	103	109	116	129	86	67
MRI	173	154	113	153	113	104
検尿	32	39	49	36	49	37
外来受診	366	335	307	522	552	420

1 1 . 薬剤部活動報告

薬剤長 近藤慎悟

【2023 年度実績】

2023 年度の薬剤管理指導件数は過去 3 年と比較すると減少した。マンパワー不足による対象病棟の縮小が主な要因である。一方、退院時薬剤情報管理指導件数は増加した。これは新入院患者数増加に伴う退院時指導機会増大のためである。しかしながら、2023 年度の強化項目でもあった薬剤管理サマリーを用いた退院時の薬剤情報連携加算件数は減少した。急性期病棟の回転が速く薬剤管理サマリー作成が困難であったことが考えられる。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
薬剤管理指導件数 (回)	3,951	5,484	6,349	6,370	4,654
退院時薬剤情報管理指導件数 (回)	934	611	829	863	1,007
退院時薬剤情報連携加算件数 (回)		14	205	124	96
薬剤管理指導患者数 (人)	1,872	1,689	1,823	1,759	1,974

薬剤師数は 2021 年度のピーク時より徐々に減少しており 2023 年度は業務内容の見直しや効率化、行動変容が鍵となった。個々の薬剤師が提案することでレスパイト入院患者の持参薬関連業務の効率化や粉砕調剤の精度や効率の向上、処方箋や薬袋の発行や印字の合理化、退院時薬剤情報のシール化や患者識別ラベルの活用など非常に多くの改善が図れ、24 時間常駐体制を維持することもできた。2023 年度に受審した病院機能評価機構のサーベイヤーからも「医師に対して疑義照会や提案、代行入力などをしっかり行いサポートされている。検査値や患者の状態によった処方監査がなされ、それにそった安全な調剤業務、医師等への情報提供、さらに夜間休日対応などこれら病院薬剤師の使命をこの薬剤師数でよくやっている。すでに対応中かもしれないが、薬剤師の増員をお願いする。」という非常にありがたい評価をいただいた。

また、実習生の受け入れや医薬品供給不足に関する対応なども相まって薬剤師の負担は増加したが、業務の効率化のみならずコロナ禍で中断していた勉強会の再開や薬剤師個々の能動的な情報収集などにより薬剤師の質の向上を含めパフォーマンスの向上がみられた。限られた人員で質の高いパフォーマンスを発揮するために、自ら変化していった 1 年だったと思われる。

【2024 年度展望】

地域で患者を支えるために病院薬剤師にしかできないこと、主体的にやるべきことは多い。例えば、薬物療法の継続的な個別最適化は病院薬剤師による入院中の介入だけでは達成されない。退院後の状態や生活環境を踏まえた上でフォローアップが実施できるよう保険薬局や他職種への情報提供や連携が重要となる。今年度から開始している心不全連携シートの拡大や薬剤管理サマリーの提供に一層取り組む。

薬剤師数低下と入院患者の回転率の上昇により薬剤師が 1 人の患者にかけられる時間が減少しつつあるが、上述の退院後の支援以外にも入院中の薬学的管理の拡充やポリファーマシーの解消、医師のタスクシフト/シェアの伸展など求められることは多い。薬剤師がより主体的に行動することがこれらの適正化に繋がることもあるのではないだろうか。これらのニーズへの呼応とタスクオーバーの回避の観点から、個々のレベルアップや行動変容はもちろんのこと業務効率化の提案や改善を行い、今後も“変化していく薬剤部”であることが必要ではないか。

1 2. 臨床検査部活動報告

技師長 山根 純

【生理部門検査実績】

2023 年度の生理機能検査実績は以下の通りである。2023 年度は前年度に比べ全体的な検査件数が増加していることが分かる。主な要因として、新型コロナ感染症が 5 類に移行したことにより呼吸機能検査の検査数が著増したことが挙げられる。呼吸機能検査の検査数はコロナ禍以前（2019 年度 1,187 件）にまで近づく件数となった。

また、昨年度より耳鼻咽喉科の診察が再開し、新たに聴力検査や顔面神経検査を開始した。診察再開した 2022 年度よりも今年度は聴力検査の検査数が増加しており、来年度もさらなる検査数増加が予想される。

終夜睡眠ポリグラフ検査（精査）は呼吸機能検査と同様に感染状況を考慮した運用が終了した影響か、昨年度よりも検査数が増加した。終夜睡眠ポリグラフ検査（簡易）も検査数が増加しているため、今後とも検査需要が高まっていくのではないかと考えられる。この他にも生理部門では超音波検査（心臓、腹部、下肢動脈、下肢静脈、腎動脈、頸動脈）を行っている。

生理機能検査件数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
呼吸機能検査	463	403	151	1,008
脈波図検査	310	378	296	331
神経伝導検査	42	40	55	38
脳波検査	81	102	100	126
心電図検査（医療）	5,422	5,618	5,402	5,565
心電図検査（健診）	8,166	8,662	9,234	8,959
ホルター心電図検査	160	184	202	177
負荷心電図検査（マスター）	133	126	127	138
負荷心電図検査（トレッドミル）	6	8	2	8
負荷心電図検査（CPX）	32	41	27	35
皮膚再灌流圧検査	100	140	109	120
終夜睡眠ポリグラフ検査（簡易）	20	26	27	36
終夜睡眠ポリグラフ検査（精査）	8	3	6	7
24 時間血圧測定検査	29	24	31	22
聴力検査			298	329
合計	14,972	15,755	16,067	16,899

【COVID-19 検査実績】

今年度も①ミズホメディアー クイック チェイサー Auto SARS-COV-2 高感度抗原②デンカ株式会社 クイックナビ-Flu+COVID19 Ag を用いて抗原検査を、③スマートジーン COVID-19 検出試薬を用いて PCR 検査を行い全体で 11,412 件であった。その内訳は以下の通りである。

2023 年度 COVID-19 関連検査数および陽性数

	2023 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2024 年 1 月	2 月	3 月	合計
抗原 (①)	444 (15)	543 (37)	471 (48)	743 (216)	637 (210)	621 (162)	623 (69)	183 (5)	223 (8)	173 (11)	190 (27)	161 (8)	5,012 (816)
抗原 (②)	299 (16)	140 (9)	125 (15)	264 (93)	259 (131)	192 (61)	221 (23)	358 (24)	606 (86)	688 (138)	530 (142)	611 (98)	4,293 (836)
PCR (③)	752 (90)	252 (7)	236 (3)	494 (57)	347 (61)	322 (35)	252 (13)	136 (8)	166 (14)	293 (39)	212 (40)	145 (31)	3,607 (398)
合計	1,196 (121)	795 (53)	707 (66)	1,237 (366)	984 (402)	943 (258)	875 (105)	677 (37)	995 (108)	1,154 (39)	932 (209)	917 (137)	11,412 (2,050)

検体数（陽性検体数）

【インフルエンザウイルス検査実績】

当院では、「タウンズ イムノエース Flu」、「ミズホメディー クイック チェイサー Auto FluA,B」、「デンカ株式会社 クイックナビ-Flu+COVID19 Ag」を用いて抗原検査を行った。2022 年度の検査数 1,910、陽性者数 284 人と比較し 2023 年度の検査数 6,176、陽性者数 1,151 人と大幅な増加が見られた。また、2023 年度陽性内訳は下記通りでインフルエンザウイルス B の流行が見られた。

インフルエンザウイルス関連検査数および陽性数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2020 年度	17 (0)	5 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	17 (0)	26 (0)	41 (0)	23 (0)	18 (0)	156 (0)
2021 年度	16 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	15 (0)	5 (0)	8 (0)	2 (0)	58 (0)
2022 年度	1 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	23 (2)	223 (2)	604 (116)	558 (89)	494 (75)	1,910 (284)
2023 年度	473 (9)	206 (13)	264 (33)	461 (67)	363 (16)	282 (26)	615 (215)	465 (101)	823 (178)	826 (182)	647 (112)	751 (199)	6,176 (1,151)

検体数（陽性検体数）

2023 年度インフルエンザウイルス陽性内訳

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
A 陽性	9	12	33	67	16	26	215	100	168	166	49	7	868
B 陽性	0	1	0	0	0	0	0	1	10	16	63	192	283
陽性合計	9	13	33	67	16	26	215	101	178	182	112	199	1,151

【血液培養検査実績】

血液培養陽性時は主治医に連絡を行い迅速な対応を心掛け、耐性菌が疑われた場合や、使用中抗生剤に対して耐性であると判断した場合は推定段階で ICT および主治医に相談し抗生剤変更の検討を依頼した。血液培養検査数、陽性数および陽性人数は以下の通りである。

2023 年度 血液培養検査数、陽性数および陽性人数

	2023 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2024 年 1 月	2 月	3 月	合計
検体数	71	99	100	122	106	112	92	77	125	96	83	97	1,180
陽性数	9	11	9	9	13	25	11	10	14	14	7	6	138
陽性人数	4	7	4	5	9	15	6	7	8	7	5	3	80

1 3. 画像診断部活動報告

技師長 小池大作

2023 年度の画像検査数は、2022 年度に引き続き増加傾向にあった。特に一般撮影と CT 検査数の増加が顕著であった。特徴として、一般撮影では整形領域の撮影件数が大幅に増加していた。また、外科・整形系の術後ポータブル撮影件数も増加している。CT 検査の傾向として、一般撮影同様に整形領域で特に脊椎撮影の検査数が増加していた。アフターコロナの影響か呼吸器系の検査数や、外科手術増加による体幹部造影検査数の増加も特徴の一つである。また、3 月に 256 列 CT に更新した事により循環器領域の検査数が増加傾向にある。MRI 検査においても脊椎・四肢の整形領域の検査数増加が見られ総数的にも増加した。今年度も前年度に引き続き外科・整形系の治療に直結する画像検査への需要の高さが見られていた。

治療へ貢献する画像検査数を増やすためには、計画的な装置の更新が必要であるとする。装置を最新機器に更新することにより最新医療技術の提供、検査時間の短縮、低被ばく、造影剤の減量など機能の Spec Up のみならず、新しい診断領域への広がり、今までは適応外であった症例への検査・治療の拡大、またその話題性により新規患者の獲得が見込める。3 月の 256 列 CT 装置更新に引き続き、当院の特徴ともいえる循環器疾患の治療数を増加させるために、血管造影装置の更新が必要である。血管造影装置を更新するメリットとして、AI 技術を駆使した低被ばく、また、高画質化や各種ロードマップ機能により治療成績の向上や大幅な造影剤の減量など様々な点で患者さんの安全を向上などが挙げられる。さらには医師、看護師、臨床工学技士などカテスタッフの負担軽減にもつながるような機器を選定していきたい。

【医療被ばく管理について】

PCI による局所高線量被ばく症例が前年度より減少したが 1 件見られた。放射線皮膚障害など被ばくによる影響は見られなかった。昨年度から行っている被ばく対策の成果から被ばく線量自身前年度比較してさらに低下していた。引き続き透視保存の活用や長時間を要する症例の場合には、画質は落ちてしまうが適所で透視線量率を下げる。また、総線量が 5Gy. 8Gy. 10Gy を超えるたびに施行医に声かけするなどし、局所高線量被ばくの低減に努めていく。

【今後の取り組み】

今年度は画像診断の検査数は総合的に増加していた。その要因として外科・整形外科領域の治療に必要な術前の画像検査の増加に起因していると思われる。ただ 2024 年度の診療報酬改定において画像診断加算が数%だが減算となっているため、件数の増加が見込める検査の推進だけでなく包括された検査を外来にシフトできるかを検討し収益の増収につなげられるよう働きかけたい。次年度には血管造影装置更新があり更なる検査・治療数の増加だけでなく、患者にもスタッフにも安心して施行できるような機種を選定していく。

1 4. 臨床工学部活動報告

統括主任 宮崎詩織

血液浄化部門では、2023 年度 57 件のシャントエコーを実施した。透析前後の聴診・触診、臨床症状を注意深く観察している。患者に応じた頻度でスコアリング評価し、シャントエコーを計画的に実施している。異常を早期発見・医師へ速やかな報告・早期治療へ繋げ、緊急シャント PTA を減らす事で医師の業務負担軽減に努めている。また、2023 年度の急性血液浄化の件数が 20 回と昨年度よりもさらに増加した。夜間・休日はオンコール体制をとり安心・安全に治療が実施できるように心がけている。当院は急性血液浄化用装置を 1 台保有しているが、使用したい患者が 2 名いると医師から依頼があり、メーカーから 1 台レンタルして実施したという事例があった。2 次救急を担う地域の基幹病院として急性期医療に取り組み上で今後もこのような事が想定されるため今後も柔軟に対応していきたい。

心血管カテーテル部門では、ペースメーカー植え込み患者への遠隔モニタリングシステムを 2020 年度に開始以降、増加を続け 2023 年度終了時点で 111 名の患者に導入している。患者の自宅から送信されてくるデータを日々モニタリングし、異常があれば速やかに医師への報告を行っている。

遠隔モニタリング患者数推移

メーカー名	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	新規導入	総患者数	新規導入	新規導入	総患者数	新規導入
BIOTRONIK	3	8	1	3	8	1
Medtronic	13	55	16	13	55	16
Boston Scientific	9	12	7	9	12	7
計	25	75	24	25	75	24

手術室部門では、専従技士 2 名を配属している。医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト／シェアの推進において法改正により臨床工学技士業務が追加された。既免許取得者においては厚生労働大臣が指定する研修の修了をもって新たな業務を臨床現場で実践することが可能となる。手術室で業務する臨床工学技士 2 名は 2023 年度まででこの研修を修了しており、内視鏡下手術のスコープオペレータ業務を開始した。技術は厚生労働大臣が指定する実技研修で習得することが出来るが、求められるカメラワークは医師ごとに異なるため、術中に直接指導を頂きながら実施している。

内視鏡部門では、専従技士 2 名を配属している。新しい人材確保に難渋しており 2023 年度も他部門の技士をリリーフに派遣したり医師をはじめとする多職種の方々のお力添えを頂き内視鏡検査及び治療の補助、機器の使用前後の点検・定期点検などの保守管理を行っている。

15. 栄養治療部活動報告

主任 神原淑恵

2023 年度も感染対策を念頭に業務に関わり、栄養面、食事面で感染予防に努めました。

栄養指導総数は 2022 年度と比較し入院対象数が増加した実績でした（下表参照）。心臓疾患患者の増加に伴い、TQC の取り組みとして指導ツールで使用していた日本高血圧学会の塩分チェックシートを改良したことも心臓食の指導件数増加に繋がりました。

栄養面では入院者には入院時早期に食事調整を行い、個々に合った必要栄養量が確保できるよう介入、定期的に栄養評価を実施し病態の改善に注力しました。病棟カンファレンスでは療養の方向性に添った食事を提起し、外来との連携を密にして参りました。2023 年度から認知ケアチームにも参加しています。産後ケア食に関しては、食事は 15 時捕食を提供し産後授乳期の必要栄養量が充足できるよう内容を高め、色彩や盛り付けにも配慮致しました。情報は HP や Instagram「ウイメンズ LOVE」で紹介しています。エンゲ調整食では、日本摂食エンゲリハビリテーション学会の嚥下調整分類に合わせて食種を調整したことで、エンゲ状態に合わせた食事提供が可能となりました。当院の嚥下調整分類は HP に掲載しています。入院患者さんへは定期的に嗜好調査を実施し、食事内容や調理の工夫を行い満足度と喫食量向上に努めました。

対外的な活動としては、糖尿病週間イベントの一環として西条農業高校で健康フェスティバルを実施しました。1日の野菜量をクイズ化しバランス食の必要性を啓蒙した内容で、好評を得ました。当院での健康フェスティバルでは、栄養部門として腸内環境を整える情報提供をさせて頂きました。

2024 年度も栄養バランスの良い安全な食事の提供を実施し、療養指導では病態改善を主目として取り組みます。

栄養指導件数

	2019 年度		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
病態										
糖尿病	96	59	124	98	104	55	56	40	65	40
腎臓病	47	13	65	18	39	7	37	13	37	13
心臓病	159	4	215	15	121	8	116	3	151	5
高血圧症	23	1	26	2	14	5	15	6	17	4
脂質異常症	1	17	6	11	2	11	2	22	0	24
胃潰瘍	11	0	13	0	12	0	17	0	13	0
その他（肥満等）	48	13	66	10	56	1	96	15	128	12
糖尿病透析予防 （指導）		49		35		20		8		6

16. 患者支援センター活動報告

院長・患者支援センター長 風谷幸男

患者支援センターは入院から退院までをシームレスに行なうことを目的に2016年4月に設置した。地域医療連携室、医療相談室、入退院支援室の3つの部門で構成されており、医療機関との連携から入院説明等、さらに退院支援を画一的に実施している。

【スタッフ構成】

- ・風谷幸男(院長、患者支援センター長)
- ・上田雄二(患者支援センター長補佐)

看護師

- ・千羽由恵(看護師長)
- ・黒川 優(看護主任)
- ・檜垣純代
- ・佐々木麻由
- ・後藤麻里

医療ソーシャルワーカー

- ・松尾聡志(地域医療連携室 兼 医療相談室主任)
- ・戒田有理子
- ・御手洗莉菜

事務員

- ・藤縄未春
- ・一色恵美子

(1) 地域医療連携室

主任 松尾聡志

【運営方針】

地域医療連携室は、基本理念である「地域社会への奉仕の精神」に基づき地域の医療機関や保健・福祉施設等との協力と連携を深め、地域の皆様に親しまれ信頼される病院を目指す。

【業務内容】

- ・他医療機関からの紹介患者窓口
- ・他医療機関へ紹介するときの窓口(FAX 予約など)
- ・セカンドオピニオンに関する相談や事務処理
- ・救急車の受入れに関する窓口
- ・紹介状や返書の管理
- ・広報活動
- ・医療機関の情報更新
- ・緊急搬送を伴う患者紹介の連絡調整
- ・他医療機関との連携

【2023 年度実績】

[紹介患者数、救急車搬送患者数、逆紹介数、紹介率、逆紹介率]

	2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均
文書による紹介患者数 ※逆紹介を除く	2,342	195	2,443	204	2,497	208	2,707	225
救急車搬送患者数	1,151	96	1,246	104	1,678	140	1,759	146
初診患者数	8,075	673	9,712	809	12,947	1,079	13,382	1,115
紹介率	43.3%	43.3%	38.0%	38.0%	32.2%	32.2%	33.4%	33.4%
虐待紹介患者数	2,350	196	2,490	208	2,818	235	3,152	263
逆紹介率	29.1%	29.1%	25.6%	25.6%	21.8%	21.8%	23.6%	23.6%

紹介率 = (文書による紹介患者数 + 救急患者数) ÷ 初診の患者数 × 100

逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診の患者数 × 100

救急患者数 = 救急車の受入数

【今後の展望】

当院の強みを理解し、地域のニーズや役割に応じた医療を提供するため、逆紹介の体制を充実させることや紹介患者を迅速に受け入れることを強化することが課題である。

今後も、当院の「地域医療を支える」というテーマからも他医療機関との連携を進め深めていくことは必須であり、その部分に対して地域医療連携室として様々なネットワークを構築することが求められる。

(2) 医療相談室

主任 松尾聡志

【運営方針】

医療ソーシャルワーカーは、入院・入院外を問わず、生活と傷病の状況から生ずる心理的・社会的問題の予防や早期の対応を行うため、社会福祉の専門的知識及び技術に基づき、これらの諸問題を予測し、患者やその家族からの相談に応じ、解決・調整に必要な援助を行う。

【業務内容】

- ・介護保険の相談や申請に関すること
- ・医療費に関する相談
- ・難病・小児慢性特定疾患に関すること
- ・身体障害者手帳・障害年金に関すること
- ・自立支援医療(更正医療・精神通院公費負担・育成医療)に関すること
- ・退院後の援助に関すること
- ・役所・他施設との連携など
- ・転院相談に関する連絡調整など
- ・在宅医療機器に関する連絡など
- ・介護保険主治医意見書等の書類管理や請求に関すること
- ・緊急搬送を伴う患者紹介の連絡調整

【今後の展望】

多職種カンファレンスの実施を必要に応じて行ってきた。そのため相談件数に変化はないが、退院相談や療養上の問題が増えた傾向であった。これからも相談内容を個別化し、退院支援や施設入所支援、転院調整など患者さんの状態やニーズに応じて、在宅・施設担当者や他関係機関との連携を図っていく。

（３）入退院支援室

看護師長 千羽由恵

【運営方針】

病床を中央管理することで病床の効率的な運用を図り患者さんの流れを向上させる。

入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、一人一人の状況を身体的、社会的、精神的背景も含めしっかりと把握し、入院中から退院後も見据えた一貫した支援を実現する。

【業務内容】

[病床管理]

- ・予約、予約外を問わず全入院状況を把握し効率的な病床の利用を行う。
- ・急性期病床、地域包括ケア病床、障害者病床の機能に合わせ適切な病床選択を行う。

[入院支援]

- ・入院時患者受け入れ業務を行う。
- ・入院に必要な患者情報収集と入院に関連した説明と同意を円滑に行う。

[療養支援]

- ・医療介護に関する相談や調整。
- ・退院後の生活介護に関する支援。
- ・療養中の諸問題に関する相談。
- ・社会資源の活用に関する相談。
- ・他院受診・転院が円滑に行われるよう調整する。
- ・行政・介護保険施設などとの連携調整を行う。

【2023 年度実績】

[入退院支援加算、総合機能評価加算、入院時支援加算]

2023 年度前半はスタッフ減少に伴い、入院時支援加算 2 の算定が出来ない状況であったが、後半は増員により再び算定が可能となった。また、医療ソーシャルワーカー増員により入退院支援加算 1、総合機能評価加算の算定件数も増加した。

2023 年入退院に関わる加算算定件数

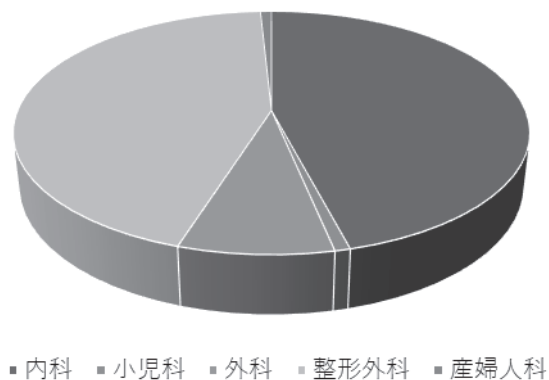
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
入退院支援加算 1	989	1,110	1,020	762
総合機能評価加算	860	1,019	908	682
入院時支援加算 2	321	389	304	22

[転院患者]

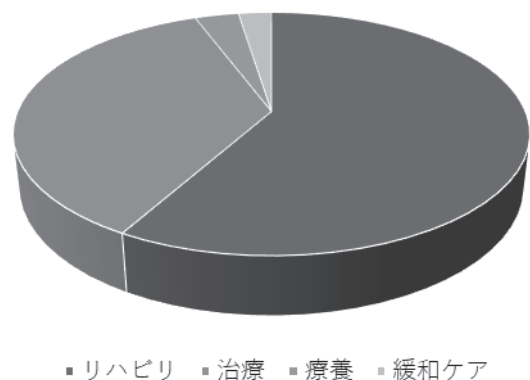
2023 年度は、転院相談件数 147 件に対して 122 件の受け入れができた。整形外科手術後のリハビリ目的での転院が大多数を占めている。緩和ケア目的での転院依頼もあり、住み慣れた場所で療養が受けられるよう地域の病院としての役割を果たす必要があると感じている。

新型コロナ感染症が第5類感染症となるまでは、地域包括ケア病床が減床しており、転院相談に対する受け入れ病床確保に難渋する時期もあったが、10月以降は地域包括ケア病床も57床に増床したため早期に受け入れが可能となった。

受け入れ 診療科別
(2023年度)



受け入れ 目的別
(2023年度)



[入院支援]

2023年度は、緊急入院（時間内）患者に対しても入院時説明・アナムネーゼ聴取を実施した。実施にあたり看護師のみでは対応が難しいため、ケアスタッフや事務員へ業務をタスクシフトし業務が円滑に行えるようにした。緊急入院患者に対し入退院支援室看護師が介入することで、病棟看護師の入院業務に係る負担軽減につながったのではないだろうか。緊急入院時にも入院時から患者・家族と関わることで入院前の生活状況等を把握することができ、必要に応じて早期に他職種へ介入を依頼することができた。また、入院前の生活状況や退院後の意向等を多職種で共有できるよう電子カルテを活用している。

【今後の展望】

2023年度は入院支援業務に重点をおき業務を行ったが、退院支援に対する介入が不十分であった。入院時に得た生活状況や今後の意向に関する情報を活かし、自分たちが退院支援の中心となり活動していきたいと考える。

17. リハビリセンター活動報告

技士長 田中伸二

理学療法士 16 名・作業療法士 8 名・言語聴覚士 3 名（2024 年 3 月 31 日現在）体制で業務を行っている。2023 年度においても感染対策を徹底し、covid-19 患者へのリハビリテーションを行い、退院支援を担った。急性期病棟では、昨年同様に第 1・3・5 土曜休診日に早期からのリハビリテーションを実施した。今後は、日曜祝日を含めた 365 日リハビリテーション提供体制の構築を目指し、入院早期からのシームレスなリハビリテーションの提供に努めたい。

図 1. 2023 年度入院診療科別リハビリテーション患者数

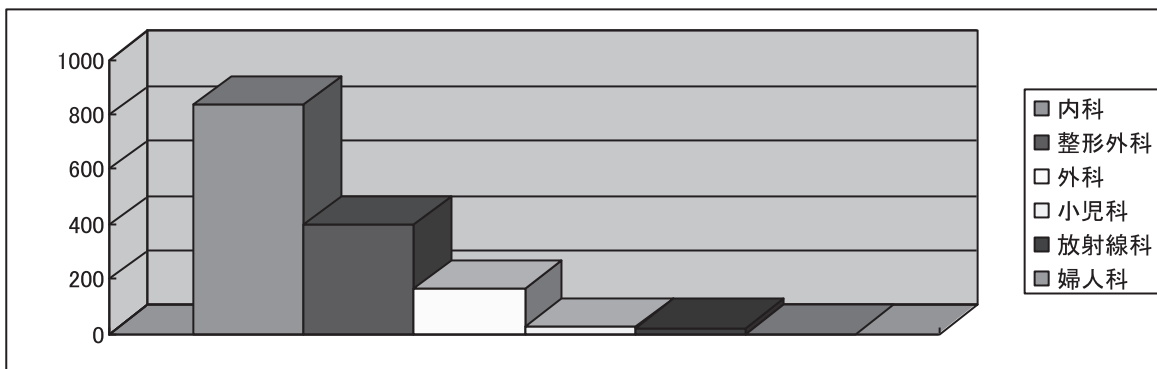


図 2. 2023 年度入院疾患別リハビリテーション患者数

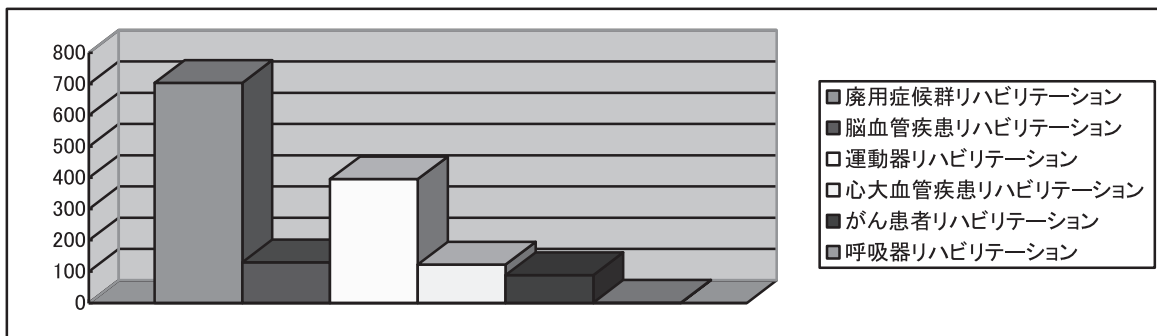


図 3. 2023 年疾患別リハビリテーション延単位数

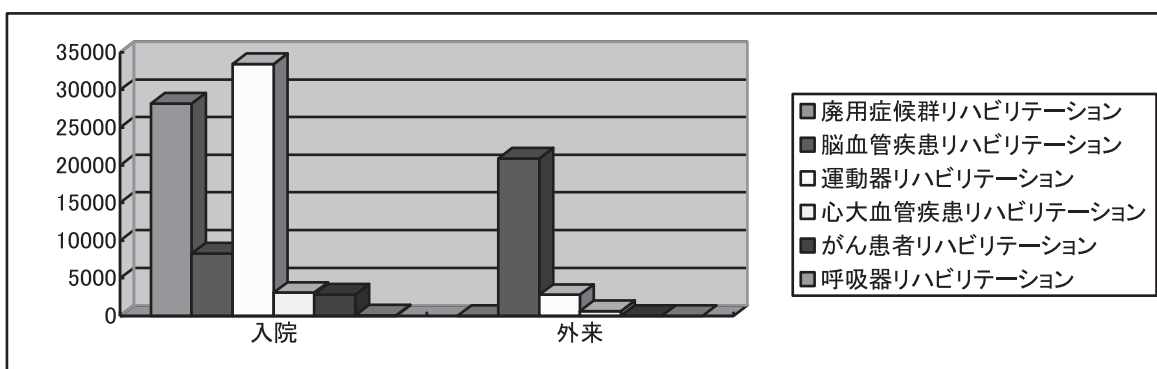


表 1. 2023 年度訪問リハビリテーション延単位数（介護保険分）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
118	128	154	122	170	162	168	152	166	152	140	167

18. 通所リハビリテーション活動報告

施設管理者代行 目見田馨太

新型コロナウイルスが国内で初めて確認されたのは2020年1月であり、その後、同年3月には感染拡大を受けて高齢者介護分野への影響も強まった。当事業所でも介護現場での危機感を抱いた。

介護実践現場では、入浴時など決して広くはない施設内での介護が中心であるとともに職員と高齢者が「多対多」で混在することが多い。また、介護において身体的接触は避けることはできず、認知機能やコミュニケーション能力に支障のある高齢者自身が感染対策を自ら講じることも難しい実情にある。

そのような状況下で2021年1月4日に新型コロナウイルス感染症対応について検討を行った。内容は、年末年始に利用者が県外から帰省した家族と接触があった場合、病院の基準にしたがい感染対策室との連携を図りながら、通所リハビリの利用は14日間控えてもらうかどうか検討した。

75歳男性…迎え時「1月2日に宮城県の孫と会った。」と本人。コロナウイルス感染拡大地域の為、2週間中止してもらうことを本人、家族、ケアマネージャに伝え了承してもらった。

84歳男性…家人より「広島から娘婿が帰ってきていたが、今朝帰りました。」と連絡あり。コロナウイルス感染拡大地域の為2週間利用を控えてもらうことを家族、ケアマネージャに伝え了承してもらった。

75歳男性は、2週間食欲不振で不活発だったことで体重2kg減少して下肢筋力・歩行速度・バランス能力低下が認められた。腰痛・姿勢悪化によりT字杖歩行付き添いレベルから歩行補助具を使用しでの歩行となり力が衰えた。その後、リハビリなどによりT字杖歩行へ戻すことが出来た。

84歳男性は、歩行状態やADL面での大きな変化はなかったが、自席での積極的な会話が少なくなる等のコミュニケーション面や認知面での低下が認められた。当事業所では、2022年11月よりPT2名と健康運動指導士1名が学習支援者となり音読や計算をする公文学習療法を取り入れている。学習者と支援者が対面で笑顔で楽しくコミュニケーションをとりながら、できたことを認めてほめることを心がけており、これが高齢者の「自信、意欲、誇り」を引き出す「スイッチ」になっている。

事業所の営業中止や介護サービスの縮小等は、要介護高齢者・その家族への影響も生じる。心身機能の維持・改善を損なうリスクがあるため、今後も感染拡大防止やこれらの取り組みを継続していきたい。

19. 居宅介護支援事業所活動報告

所長 真鍋万里子

2023年度は、2024年の介護保険法改正に向けて準備をおこなうことが出来た。2023年の目標にしていたBCP作成においては事業所のマニュアルを作成し、利用者ごとの情報整理に努めた。また業務効率化については、利用しているソフトの利用方法の見直しや、紙ベースで保管していた資料をデータとして保存するようにした。研修については西条市介護支援専門員連絡会を通じて研修に参加することが出来た。他事業所との事例検討会も継続して行っており、次年度も開催する予定にしている。

西条市の活動として介護保険課 介護総務担当者と居宅介護支援事業所を対象にケアプラン点検を実施できた。2023年12月西条市介護保険課から実地指導を受け、運営規程の見直しやケアマネジメントの振り返りが出来た。

【2024年度居宅介護支援事業所目標】

- ◎BCP：利用者ごとの台帳整理の見直しが出来る
- ◎マニュアルの見直し
- ◎研修参加

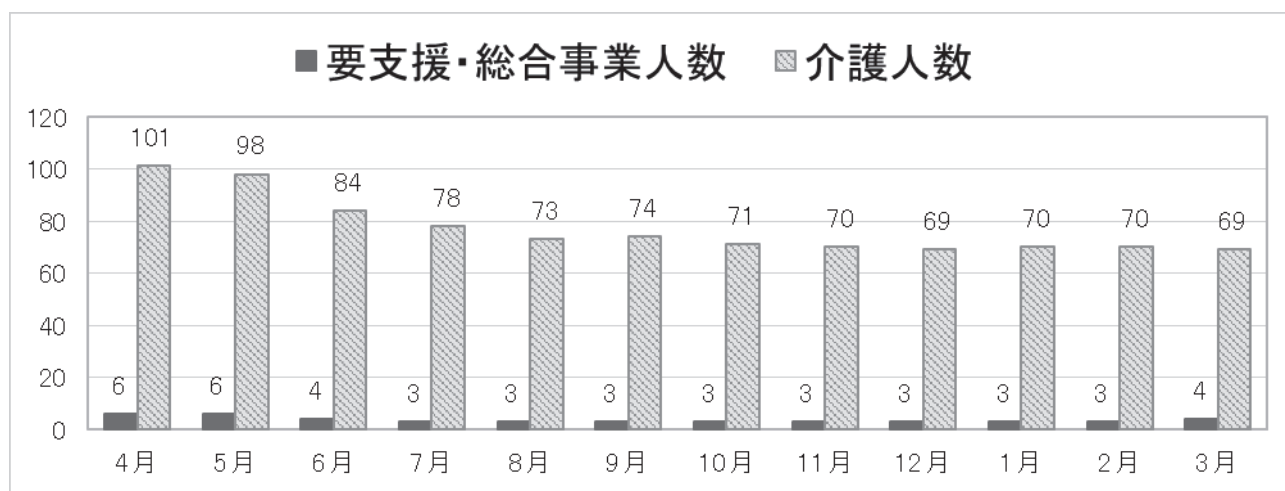
【次年度の取り組み】

業務効率化の意識をもって日々の業務に取り組み、利用者1人1人に丁寧にむきあっていききたい。

表1. 居宅介護支援実績件数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
要支援・総合事業	221	174	149	90	40
要介護者	1,557	1,491	1,429	1,291	908
合計（件数）	1,778	1,665	1,578	1,381	952

図1. 2023年度 居宅介護支援月別件



20. 訪問看護ステーション活動報告

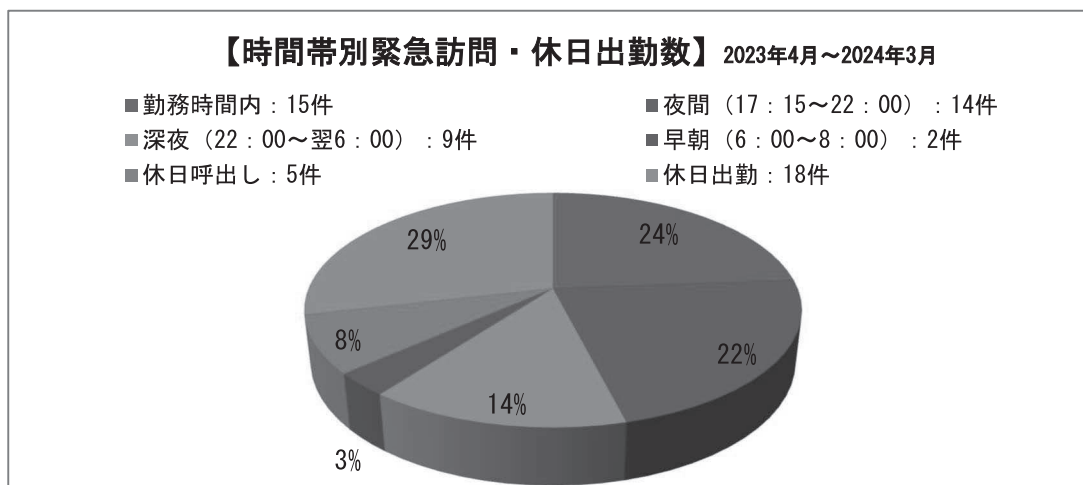
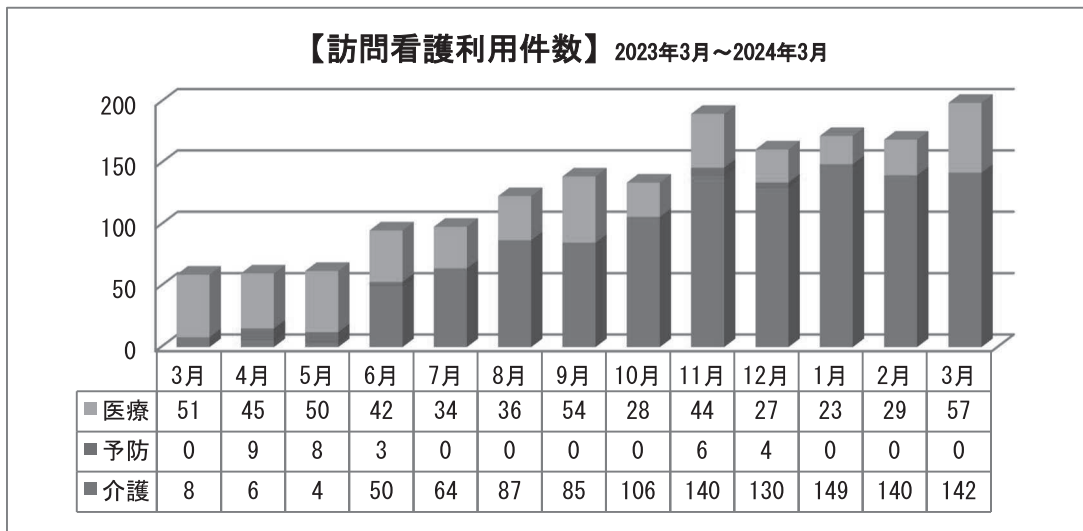
管理者 山城百合子

訪問看護ステーションは2022年の診療報酬改定に基づいて設立され、3月で1年が経過した。2023年度は、安定した利用者の確保とステーションの整備、個々の能力向上を目標に、選ばれるステーションを目指し取り組んできた。

3名の看護師で利用者の体調管理や保清の維持、褥瘡処置等24時間体制で緊急対応を行い、在宅看取りも行った。利用者が増すにつれ、休日出勤や緊急訪問回数が増え、業務改善が必要となった。そこで利用者へ安定供給するため、病院カレンダー勤務から122日指定休へと変更し、スタッフの休日確保と、利用者への祝日対応が可能となり、安定した訪問看護の提供が可能となった。

利用者増加の背景には、住み慣れた自宅で過ごしたいと望む利用者とそのご家族の気持ちに寄り添った看護を提供し、各事業所や医療機関と情報交換を行う中で、関係性を築くことができ、西条中央病院訪問看護ステーションの存在を広く知っていただく機会になっていったことがあげられる。

また、実績数の増加に伴って、訪問看護体制強化加算Ⅱの算定要件を満たすことに実現し、3月より算定可能となっている。



【今後の課題】

2024年の診療報酬改定は医療と介護の同時改定となり、加算算定の要件も複雑化している。正確な加算の知識と現在算定中の加算要件を満たすこと、安定した利用者の確保と維持が必要である。

まずは、スタッフ一人一人の心と体が健康で、より良い看護の提供ができること、個々が個々能力や良さを発揮し、やりがいをもって働ける環境の整備を行うことが、利用者やその家族とのより良い関係性を築き、満足のいく訪問看護を提供することができると思う。

2 1. 医療安全管理室活動報告

室長 佐伯京子

① 活動実績

- 4月 真空管採血開始
- 6月 ソフト珪藻土バスマットに変更
- 8月 救急車に設置する人工呼吸器用アダプター導入
- 9月 未登録医薬品（一部）に注意喚起の札を設置
- 10月 針捨てBOXの蓋閉め方についてニュースレター作成
- 10月 院内安全巡視
- 10月 医療安全管理マニュアル改訂
- 11月 医療安全ケイタイマニュアル第7版発行
- 12月 エコー室に酸素チューブとコネクターを常時設置
- 2月 内視鏡、鎮静薬使用後の観察テンプレート作成、実施
- 3月 インシデント報告書の電子カルテ入力システム開始
- 通年 医療安全情報の配信、部署ラウンド、相談業務、事故事例に対する指導・再発防止対策の検討、メディエーションなどを実施

医療安全対策地域連携会議・相互評価

- 8月4日 西条中央病院
- 8月24日 HITO病院
- 9月28日 村上記念病院 各病院の現状と課題について意見交換を行う

② 医療安全講習会（全職員対象）実績

- 6月 基礎から学ぶ医療安全
 - eラーニング講師：原田賢治氏 参加者 416名（参加率 96.7%）
- 9月 チーム力を上げる！多職種で取り組む医療安全
 - eラーニング講師：松村由美氏 参加者 411名（参加率 96.9%）

③ 院内医療メディエーション実績

日本医療メディエーター協会が認定する当院の院内医療メディエーター資格者
<2023年3月現在> 院内医療メディエーター数：合計 45名

◇医療メディエーターA 看護部：田坂嘉子（看護部長）

◇医療メディエーターB

医 局：高田泰治（名誉院長）、小野仁志（副院長）、太宰康伸（内科医師）

中村真胤（循環器内科部長）

看 護 部：宮崎里美（看護部長補佐）、村上笑子（看護副部長）、高橋直子（看護師長）、

佐伯京子（医療安全管理室長）、森賀千夏（看護師長）、丹 友美（看護師長）

中山亜里美（看護師長）、成松 綾（看護師長）、工藤直美（看護師長）、渡部昭子（看護師長）

千場美保子（看護師長）、菊池弘子（看護師長）、越智加奈子（看護師長）

千羽由恵（看護師長）、大久保美喜（看護師長）、木藤美由貴（看護師長）

尾崎久美（看護主任）、佐藤美代子（看護主任）、山本千春（看護主任）

金子真智子（看護主任）、弓山寿恵（看護主任）、黒川 優（看護主任）、柴山真理（看護主任）

國田朋美（看護主任）、島本千代美（看護師）、越智公美（助産師）、寺町浩子（看護師）

佐々木麻由（看護師）、青野裕美（准看護師）、横井美帆（看護師）、牧野真由美（看護師）
日野充嵩（看護主任）、伊藤敬（看護師長）

事務部：上田雄二（患者支援センター長補佐）、越智正志（事務員）、松尾聡志（MSW 主任）
戒田有理子（MSW）、西坂公太郎（MSW）、松本里砂（事務員）、田口泰輔（医事課主任）
御手洗莉菜（MSW）

薬剤部：近藤慎悟（薬剤部薬剤長）

臨床工学部：宮崎詩織（臨床工学部主任）、石川健仁（医療機器管理室主任）

歯科：丹光江（歯科衛生士）

障害者施設推進室：林田 聡（室長）

④ 医療安全推進週間活動（11月19日～11月25日）

各部門が取り組んでいる医療安全活動の広報

国民に理解と認識を深めるために、各部署が取り組んでいる医療安全活動について、
わかりやすい表記でポスター展示した。

ホームページ、インスタグラムでも紹介している。



看護部事故分析委員会・臨床検査部・栄養課・薬剤部・事務所・通所リハビリ・歯科・臨床工学部・健康管理センター・画像診断部・リハビリテーション科・透析センターでの取り組みをポスター掲示した。

⑤ 目標管理

*各部署のリスクマネージャーは、効果的な医療安全活動を実施するために目標を持って活動している。

部署	2023年度の目標	評価 (達成度)
臨床検査部	① 入力・ラベル間違い、思い込みにおける事故防止に取り組む ②外部事例（インシデント）を減少させる	A
栄養課	① 食事アレルギーの適正な情報収集と配膳を行う	B
薬剤部	①インシデントの減少（内部事例・外部事例ともに） ②プレアボイド報告と事例共有	B
透析センター	①透析センター全体で組織的な安全対策による管理体制の強化	A
健康管理センター	①健診実施に関する事故を減らす ②サービスの充実を図り、多様なニーズに対応する	B
医局	①インシデント・アクシデント報告を積極的に提出する	A
看護部	①アクシデントの未然防止活動の強化	B
通所リハビリ	①転倒事故予防	A
リハビリセンター	①インシデント報告件数増加 危険予測トレーニング勉強会の開催	A
医療安全管理室	①各部署からインシデント報告書の提出がある ②患者間違い事例の防止 ③看護部事故分析委員会との連携による安全対策の強化 ④再発防止策の継続実施	B
事務部	① 患者の個人情報に係るインシデントの発生を0件にする。 (患者登録、取り違え、書類作成等)	B
画像診断部	① 本人確認を行う	S
歯科	①治療中における事故（インシデント）を予防する ②治療における不安を取り除き、安全、安心な治療に努める ③歯科治療時の誤飲防止	B

S：目標を大幅に上回った A：目標達成 B：目標を少し下回った C：目標を全く達成できなかった

⑥ 評価と今後の課題

心理的安全性な環境で安全安心な医療の提供のためには、職員一人ひとりの実践が重要です。安全で効率的な業務改善につなげられるよう、職員一人ひとりが安全意識を持ち、リスク感性を高めて実践出来るように取り組み、より安全で質の高い医療を提供できるよう活動していきたい。

2.2. 新型コロナウイルス感染症

院長 風谷幸男

新型コロナウイルス感染症（コロナ）は、2019年12月初旬に中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった。わが国においては、2020年1月15日に最初の感染者が確認された後、猛威を振るい、新たな株が出現するたびに、より大きな感染拡大を繰り返している。

3年余が経過した2023年度に国はコロナ政策を大きく転換した。5月8日に国の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に変更され、病床確保料の大幅な減額に伴い、多くの医療機関が重点医療機関から外れた。さらに、9月末で重点医療機関制度が廃止され、国による病床の確保は行われなくなり、コロナ関連の医療機関に対する補助金も事実上なくなった。

当院は、行政機関からの依頼を受け、12床の即応病床を含む24床をコロナ病床に転換していた。5月8日の5類への変更を機に、重点医療機関から外れてコロナ病床を解体し、従来の病棟編成に戻すことも選択肢の一つだった。しかし、当院は重点医療機関として残ることを選択した。その理由は、4月22日に発生した院内クラスターが大クラスターになり5月に入っても終息していなかったことと、西条市ではコロナ患者の発生が依然とし高い水準にあったことに加え、重点医療機関として残りコロナ対応する方が、ベッドの確保、看護師配置や収支などの点で有利であると判断したためである。10月1日をもってコロナ病床を解体し、一機に異なる機能の病床に転換するというハードランディングを強いられることを覚悟の上で決断した。

図1に、2023年度の当院におけるコロナとインフルエンザウイルス感染症（インフルエンザ）の陽性者数の推移を示す。6月にかけて、コロナは小康状態だったが、インフルエンザB型が出始め、同時流行の様相を呈し始めた。7月に入り、コロナが急速に拡大し、第9波が到来した。少し遅れてインフルエンザも急拡大した。発熱で受診した患者に対して、当初はコロナ高感度抗原検査と高感度インフルエンザ抗原検査の2つを行い対応した。しかし、一人の患者から2本の検体採取を行わなければならない上に、検査業務が煩雑で時間がかかり検体の取り間違いのリスクもあるため、11月より同時キットであるコンボキットに変更した。変更するにあたり、コンボキットを1週間使い、その陽性率と、前の1週間のコロナ高感度抗原検査と高感度インフルエンザ抗原検査の陽性率を比較し、コンボキットに切り替えても危惧されるような診断精度の低下はないことを検証した。

第9波はオミクロン株の亜系統であるXBB株に置き換わり、大きな波になった。西条市では第9波が遷延し、西条祭りの後の10月末になり落ち着いてきたが、陽性者が絶えないまま、12月下旬より第10波に入った。第10波は第9波と同じ株が中心であったため、波の規模は第9波よりは小さかったが、年度末まで遷延した。

毎週火曜日16:00から開催している感染諮問会議は、年度末まで継続した。新入院患者のコロナ検査は、当初PCRで行っていたが、結果が出るまでに時間を要し入院が停滞するため、感染者数が少なくなった時期を見計らい、感染諮問会議の判断により高感度抗原検査に切り替え、年度末まで継続した。ワクチン接種は、西条市の依頼分を全て接種した。宿泊療養施設について、愛媛県では5類移

行に合わせて廃止された。当院は、新居浜市の宿泊療養施設（2021年7月21日から2023年3月31日）に看護師を派遣していたが、5類移行に先立ち、2022年度末で看護師の派遣を終了した。

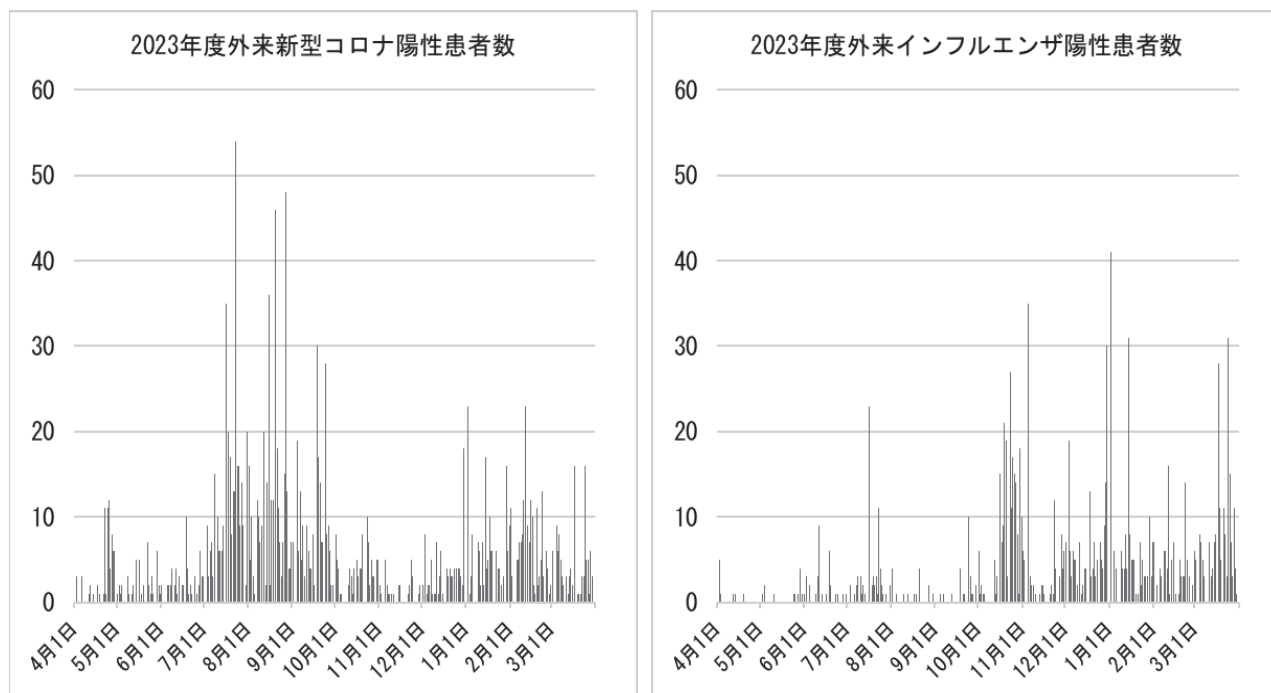
10月1日、当院は、国の重点医療機関制度の廃止に伴い、24床をあてていたコロナ病棟を解体した。コロナ禍での病床の利用状況を踏まえ、障害者病棟を93床→84床に減らし、地域包括ケア病棟を29床→57床（コロナ禍前は53床）に増やした。さらに、高度急性期4床を含む一般病床を96床→101床に増やし、アフターコロナに向けて始動した。ただ、入院を要するコロナ患者は後を絶たず、地域包括病棟に転換した旧コロナ病床の一部をコロナ患者の入院用ベッドとして使用し、コロナ入院をコロナ病床が置かれていた旧棟3階南側の通路を隔てた西寄りのエリアに集約する形を維持した。これにより、急性期医療への影響をなくすとともに、看護体制の効率化を図った。コロナ病棟廃止後もコロナ患者の入院の受け入れは続けている。

重点医療機関中、地域包括ケア病棟の減少に伴い、急性期病棟から直接自宅や施設への退院や転院する患者が増えた。これに伴い、元々短かった平均在院日数がさらに短くなり、これまで以上に高速回転する状況になった。この傾向はコロナ病棟解体後も続き、2023年度末においても、コロナ禍前とは違う入院患者の流れが続いている。

一方、インフルエンザは7月中旬から下旬にかけて急増した。その後、小康状態を経て、10月中旬以降急速に感染が拡大し、コロナを上回る日が続いた。B型中心だったが、A型も出現し、年度末まで流行が続いている。コロナとインフルエンザの同時流行は今年度の特徴の一つである。

最後に、2023年度以降のコロナ診療に関する実績を表1に示す。

(図1)



(表1)

- 発熱外来・玄関トリアージ（2020年4月～）
 - ・ 1日最大コロナ陽性者数：155名（2023年1月2月）
- 感染諮問会議の設置（2020年8月～）
- ワクチン接種（2021年4月～）
 - ・ 2021年度：40,425名 ・ 2022年度： 7,096名
 - ・ 2023年度： 5,428名
- 新型コロナ重点医療機関（2022年2月～）
 - ・ 即応病床数：7床 ⇒ 9床 ⇒ 12床
 - ・ 入院患者数
 - 2022年度：236名（院外208名、院内28名、死亡7名）
 - 2023年度：252名（院外150名、院内72名、死亡8名）

23. 院内感染対策委員会活動報告

委員長 太宰康伸

感染管理認定看護師 近藤啓司 千場美保子

① 活動実績

【2022年度のサーベイランス】

- ・中心ライン関連血流感染
感染率：1.5 (1,000 device-day) 前年より 0.3 増加
- ・尿道留置カテーテル関連尿路感染
感染率：1.9 (1,000 device-day) 前年より 0.5 増加
- ・手指衛生の直接観察報告 *目標値：1 患者 1 日あたり 8ml
使用量 9.1ml 前年より 2.8ml 増加
- ・手術部位感染 対象手術手技は 10 分類
感染率 2.9% 前年より 1%低下

【新型コロナウイルス感染症対応】

- ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関の運営マニュアル作成と周知
- ・コロナ病棟での入院受け入れ
- ・新型コロナウイルスワクチンの院内接種の運営
- ・感染者発生報告と当該部署の感染対策指導、ゾーニング
- ・S 病院棟玄関で来院者の発熱トリアージ、陽性者外来
- ・環境除菌用品の導入と手指消毒剤の変更

【その他の感染症対応】

- ・感染症法における患者発生届：肺結核 1 例、腸管出血性大腸菌 2 例、梅毒 2 例、
劇症型溶血性連鎖球菌感染症 1 例
- ・結核患者の濃厚接触者の抽出と接触者健診
- ・介護保険施設における新型コロナウイルス感染症の集団感染への対応

【感染制御チーム (ICT) カンファレンス】年間 52 回実施

【抗菌薬適正使用支援チーム (AST) カンファレンス】年間 52 回実施

抗菌薬適正使用支援チームの介入症例 140 件 (前年 147 件)

- ・介入により抗菌薬適正使用に繋がった症例 49 件 (前年 40 件)
＜抗菌薬選択の相談・提案 37 件 (29 件)、用法用量の相談・提案 15 件 (11 件) >
- ・血液細菌培養陽性者の介入 41 件 (49 件)

【感染対策向上加算 1・1 地域連携 相互ラウンド評価】

2月6日 西条中央病院開催 (住友別子病院による評価)

2月13日 住友別子病院開催 (西条中央病院による評価)

【感染対策向上加算 1・2・3・外来地域連携 カンファレンス】

連携医療機関：西条市保健所、西条市医師会、済生会西条病院、村上記念病院、共立病院、横山病院、渡部病院、あおのクリニック、黒田医院、坂根医院、篠原内科外科耳鼻科、田淵外科、中村医院、松永耳鼻咽喉科、松本クリニック、宮島小児科医院、和田内科皮膚科、秋山医院、いしづちやまクリニック、伊藤医院、サカタ産婦人科、高橋こどもクリニック、土岐医院、福田医院、弁財天耳鼻咽喉科クリニック、じょうとく内科クリニック、松田循環器内科、森内科、矢野外科胃腸科医院

- 5月26日 第1回西条市感染対策連携カンファレンス（済生会西条病院にて開催）
- 8月18日 第2回西条市感染対策連携カンファレンス（西条中央病院にて開催）
- 12月14日 第3回西条市感染対策連携カンファレンス（済生会西条病院にて開催）
- 1月26日 第4回西条市感染対策連携カンファレンス（西条中央病院にて開催）

【指導強化加算 活動実績】

- 10月25日 西条市急患センター 『防護用具の着脱について』
- 10月26日 渡部病院 『施設内ラウンド』
- 11月7日 村上記念病院 『感染に関する研修』
- 11月14日 村上記念病院 『感染に関する研修』
- 11月28日 村上記念病院 『施設内ラウンド』
- 1月17日 松本クリニック 『防護用具の着脱について』

② 院内研修実績

【院内感染対策講習会】

- ・7月：『学び直しの標準予防策（スタンダードプリコーション）』
講師：学研メディカルサポート e-ラーニング 参加者 415名（参加率 97.2%）
- ・1月：『感染経路別予防策をおさらい～もしもに備えるアウトブレイク対策～』
講師：学研メディカルサポート e-ラーニング 参加者 420名（参加率 97.2%）

【抗菌薬適正使用に関する研修】

- ・6月：『バンコマイシンにおける TDM の新時代到来』
講師：日本化学療法学会 参加者 231名（参加率 96.7%）
- ・10月：『抗菌薬適正使用と AMR 対策アクションプラン』
講師：八木哲也 参加者 234名（参加率 96.3%）

【その他の研修】

- ・4月：新採用者研修 『感染対策の基本』『廃棄物の処理方法』
- ・5月～2月：中途採用者研修 『感染対策の基本』
- ・2月：委託職員研修 『医療関連感染対策の基本』
- ・2月：ケアスタッフ研修 『院内感染予防と環境整備』

③ 評価と今後の課題

2023年度は、感染対策向上加算1の算定要件である抗菌薬適正使用支援チーム（AST）感染制御チーム（ICT）の活動を継続して行うことができた。ASTにおいては、薬剤師へのコンサルテーションのしくみが定着し、介入症例と抗菌薬選択・用法用量の提案により抗菌薬適正使用に繋がる症例が増加している。高齢者の肺炎や尿路感染などの感染症が増加し、抗菌薬を使用する頻度が多くなったことが増加の要因と考えられる。臨床検査技師からの各種細菌培養の途中経過や結果報告など速やかに主治医へ報告する体制も定着し、医療関連感染の原因となるMRSAやESBL産生菌などの薬剤耐性菌を認めた場合は、感受性のある抗菌薬変更も、臨床検査技師より主治医へ提案し、早期治療へつながっている。

2023年度も感染対策向上加算1の医療機関として、済生会西条病院と共同で西条市感染防止対策連携カンファレンスを主催し、西条市内の29の医療機関と連携を図ることができた。カンファレンスでは、手指消毒薬の使用状況や抗菌薬適正使用の状況を共有するほか、薬剤師による抗菌薬適正使用に関するアドバイス、その他の感染対策についての情報共有、新型インフルエンザ等対策訓練を実施することができた。また、市内の医療機関や診療所の要請に応じて感染対策に関

する研修を実施し、地域の感染防止対策の一助となった。次年度以降もカンファレンスの充実を図り、地域の医療機関との連携を強化し、感染対策の水準を向上させていきたい。2024年度の診療報酬改定では、感染対策向上加算1の算定要件に介護保険施設との連携の推進が求められるようになった。連携を協定した施設への感染対策の助言・指導を行い、地域の介護現場における感染対策の底上げにも貢献していきたい。

2023年度の感染対策サーベイランスでは、尿道留置カテーテル関連尿路感染について慢性期病棟のリンクナースが中心となり、不要なカテーテルが抜去できないかを検討し、抜去に繋がる事例が増えた。その結果、尿道留置カテーテル関連尿路感染の発生数が減少した。今後も、現場のリンクナースの活動を支援し、さらなる感染率の低減を目指していきたい。また、中心ライン血流感染では急性期病棟での発生率が増加した。緊急の処置による対策の実施が不十分なことが要因と考えられ、マキシマルバリアプリコーションの実施状況を確認するチェックリストを作成し、スタッフの意識付けを図った。慢性期病棟の血流感染は、同一患者によるもので長期留置が必要な患者であった。スタッフの手指衛生の遵守やハブの消毒など管理が不十分なことが問題と考えられ、感染管理認定看護師による手指衛生の直接観察を行い、結果をフィードバックするとともに改善策の指導を行った。今後も手指衛生をはじめとする標準予防策の遵守と感染経路別予防策が実施できるよう、現場での指導を継続していきたい。また、療養環境が整備されるようリンクナースの活動を支援していきたい。

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類へ移行となり、対応マニュアルの改訂を行った。しかし、医療従事者と入院患者から新型コロナウイルス感染者が集団発生し、ゾーニングや職員教育などの対策に追われることもあった。感染予防対策は平時から行うことが重要であり、院内の感染予防対策の強化に向けて今後も各部署のリンクスタッフとともに、手指衛生の遵守、個人防護具の適切な着脱、職員の体調管理など基本的な感染対策の周知を図り、感染対策の質の向上に努めていきたい。また、新興感染症の発生に備えて病床確保の協定を結び、第一種協定指定医療機関となった。今までの第二種感染症指定医療機関としての役割に加え、新たな役割が求められるようになり、新興感染症の発生時にスムーズな対応ができるよう訓練の実施など他の医療機関や行政と連携して地域の感染対策の水準を向上させていきたい。

24. 教育研修実績

氏名	月日	行先	要件
大西修平	4/5	東温市	研修医合同オリエンテーション
吉岡侑思	4/5	東温市	研修医合同オリエンテーション
伊藤 敬	4/8-4/9	松山市	令和5年度医療コンフリクトマネジメント研修会
二宮克彦	4/12-4/16	神奈川県	日本放射線学会総会
吉松卓治	4/14-4/16	東京都	第126回日本小児科学会学術集会
小池大作	4/13-4/15	神奈川県	第79回日本放射線技術学会総会学術大会
入田 純	4/21	Web	第120回日本内科学会総会
太宰康伸	4/21-4/23	Web	第31回日本医学会総会2023東京
渡部祐司	4/26-4/28	東京都	第123回日本外科学会定期学術集会
佐藤元通	4/27-8/31	Web	第123回日本外科学会定期学術集会
石戸 健	4/28-4/30	Web	第97回日本感染症学会総会学術講演会&第71回日本化学療法学会学術集会 合同会
村上雅博	5/12-5/14	Web	第75回日本産科婦人科学会学術講演会
石川智子	5/12-28	松山市	主任介護支援専門員更新研修
佐藤元通	5/13-6/30	Web	第50回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会
塩崎明帆	5/19-5/21	Web	第72回日本口腔衛生学会令和の健口戦略「防ぎ守る」
小野直美	5/19-10/6	松山市	認定看護管理者教育課程ファーストレベル
田口泰輔	5/20-5/21	松山市	医療コンフリクトマネジメント研修会
吉田 望	5/23-5/29	Web	第75回日本産科婦人科学会学術講演会
越智香織	6/1-7/3	Web	日本麻酔科学会 第70回学術集会
上原英梨子	6/1-7/3	Web	日本麻酔科学会 第70回学術集会
石川亜希美	6/1-8/31	Web	23' 「重症度・医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修
矢野千代美	6/1-8/31	Web	23' 「重症度・医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修
近藤和美	6/1-8/31	Web	23' 「重症度・医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修
中矢雄一郎	6/3-6/4	松山市	第122回日本循環器学会中国四国合同地方会
入田 純	6/4	松山市	第122回日本循環器学会中国四国地方会
佐藤元通	6/15-7/31	Web	第35回日本内分泌外科学会総会
石川健仁	6/17-6/18	兵庫県神戸市	第68回日本透析医学会 学術集会・総会
宮崎詩織	6/17-6/18	兵庫県神戸市	第68回日本透析医学会 学術集会・総会
高橋彩音	6/20-12/13	松山市・今治市	令和5年度訪問看護師養成基礎講習会
森賀千夏	6/22-6/24	神奈川県横浜市	第25回日本医療マネジメント学会学術総会
宮崎里美	6/22-6/24	神奈川県横浜市	第25回日本医療マネジメント学会学術総会
田坂嘉子	6/22-6/24	神奈川県横浜市	第25回日本医療マネジメント学会学術総会
山城百合子	6/24	松山市	～令和6年度の同時改定に向けて～介護・診療報酬制度について理解を深める
吉松卓治	6/24-6/25	愛知県名古屋市	第34回日本小児科医会総会フォーラムinあいち
図子雄基	6/26-7/31	Web	第48回日本超音波検査学会学術集会
山城百合子	6/29	松山市	*事業継続計画BCP作成状況と作成のポイントを学ぶ～グループワークと作成事業所からの作成の事例報告～
今西健斗	7/1	高知県高知市	キッズバリアフリーフェスティバル2023
伊藤好江	7/2	新居浜市	赤ちゃん人形による抱っこ体験・子育て相談
福田高彦	7/3-17	Web	2023年度日本リハビリテーション医学会認定臨床医資格講習会
北風浩平	7/7-7/8	東京都大田区	第34回日本運動器科学会学術大会
小鶴結菜	7/11-7/12	大洲市	心エコー研修

内藤宏貴	7/11-7/13	北海道函館市	第78回日本消化器外科学会総会
佐伯敏雄	7/13-7/14	東京都	国際モダンホスピタルショウ2023
日和佐 建	7/14-7/16	横浜市	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
鈴木亮佑	7/15-7/16	Web	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
児島加代子	7/15-7/16	Web	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
近藤慎悟	7/15-7/17	徳島県徳島市	第63回薬学教育者ワークショップ 中国・四国in徳島
松本沙夜香	7/16	Web	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
藤岡知可	7/19-2/7	松山市	新人看護職員研修「実地指導者研修」
一色晶子	7/19-2/7	松山市	新人看護職員研修「実地指導者研修」
村上佳帆	7/19-2/7	松山市	新人看護職員研修「実地指導者研修」
中矢雄一郎	7/22-7/23	高知県高知市	第128回日本内科学会四国地方会
松尾聡志	7/22-7/23	今治市	2023年度社会福祉士実習指導者講習会
日野允嵩	7/22-7/23	松山市	令和5年度医療コンフリクトマネジメント研修会
石井里奈	7/25-7/26	大洲市	心エコー研修
西坂恵美子	7/27-7/29	東京都	病院中堅職員育成研修 医事管理コース
佐伯敏雄	7/28	Web	全国病院経営管理学会「7月研修会」
黒川 優	8/1-2/9	松山市	新人看護職員研修「教育担当者研修」
上原英梨子	8/3	Web	第28回日本緩和医療学会学術大会
風谷幸男	8/3-8/5	福岡市	第31回日本心血管インターベンション治療学会
藤原英二	8/4-8/5	東京都千代田区	心アミロイドーシスの画像診断
越智香織	8/5-8/6	東温市	令和5年度愛媛大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医講習会
中村真胤	8/5-8/6	福岡県福岡市	第31回日本インターベンション治療学会
秦 佑一	8/5-8/6	福岡県福岡市	第31回日本インターベンション治療学会
日野允嵩	8/11	大洲市	愛媛ブルーランドサマーキャンプ
山城百合子	8/15-11/18	松山市	愛媛県訪問看護協議会
阿合紗菜	8/16-9/13	Web	腹部エコーマスター講座STEP1ビギナー向けセミナー
中矢雄一郎	8/19	松山市	令和5年度愛媛呼吸器循環器腎臓病医学研究会
目見田馨太	8/22-8/23	今治市	安全衛生推進者養成講習
星加禎貴	8/24	松山市	労災診療費算定実務研修会
吉田 望	8/25-8/27	広島市	第31回母乳育児シンポジウム
佐藤元通	8/25-8/26	岡山市	第84回更新講習会(日本乳がん検診精度管理中央機構)
日野愛梨	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
内藤宏貴	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
越智伸一	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
青木あゆみ	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
森 恒久	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
宮下麻佑	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
越智沙由里	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
千葉美由紀	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
野島利紗	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
飯尾千秋	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
佐々木 麗	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
大谷剛士	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
藤枝 健	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会

高橋紗耶子	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
中山亜里美	8/26	Web	愛媛クリニカルパス研究会
工藤乃里子	8/31	松山市	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修
折上知也	9/2-3	岡山市	日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会
大井未希	9/5-11/30	松山市	令和5年度保健師助産師実習指導者講習会
田村啓子	9/5-11/30	松山市	令和5年度保健師助産師実習指導者講習会
黒子大輝	9/9-10	Web	WEB臨床実習指導者講習会
石川健仁	9/9-9/10	香川県高松市	医療コンフリクトマネジメント研修会
松本里砂	9/9-9/10	香川県高松市	医療コンフリクトマネジメント研修会
風谷幸男	9/15-9/16	大阪市	第45回日本高血圧学会総会
上原英梨子	9/16-9/17	Web	日本心臓血管麻酔学会 第28回学術大会
藤田望実	9/20	松山市	フィジカルアセスメント～総合的に患者を捉える力をみにつける～
尾崎亜耶	9/20	松山市	フィジカルアセスメント～総合的に患者を捉える力をみにつける～
高橋和暉	9/20	松山市	フィジカルアセスメント～総合的に患者を捉える力をみにつける～
前野加奈	9/20	松山市	フィジカルアセスメント～総合的に患者を捉える力をみにつける～
渡部昭子	9/21-2/6	兵庫県神戸市	日本看護協会 特定行為研修
三輪田 咲	9/21-10/29	Web	2023年度版 WEB 超音波セミナー
大西達也	9/22-9/24	大阪府豊中市	臨床工学技士の追加に伴う厚生労働大臣指定による研修
周藤誠則	9/22-9/24	大阪府豊中市	臨床工学技士の追加に伴う厚生労働大臣指定による研修
矢野早苗	9/23	徳島県徳島市	徳・臨・技主催心エコー・腹部エコーハンズオンセミナー
小鶴結菜	9/23	徳島県徳島市	徳・臨・技主催心エコー・腹部エコーハンズオンセミナー
凶子雄基	9/23	東温市	令和3年厚生労働省告示第273号研修
藤枝 健	9/23	東温市	令和3年厚生労働省告示第273号研修
毛利友洋	9/23	東温市	令和3年厚生労働省告示第273号研修
大久保美喜	9/23-9/24	岡山市	日本糖尿病教育看護学会
近藤慎悟	9/28-9/30	東京都	病院中堅職員育成研修 薬剤部門管理コース
中山亜里美	9/30	今治市	日本医療マネジメント学会
青木あゆみ	9/30	今治市	日本医療マネジメント学会
千葉美由紀	9/30	今治市	日本医療マネジメント学会
藤枝 健	9/29-10/1	熊本県熊本市	第39回日本診療放射線技師学術大会
近藤慎悟	10/7-10/9	広島県福山市	第65回薬学教育者ワークショップ(中国・四国) in福山
中村真胤	10/7	岡山市	第53回日本腎臓学会西部学術大会
横井美帆	10/8	松山市	患者家族と医療者：共に支える医療～グリーンケアを通して～
今井 諒	10/11-10/12	新居浜市	普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習
西川 遥	10/13-10/15	徳島県徳島市	2023年度徳島県マンモグラフィ技術講習会
山根 純	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
矢野早苗	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
佐々木 麗	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
池田咲希	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
小鶴結菜	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
石井里奈	10/15	砥部町	愛媛県臨床検査技師会第6回タスクシフト/シェアに関する実技講習会
毛利友洋	10/19-10/21	兵庫県神戸市	CCT2023
八木宏二郎	10/19-10/21	兵庫県神戸市	CCT2023
吉本光平	10/20-10/21	兵庫県神戸市	CCT2023
岩井仁美	10/20-10/22	東京都	日本医療マネジメント協会 2023年度医師事務補助作業補助者指導者講習会 1ケル

児島加代子	10/21	Web	第60回日本臨床生理学会総会
中村真胤	10/21-10/22	東京都	2023年度院長・副院長のためのトップマネジメント研修
伊藤 敬	10/25	松山市	2023年度医療安全管理者養成研修
木藤美由貴	10/25	松山市	2023年度医療安全管理者養成犬種
中山亜里美	10/26-10/27	千葉県	日本重症心身障害学会
藤田邦香	10/26-10/28	東京都	日本病院会 2023年度 病院中堅職員育成研修 人事・労務管理コース
近藤慎悟	10/29	松山市	ねんりんピック 薬剤師による薬相談・健康相談
福田高彦	11/2-11/6	宮崎県宮崎市	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会
今村佑佳里	11/4	松山市	看護職員就業環境改善事業働き続けられる職場を目指そう～就業環境改善への取り組み～
山内美香子	11/7-11/24	Web	日本人間ドック学会
曾我奈美	11/7-11/24	Web	日本人間ドック学会
石戸 健	11/9-11/10	Web	第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会第71回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会
山崎悠貴	11/10	Web	第68回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会
宇都宮侑思	11/11	松山市	医療関係者向け虐待対応プログラム
宇都宮侑思	11/11	松山市	第11回研修医ワークショップ「医療メディエーション研修」
大西修平	11/11	松山市	医療関係者向け虐待対応プログラム
大西修平	11/11	松山市	第11回研修医ワークショップ「医療メディエーション研修」
伊藤 敬	11/14-11/15	松山市	災害支援ナース養成研修
黒川 優	11/14-11/15	松山市	災害支援ナース養成研修
吉田晴香	11/16	松山市	ファーストレベルフォローアップ
園田泰佑	11/17-11/19	香川県	第64回日本視能矯正学会
毛利志保	11/23-11/25	福岡県福岡市	第33回日本乳癌検診学会学術集会
村上笑子	11/25	松山市	看護の専門性の発揮に資するタスク・ソフト/シェアの推進
森賀千夏	11/25	松山市	看護の専門性の発揮に資するタスク・ソフト/シェアの推進
工藤直美	11/25	松山市	看護の専門性の発揮に資するタスク・ソフト/シェアの推進
山内 恵	11/25	松山市	看護の専門性の発揮に資するタスク・ソフト/シェアの推進
児島加代子	12/2	香川県	第123回日本循環器学会四国地方会
中村真胤	12/2	香川県	令和3年厚生労働省告示第273号研修
中矢雄一郎	12/2	香川県	第123回日本循環器学会四国地方会
中矢雄一郎	12/3	香川県	第129回日本内科学会四国地方会
風谷幸男	12/2	香川県	第123回日本循環器学会四国地方会
風谷幸男	12/3	香川県	第129回日本内科学会四国地方会
小鶴結菜	12/3	Web	令和5年度日臨技中四国研修会「輸血細胞治療部門研修会」
渡部祐司	12/7-12/8	神奈川県	第36回日本内視鏡外科学会
竹田治彦	12/7-12/9	横浜市	第1回日本膝関節学会
藤原栄二	12/12-12/18	Web	画像診断管理認証施設認定申請における「MRI安全運用に関する講習会」「MRI造影剤に関する講習会」
中村真胤	12/22-24	徳島県	徳島DMAT研修
大久保美喜	12/22-24	徳島県	徳島DMAT研修
佐伯勇輔	12/22-24	徳島県	徳島DMAT研修
越智正志	12/22-24	徳島県	徳島DMAT研修
越智拓弥	12/22-24	徳島県	徳島DMAT研修
佐藤元通	12/27-1/31	Web	第51回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会
岩井仁美	1/12-1/14	東京都	日本医療マネジメント協会 2023年度医師事務補助作業補助者指導者講習会 2ケル
木藤美由貴	1/13	松山市	看護管理者研修～次世代の看護管理者を育てよう!!～

大久保美喜	1/13	松山市	看護管理者研修～次世代の看護管理者を育てよう!!～
上原英梨子	1/13-1/14	松山市	令和5年度松山赤十字病院卒後臨床研修指導医講習会
秦 佑一	1/13-1/14	香川県高松市	告示研修
山城百合子	1/17	新居浜市	介護・福祉事業所のBCP事業継続計画作成支援セミナー
千場美保子	1/24	松山市	第43回愛媛看護研究会
竹田麻衣	1/24	松山市	第43回愛媛看護研究会
山内美香子	1/24	松山市	第43回愛媛看護研究会
富永恵美	1/24	松山市	第43回愛媛看護研究会
村上笑子	1/24	松山市	第43回愛媛看護研究会
越智加奈子	1/26	Web	「職場のメンタルヘルズ対策の進め方と法的な視点からの運用」
神原淑恵	1/26-2/25	Web	第27回日本病態栄養学会年次会
横井美帆	1/27	西条市	医療・介護の現場における意思決定支援の実践事例から学ぶ
御手洗莉菜	1/27-1/28	松山市	令和5年度医療コンフリクトマネジメント研修会
鈴木春枝	2/9-2/10	神奈川県横浜市	第41回日本ストマ・排泄リハビリテーション学会
工藤直美	2/12	Web	2023年度外来における在宅療養支援能力向上のための研修
弓山寿恵	2/12	Web	2024年度外来における在宅療養支援能力向上のための研修
青木あゆみ	2/12	Web	2025年度外来における在宅療養支援能力向上のための研修
島本智之	2/21-2/22	大阪	自衛消防業務講習
中村真胤	2/24	岡山県	CSL-Kurashiki2024 中国四国ライブ
小野仁志	3/8	東温市	愛媛大学臨床研修管理委員会
新居田健児	3/10	Web	第28回愛媛県理学療法士会学術集会
渡部 翔	3/10	Web	第28回愛媛県理学療法士会学術集会
大久保美喜	3/16	Web	糖尿病看護認定看護師と感染管理認定看護師のためのキャリアアップ 講座
中村真胤	3/19-4/19	Web	第88回日本循環器学会学術集会
渡部祐司	3/21-3/22	福岡県	第60回日本腹部救急医学会総会
新居田健児	3/24	Web	第37回高知県理学療法学会

25. 2023年度の出来事

(1) この1年の主要行事

2023年 4月 3日	入職式
2023年 4月 3日	2023年度新採用者研修
2023年 4月 28日	創立記念式
2023年 5月 15日	病院機能評価受診 (3rdG. ver2.0)
2023年 6月 15日	第53回評議員会
2023年 6月 27日	「コンピュータ支援整形外科の現状と西条中央病院での取り組み」 愛媛大学(整形外科) 高尾正樹教授
2023年 6月 30日	交通安全講習会
2023年 7月 3日	西条市立北中学校ジョブチャレンジ
2023年 8月 3日	西条高校職場体験
2023年 9月 6日	第68回TQC活動発表会
2023年 9月 13日	西条市立南中学校ジョブチャレンジ
2023年 9月 15日	防災訓練
2023年 9月 21日	西条市立東中学校ジョブチャレンジ
2023年 9月 27日	管理職会議
2023年 11月 9日	第139回理事会
2023年 11月 16日	第54回評議員会
2023年 11月 18日	LOVE健康フェス
2023年 11月 30日	伝達講習会
2023年 12月 7日	2023年度病院立入検査 (西条保健所)
2023年 12月 12日	人権研修会
2023年 12月 22日	院友会大抽選会
2024年 1月 4日	年始会
2024年 2月 13日	交通安全講習会
2024年 2月 21日	第69回TQC活動発表会
2024年 3月 5日	防災訓練
2024年 3月 14日	第140回理事会
2024年 3月 27日	管理職会議

(2) TQCサークル活動

1. 実施年月日 2023年9月6日（第68回TQCサークル発表会）
2. 参加サークル 6サークル
3. 成績等

	テ ー マ	サークル名	部 署	リーダー
院長賞	がん治療は多職種サポーターで応援 (がん歯るあなたを応援)	チャレンジャー	歯科	塩崎明帆
	ほぼ満点。取り組みがよくわかり、全体アクティビティがあがっている。がん診療推進連携病院を目指している当院にとって重要。着眼点が素晴らしく病院にとってもプラス。ますます充実を。			
優秀賞	塩分チェックシートの活用 ～目指せ塩分6g～	トマト	栄養課	曾根千博
	目的・方法・結果・方向性がしっかりしている。個人的には満点。高血圧は注目されており塩分6gに近づけることは重要。発表する段階で100人以上の患者が関わっている素晴らしい取り組み。			
優秀賞	あきらめないで！ ～お支払いまでの道のり～	アップルパイ	事務所	小崎郁恵
	その人ではないと気付かないことを実践してくれた。ひとつひとつは小さなことでも患者にとっては大きいこと。掲示など普段なかなか気付かないことに気付いて対応してくれた。			

1. 実施年月日 2024年2月15日（第69回TQCサークル発表会）
2. 参加サークル 6サークル
3. 成績等

	テ ー マ	サークル名	部 署	リーダー
院長賞	健診的イノベーション	MHC	健康管理センター	青木 恵
	健康管理センター：4つの課題を取り上げて、どういったプロセスなのかも明確に示していただいた。私も先日ドックを受けたが、確かに視力検査の機器が新しくなっており、変化があったと気が付いた。良い取り組みと発表であった。			
優秀賞	一人前のカテ室技師を目指して！ ～若手CE教育法の確立～	くーびー	臨床工学部	秦 佑一
	臨床工学部：教育をテーマとして取り上げていただいた。私も度々申しているが、自分を超える人を育てることが教育であると考えている。教育について真正面から取り組んでいただいたことに感銘を受けた。ゴールも明確に設定されている。ありがたい発表であった。これからも続けてください。			
優秀賞	真空採血の導入 ～針刺し事故防止へ！～	まつり	臨床検査部	三輪田 咲
	真空採血の導入を発案していただき、移行までの過程も明確に示して実行していただきました。ご苦労は色々あったと思うが、病院として前進していくきっかけになった。			

26. 表彰

永年勤続表彰

勤続40年

- ・越智公美 (助産師)

勤続30年

- ・藤田邦香 (事務員)
- ・小池大作 (診療放射線技師)
- ・千羽由恵 (看護師)
- ・加地敬治 (看護師)

勤続20年

- ・奥野理恵 (看護師)
- ・吉田晴香 (看護師)
- ・村上清志 (ケアスタッフ)
- ・越智愛 (看護師)
- ・伊藤小百合 (ケアスタッフ)

勤続10年

- ・藤田望実 (看護師)
- ・丹知春 (看護師)
- ・植木綾乃 (看護師)
- ・谷野宮幸子 (介護福祉士)
- ・松本佳実 (看護師)
- ・徳永雅之 (理学療法士)
- ・戸田恵 (看護師)
- ・毛利志保 (診療放射線技師)
- ・石戸健 (薬剤師)
- ・河野貴将 (作業療法士)
- ・藤井雅美 (看護師)
- ・児島加代子 (理学療法士)
- ・吉田望 (医師)
- ・湯山清次 (事務員)

※職員番号順



社会医療法人同心会
西条中央病院
SAIJO CENTRAL HOSPITAL

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市804番地
TEL 0897-56-0300 FAX 0897-56-0301
<https://www.saijo-c-hospital.jp>

